ゆうゆー
原作：楢山幕府
転生
エロチートな
④
邪神様

ヒュオオ…

ス…

ぐがー
ぐがー

んがっ…
あー……？
……
!?!!
どんっ!!
い…いかにも～～!!!
ん!
お命頂戴ッ
ばっ
いかにも暗殺者って感じ～～!!!!
手をクロスしてそれっぽいポーズで器用に刺してるー!!!
くそ～～眠たいのに面倒くせえ奴だな～
血が出ないのはマズイかな……
体液だから意識したら流せるか…？
ぐりっ
ぐりゅ
!!!!
出すぎッ!!!!
時間差で来おった！
摩訶不思議

貴様ァ…!!!
!!
ここが
余の寝所だと
ぎえええ
ええ……
分かった上での
狼藉か――!!!!
…アル
……!
生きて
いるのか…
生きてるよ
……すぐ
吹き飛ばすん
だな
血が
出ていた
……
体液は出そうと
思えば出せるからな
ただの人じゃないって
バレたら面倒だろ?
…それに
しても
俺なんかより
よっぽど神々しい
姿だな~
…大抵の者は
恐れるが…

俺は綺麗だと思うよ
もじ…もじ…
……
……？
この顔は…
もじ…
ちゅっ
んっ
おかえりアル
!!
ドキッ
……
うむ……
おど…
おど…
…
あれ？
キスして欲しかったわけじゃないのか？
クルト様
湯浴みの準備が整いました
まずそちらをご利用ください

ア…アルも一緒に入るのか…
ガポーーーーん
……
……
アルの前で変な態度とって機嫌悪くさせたからなんかちょっとだけ気まずいような…
さっきのキスも失敗だったかな…
チラッ
……
本当に…どこにも傷はないんだな
大体俺が何をされても死なないのはアルもよく知ってるだろ？
…見ての通りだけど…
ザー
……そうだが…
そんなに血に動揺したのか？
……
この魔王様が？

…クルト
どこにも…行かないな
ん？
ここにいるな？……
特に出ていく必要がないなら
ここにいるけど…どうした？
…怒らせたからいなくなってるかもしれないと思って…
早めに切り上げて戻ってくれば…侵入者は来ているし…
……
余のせいで…怒らせて……危ない目にも合わせてしまって
……
でも…後宮には渡らねばならぬし
…やっぱさっきの侵入者って後宮絡みなのか？
うむ誰の差し金かは分かっている次はない

後宮内の力を偏らせないため一通り回っているから
後宮にはもう3～4日は通わねばならぬ…
そっかまあそれが仕事だもんな
……

……キスは…できるだけ我慢する
ん？
おう？
んん？何だ？どこからキスの話になった？

だから……ここにいてくれ
えーっと…？話が噛み合ってないぞ
何でアルがキスを我慢することになるんだ？
余がしつこいから怒ったのではないのか…？
後宮へ渡ると一秒でも早く長く……クルトとキスしたくなるから
それで…
な…なるほどな…

はーっ…
キスがしつこいのは前からだろ……
違うよ
拗ねてたんだ
……？
拗ねてた？
何にだ？
だから……
アルが後宮に行くことに！
クルトが？
他に誰がいるんだよ!!
俺がだよ!!
謝ろうと思ってたんだ…
俺のせいで悲しませてごめん…って
……
……!!
ほっ…
…そうか…！

アルにキスを強請られるのは嫌いじゃねぇよ
さすがに一時間単位のキスは遠慮したいけどな
うむっ…努力する…
陛下壊された部屋の損害額と修理費について報告があるのですが
どーーん
うおっ!?
ビクター!!?
いつからそこにっ…!!
余は今から忙しいのだ!!
空気を読め空気を!!!
えぇえぇ…そうでしょう……
採決して頂かないといけない書類も溜まっておりますし
パキ
パキ
ひぇーッ!! 凍っとる凍っとる!!!
まめちしき
ビクターは氷魔法を得意としているのだ!
せっかくだから私も風呂に入ろうかね
凍え死ぬわ――ッ!!!
やめるのだ――!!! 仕事するから

そんなこんなで
寝れぬまま
朝食…
ギュン
書類の山
ガチャ
ガチャ
……
……
ふむ…
悪くないな
馬子にも
衣装とは
よく言った
ものですね
わー…!!
すっごく
可愛いです!!

配色がアルの服と同じでなんか恥ずかしいな……
似合うかこれ？
どん!!
俺いつもの服でいいんだけどな…
布まみれで歩き辛いし
よいではないか貴様も魔族領で住むのだから
よく似合っておるぞ！
そうかぁ～？
うん！うん！すっごくいいと思うよ！
いつもの簡素な服装も素敵だったけど
キラ
キラ
こういうクルト様も可愛い！
可愛いねぇ…
そうだビクター
今日は後宮には渡らぬからな
ドターン
ギャッ
は？
……急用でも入りましたか？
いやそうではない

余が後宮に行くとクルトが拗ねてしまうからな
クルトは余にゾッコンラヴなのだ
恥ずかしい言い方すな！

……
イラ…

…後宮へはお渡りください
クルト様の面倒は私が見ますのでご心配なく

いやなのだ！クルトがかわいそうなのだ！
陛下が行きたくないだけでしょう！
どうせ行かねばならないのですから!!
いやなのだ！
あっそうだクルト様昨日は…大丈夫だった？
見ての通り元気だよ
本当に？怪我もない？
大丈夫だってば

実は昨日は試作品の魔道具を作動させてる最中だったんだけど……
試作品の魔道具？ってどんな？

うん！
説明するね
えっとまず
空気中にある体外魔素と
生物の体内を巡る
体内魔素には濃度の
違いがあってね
その濃度の違いを場所を
指定して検知することで
来訪者や侵入者の…
うんうん
で…
つまり？

昨日のような
侵入者の存在を
知らせてくれる
いわゆる索敵機
みたいなものかな
へ――!!!
すっげ～～～
～～～!!!
今回うまく
いったから
今後は
こういう事態を
防げると
思うんだ
すっげー！
すっげー!!
やっぱフェリ
天才じゃん
…でも
僕がもっと
早く開発
していたら…
クルト様を
危ない目に
合わせることは
なかったのに…
……
フェリ…

やっぱり…
だめだなぁ
僕は……
スチャ…
もっと
がんばら
なきゃ！
僕はクルト様の
隣にいたいから…
守りたいんだ！
クルト様のこと
フェリ…!!

もし今後クルト様が陛下の元を離れて…
ビクター様の籍に入ったとしても
アルもフェリも本当に優しいな
俺は…愛されてるんだなぁって思う…
ぎゅ…
僕はずっと守るから…できれば傍にいさせてほしいな
邪神だから？
……
いやそんなこともうどうだっていいんだ
俺が大切だって思えるからそれで…
うん…
うん!!?
待て待て待て誰が誰の籍に入るって？
え？
ビクター様が籍をお入れになるって…
外堀から埋めていくつもりか――!!!
あの野郎～～～～!!!!
おっさんコラー!!!諦めろよ!!!!
あっあぁん
皆のいる前でこんなっ♡
クルト…そんなに余が後宮に行くのが嫌なのか…♡
ぽっ♡
いやっ…違…まぁなんでもいいけどよ後宮は仕事なんだろ
拗ねないから行ってきなさい
うむ…クルトが言うなら…

そうです！
行ってください
コホンッ
先延ばしにすれば
それだけフリーシアンの
姫を迎えるのが
遅れます
フリーシアンの姫？
陛下とフリーシアンは
表立った対立は
ないものの
あまり
いい関係とは
言えなくてね

前々から後宮に
フリーシアンの
力ある娘を
召し上げるよう
進言していたのだが…
最近思うところが
あったのか
ようやく重い腰を
上げてくださってね

最近ってことは
もしかして
フェリの話を
したことが
きっかけか…？
新しい姫を
迎えるに先立って
他の娘たちが
不満を
持たないよう
陛下は
今いる姫たちに
平等に子種を
授けているのだよ
あーなるほどな
アルも大変
なんだな～…

そうそう
迎える姫は
フェリクスの
妹君だよ
え!?
マジで!!?

フェリの
妹ねぇ…
美人なんだろうな～
気になるな
うふ♡
もんもん

見た目は
愛らしいが
あの家で
育った者だ
中身を期待
するだけ
無駄だぞ
よ…
容赦
ねぇなぁ
もぐもぐ

陛下は基本誰に対しても辛辣であらせられるがね
…確かに言われてみれば最初は俺にも本気で殺しにかかってきてたな…
アルには『魔王様の中の魔王様』という称号をあげよう……
ほう…急ですね
はっや!!!
反映されるの早っ
む？ステータスに称号が増えたな
どのような効果が得られそうですか？
……!!?
……全身体ステータスに加算100…!!?
な…なんですとー!?
それってやばいの？
称号によるステータス加算の平均は10前後…
私の知ってる最上値でも50だ…
チートじゃん
…というか……俺の考えたことがそんなにすぐ反映されるなら
ビクターにはとっくに『変態の中の変態』っていう称号がついてもおかしくないだろ…
じっ…
あっ!?ついちゃった!?ごめ……
はの
ドキーン
うわなんか嬉しそうで腹立つ!!

ビクターに与えた称号には特に効果はなかった
夜
ぐごご
クルト！クルト!!
んぁ…
クールートー!!!
こら！なに寝ようとしているっ
起きろクルト!!
…いや…寝ろよ…
……
疲れてんじゃねーの……？
おかえりなさいのちゅーは!!?
んー…おかえり……
ちゅっ
♪
ほいじゃおやすみ
待てっ待てクルト！
いつになったらヤらせてくれるのだ？
慣らさなくてよいのか…？

ヤる……慣らす…？
余のは大きいからな
皆は前もって余の張型で慣らしているそうだが
そうだ！クルトも必要だろう!!作らせよう
使ってくれ！
なに…ディルドのことか…アルのかたちの…？
そんなにでけぇの…ハメてぇのか？……
……おれとえっちしてぇの？
うむっ！
余はクルトとえっちがしたいっ！
もっとクルトを感じたいのだ…っ
……だめか？
うおっ…一気に目ぇ覚めた
ドキン

よく聞いてなかったけど…
アルはアル型の
でっけぇディルドを作るから
俺に使ってほしいと……
オラオラ
どうだ
奥っ
しゅごい
自分の
ちんぽ
ハメられる
気分は!?
ぐりぐり
しちゃ
らめぇ～ッ
なるほどな～
魔族って変態しか
いないのか?
よく分かんねーけど
そんなでっかいので
慣らしてたら
俺のじゃ
物足りなくなるぞ?
?
?
どういう
ことだ?

まぁ…
作るなら
使うけど
ぱあっ
ほんとか!

おい!
張型師を
呼べ!!!
えっ!?
今から?
登城に
1時間ほど
かかるかと
スッ…
かまわんっ!!!

余自身で
慣らしたいのは
山々なのだが
な……
? お前ひとり
でってこと?
いやでも
自分じゃ手を
止めちゃうかもな
手伝ってもらう
方が絶対いいだろ
誰に
手伝って
もらう
のだ?
え?
俺
だろ?
??
お互い突っ込む気満々で
話が噛み合わない二人…

あーもう
何だよ!
よく
わかんね
とりあえず
少し時間が
できてしまった
が……
どうする
クルト?

そんじゃあ
服脱いで
足開け

かっ…かまわんがそこまで時間はないぞ…？
さっき俺をムラッとさせた責任をとれ！
う…うむ…
また飲みたいのか…？
クルトはこれが好きだな…
れろ…
相変わらずでっけぇな～…
んっ
じゅるっ
ん…っ
あぅ…クルト…ッ
じゅるるっ
がまん…できない…ッ
クルト…早く……
魔族は快楽に弱いんだっけな
わかった……
ちゅっ
ちゅっ
ん…
ふ…

アルなら慣らさなくてもイケるだろ…
ぐにっ
!!?
そっ…そこは…!?クルト…
我慢できないって言ったのお前だろ?
あっ…!!
はぁっ
いやっそれは余がクルトに…
はぅ
そこはっ…まだ…ッ…
――――ッッ!!!!
ほらもーちょい足あげろ
ま…待てっ何で…!!
ぴとっ…
待つのだクルトっ!!!
ビクッ
ビクッ
ズプッ
あッ……あぁぁッ!!

うわっ
結構キツ…!!
マププ…
っ…ハアッ…
当たり…前…
だぁ…ッ
んんぅッ
ドキドキ…
初めて…
なのだ……ッ
ん…
もっと
やさしく
しろ…!!
え?誰が!?
初めてって!!?
余が…
だ…っ!!!
う…うっそ
だ~!!
お前すぐ
エロい顔で
誘ってくる
くせに!!
絶対
淫乱だろ!!
ひ…っ
ひどいぞ
クルト!!!
マジなの
か……
確かに
今思えば
強請って
くるのは
キスばっか
だし
反応も
初々し
かったよう
な……
わ…
分かった…
悪かった
ゆっくり
動くからな
ちゅっ
んぅ…

…
すこし…
驚いたが…
もう
大丈夫だ…
アル
無理すん
なよ
嫌だ
ったら
……
ふふ…っ
嫌なものか
それどころか…
余は嬉しくて
たまらないのだ…
クルトは…
何を考えているのか
たまに分からなく
なるから…
クルトが…
身体を求めて
くれるなら…ッ
ぴと…
余は
それだけで
……

…ずっと…ここにいてくれ…
クルト…
もしかしたらアルも俺と同じで
不安だったのかもしれない…
魔王様のくせに
泣きそうな声出してんじゃねぇよ
ちゅうっ
ふっ…
俺みたいな不安定な存在と出会ってしまって
んっ…クル…ト…
ずっと…か……
それは俺にも分からないからなぁ…
動くぞいいか?
ぐぷぷ…
ふっ…無理やり突っ込んでおいて…
ドキドキ…
気遣いは無用だ
はやく…きてくれ…
んぅうッ!!
んっ
ふ…!
グプッ

アルの声…ッ
エロいな…!!
あぁぁっ!
すげぇッ
興奮する
……!!
んぅ
あぁっ
あぁあッ
うん…ッ
くると…ッ
くる…ッ
とぉ……!!
そこっ…
あぅッ♡
やめ…
あぁッ
あッ♡
まっ
てぇ……!!
ぐんッ
はぁッ

待たないぞ……
ぎゅう…
はぁっ……
んはっ…あ…
ちゅく
ハァ
…ふっ…う…
んっ…
ハァッ
……ッ!!
ドクン
気遣い無用って言ったのアルだろ
……ん…♡
ぎゅうう
ハァッ
クルト…
クルト……!!
ハァ
ビクッ
ビクッ
んっ…はぁ…ッ
ズッ
ズッ
ズッ
ぐちゅ

アルッ…
アルと…一緒にイきてぇ…ッ!!
アル……ッ!!!
あっ…ッ…
くる…とぉっ…♡

ドプッ
くッ!!
ビクッ
ビクッ
ドクドク
キュウーン
んっあああああッ!!
んっ…
ふ…っ
ちゅう…

はあっ…
はあ……
ズルッ
ボ…
アル
大丈夫か…？
ドキドキ
う…
うむ……
めちゃくちゃ
エッロい声
出してたけど
そんなに
よかったか？
ゴポォ

く…
クルト
は…？
余は…
ちゃんと…
クルトを
きもちよく
できたか…？

……
あっ……
ドキン
あぁ…
もちろん…!!
最高だった…
そそうか
……！

クルト…
さっきみたいに…
手を……
手を
握っていて
ほしい…
俺そんなこと
したっけか？
!!!

…そうか…
それなら……
よいのだ…

覚えて
おらんのか!?
忘れた
…
張型師

ゆうゆー
原作：楢山幕府
転生
エロチートな
邪神様
5

ふあぁぁ～～～
あー…
よく寝……
サン
サン
うお～～～～～!!!?
おはようクルト
変なおっさんがアルのちんぽスケッチしとる!!!
失礼だぞクルト！
こちらの変なおっさんは張型師のマ・ラーさんだ
それっぽい名前してんな
というかアルも相当失礼だぞ
そういえば昨晩張型師を呼んだものの一時間かかるとか言われて…

その後すぐアルとセックスして……
あ～そうだ!!
すっかり忘れてたじゃん
悪いことしたな～
マラさんごめんな
……
……
マラさんめちゃくちゃ怒ってんじゃねーの……？
無言で帰って行ったよ…
バタン
完成までは最短でも1週間かかるらしい
楽しみだなぁクルト♪
嬉しそうだなぁアル
ニヤ
ニヤ
へへへこ～の淫乱め♡
なっなぜそうなるのだっ!!
お前が喜ぶべきなのだぞっ
まだクルトに挿れると勘違いしてる
はいはい早く仕事行けよ～
いってらっしゃいのちゅーは!?
はいはい

朝飯食ったらフェリと勉強か～

ここはいい人ばっかだし飯もうまいし

平和だし…なんか穏やかでいいな～

勉強はやだけど

あれ？

そういや今日はいつものメイドさんがいねぇ……

ガチャッ

ガラ

ガラ

ガラ

…？いつもの妙に怖いメイドさんじゃないな…

ガラ

ガラ

いつもの

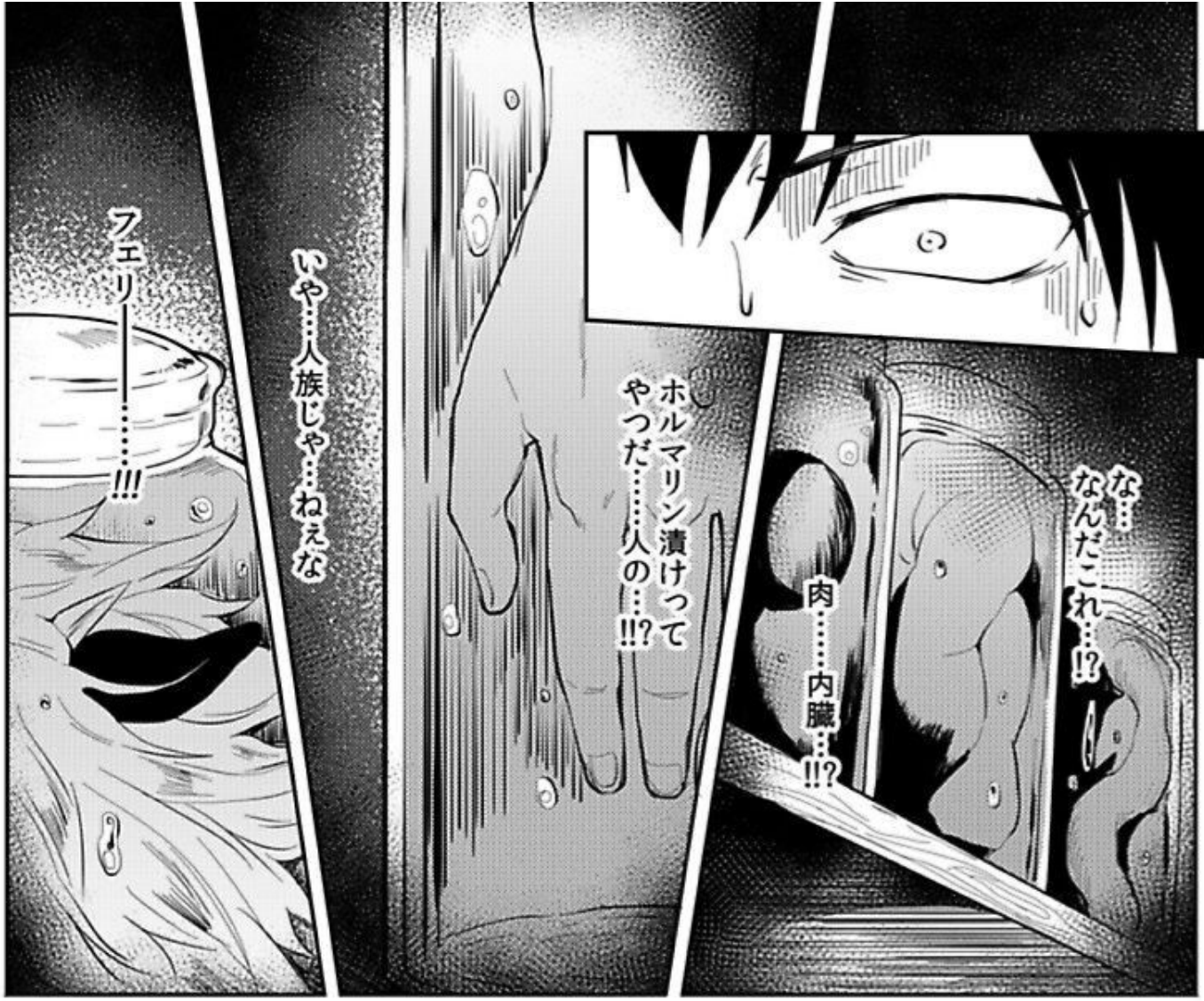
ど…どもっす…今日の朝飯なんすかね？

あの～…

……

キェッ
ギュウウ
別に苦しかないし
通り抜けれるけど…!!!
ガッ
ギッ
ギッ
ぐぐぐぐぐ
じたばた
何が目的なんだ
このメイドさんは…!!?
殺す気は
なさそうだな…
ハヒュッ…
カクン
気を失った
フリでも
してみるか…
……
ドサッ
ガラ
ガラ
ガラ

俺誘拐されてる…
ガラ
ガラ
真っ暗で分かんねぇけど初めて城の外に出たぞ…
うおっ……!?
今度は箱に詰められた!
ガタン
また移動なのか?
どこまで運ばれるんだ…?
加護を与えたアルやビクターの居場所はお互いに分かるし迷子になることはないな…
目的は何だ…また後宮絡みか?
それとも身代金…いや男妾に身代金は払われないか
のわっ!!?
いってぇ……
くっそ…もっと丁寧に扱えよ…


な…なんだこれ…!?
肉……内臓…!?
ホルマリン漬けってやつだ……人の…!?
いや…人族じゃ…ねぇな
フェリ――……!!!

いや…似てるけど……違う……
何で…誰がこんな……
ど…どういうことだよ…!?

スタ
おや
スタ
人族には刺激が強かったかな?

しかし
安心
したまえ
ここに
あるのは
魔族のものだ
分かるよ…!!!
フリーシアンの
だろうが!!
てめぇ
アレだろ!!
フリーシアンの
食用賛成派の
古い貴族!!
お前も魔族だろ!!
魔族食ってんじゃ
ねぇよ!!!
やかましい
子供だ…
フリーシアンの
気持ち考えたこと
あんのか!!?
なんなら
俺がてめぇを
食ってや…
まぁまぁ
落着き
たまえ…
全く
陛下も何を
考えておられる
のやら
この大事な時期に
人族の男妾を
囲うなどと

俺をどうする気だ!!!
人族は不味くて食えたものではないが……
あの陛下がお気に召すくらいだ
どんな味がするのか興味が沸いての…

信仰がレベル10に上がりました
うるせぇッ――!!!
こんなやつに認められたくなんかねぇ!!
こんなことしてアル…魔王様が黙ってるとでも思うのか!!?
今頃騒ぎになっているだろうが…
誰にも突き止められんさ
儂に通ずる証拠など一つもないのだから
俺がここにいる

ふはは…!! 強がってもフリーシアンの坊主が開発した探知機は
まだ実用化に至っておらんだろう
お主の体に魔道具が付けられていないことは
既に確認済みだ!
フェリのやつ索敵機だけじゃなくて探知機まで…
優秀な学者先生だ……
く…ッ!!?
おわっ
アルの気配が怒りが
どんどん近づいてくる…!
何だ!!?
室内なのに…風が…!?
…!!! そんな…まさか!!
バカな…!! 儂の計画に
穴など……!!!
……おせーよアル
それにやりすぎ…

ゴオオオオオ
え……

ヒュッ
ビタ
ぎゃ〜〜〜〜!!!
ななななんだ この姿…!!?
気配からして 間違いなく アルのはずだ…
おーい!! おいアル!!!
ゴォ
オ
俺が 分からない のか!!?
アル!!!!
ギロ
!!!!

あ…あぶねぇ…
死んだかと
思った……！

そういえば
死なないん
だった…

…!!
そうだ！

俺は
物体を
通り抜け
られる…!!!

ハッ

プス

プス

――か八か

アル!!

大人しく
してろよ!!!

よし…！
入れる!!!

ズズズズ

――ここは
恐らく
城下町から
そう離れてない

アルがこのまま
暴れれば
被害はどんどん
広がっちまう

アルがいままで
魔族を統べる為に
苦労して悩んで…
必死に守ってきたもん
ぜんぶ

ぜんぶ水の泡に
していいのかよ!!

なぁアル!!!

あった!!
アルの心臓!!!

ドクン…

ドクン…

ドクン
ギュ
ドクン
頼む…戻ってきてくれ…!!
アル……!!!
ヒュオ
オ
オ
オ

……
……!!
殺したかと
思った……

俺は死なないって
何度言えば
分かるんだよ
それよりも
心臓なんか
握って
お前が
死なないか
俺は心配…
ギュッ

……
クルト～～……
うん
うん…
おかえり
アル

どうやら先の暗殺者は捨て駒だったようでね
コポポ
陛下が部屋を壊されるのを見越して
捨て駒？
おっサンキュ
自分の息のかかったメイドが入室できる部屋に君を移動させるのが狙いだったのだよ
君の部屋は登録した者しか開錠できない鍵がかかっているからね
新しい寝所についてはフェリクスが鍵の設定を行ってくれている
そんな魔道具もあるんだな～便利だな～
じゃあ後宮は関係なかったのか
隠れ蓑に使われたというところだね
君を誘拐したのは証拠も残さず事を起こせる力があることを陛下に見せつけたかったのだろう
証拠がない限りこちらも動きようがないからね
まぁ誤算は君が邪神だったということかな
そっか～

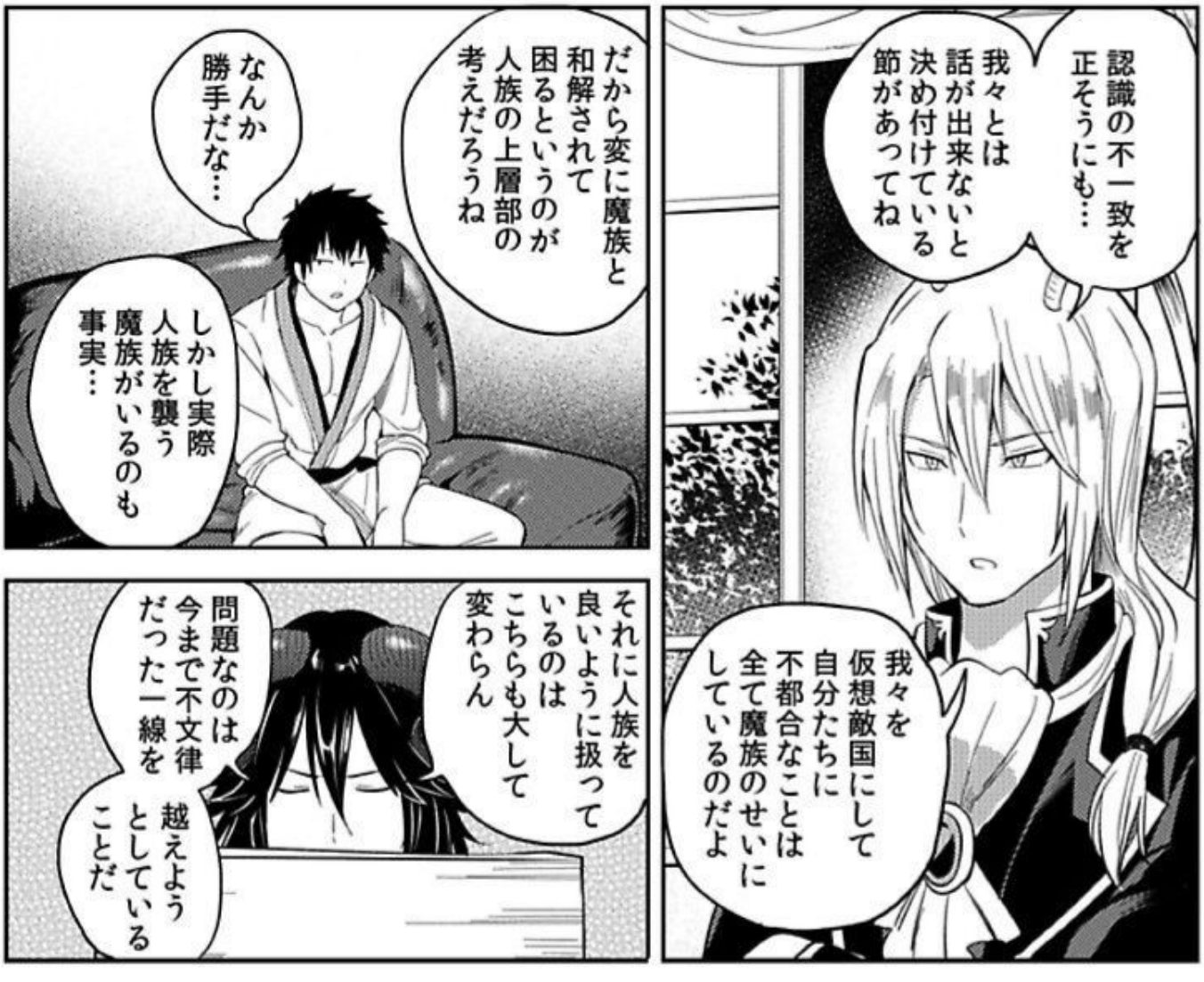
…さて陛下
クルト様が暴走を
止めてくださったから
良かったものの…
あのままでは
城下町の
半分は消滅して
おりました
ムッス～
ちゃんと
反省して
おられるの
ですか？
あやつには
今までにも
散々煮え湯を
飲まされて
いたからな
クルトを誘拐した
犯人だと
分かった瞬間
抑え切れなくなった

俺も軽率
だったよ
誘拐されて
なければ
こんなこと
には…
クルト様は
被害者なの
だから
気に病む
必要はないよ
ナデ
ナデ
悪いのは
あの貴族と
陛下なの
だから
余も
か!?

しかし
陛下…
理由はどうあれ
今回の件で
またあの一族が
うるさく
なります
今日はその
書類を
片付けるまで
帰って頂く
わけには
いきません
で
ん…
う…
……

この山を片すよりも一族もろとも消すほうが早いぞ…
そうしたいのは山々ですがまだ人族との問題があります
戦になった場合はあの一族にも出てもらわねばなりません
クルトから貰った称号があれば余一人で十分……
だめです!!
いくら陛下が種族最強と謳われるドラコニアンでも
無茶が過ぎます！人族の数の利を過小評価しないで頂きたい
なぁおい人族は攻めてこようとしてるのか？
奴らの目的は魔族領で採れる魔石だ
どうやら欲に目をくらました輩が勇者などをけしかけているらしい
え――っ!!!勇者～～～♡
やっぱ魔王とくれば勇者だよなぁ♡
知ってる人？
くわっ
知るわけあるか!!!
敵だ！敵!!
おこられてしまいました…
いっそ国一つくらい消してやりたいわ
それこそ人族が大儀名分を持って魔族領を侵略しに来ます

人族は
表向き
どんな理由で
攻めてくる
つもりなんだ?
魔族が人族を
襲っているという
根拠のない話を
主軸にしているね
明らかに
あれは魔族と
魔物を同一視
しているだろう!
プン
その時点で
こちらとしては
憤まんやるかたない
プン
人からすれば
動物と一緒に
されるような
もんだもんなぁ
魔物を
我らがけしかけて
いるとも
申しておるよう
ですしね
我々だって
害獣になる魔物には
手を焼いているとい
うのに


認識の不一致を
正そうにも…
我々とは
話が出来ないと
決め付けている
節があってね
我々を
仮想敵国にして
自分たちに
不都合なことは
全て魔族のせいに
しているのだよ
だから変に魔族と
和解されて
困るというのが
人族の上層部の
考えだろうね
なんか
勝手だな…
しかし実際
人族を襲う
魔族がいるのも
事実…
それに人族を
良いように扱って
いるのは
こちらも大して
変わらん
問題なのは
今まで不文律
だった一線を
越えようと
している
ことだ

それだけ魔石の価値が高まったということでしょう

闇属性の魔石は闇の耐性を付与することも可能です

それさえあれば魔族領の侵攻もやりやすくなる

やっぱりゲームみたいに勇者と魔王は対立しなきゃならねぇんだなー…

というかこの位置から見てるとアルが

こういう生き物に見えておもろい…

ショルイマン

ビクター様！鍵の設定が終わりました！

！フェリ

事前にご提出頂いた魔素パターンに合わせ陛下並びにビクター様近衛のデリア様の設定が完了致しました！

うむご苦労

…？近衛のデリア様って誰……

ではクルトは部屋へ移れデリアに案内させろ

フェリクスも下がってよいぞ

あっそうだ

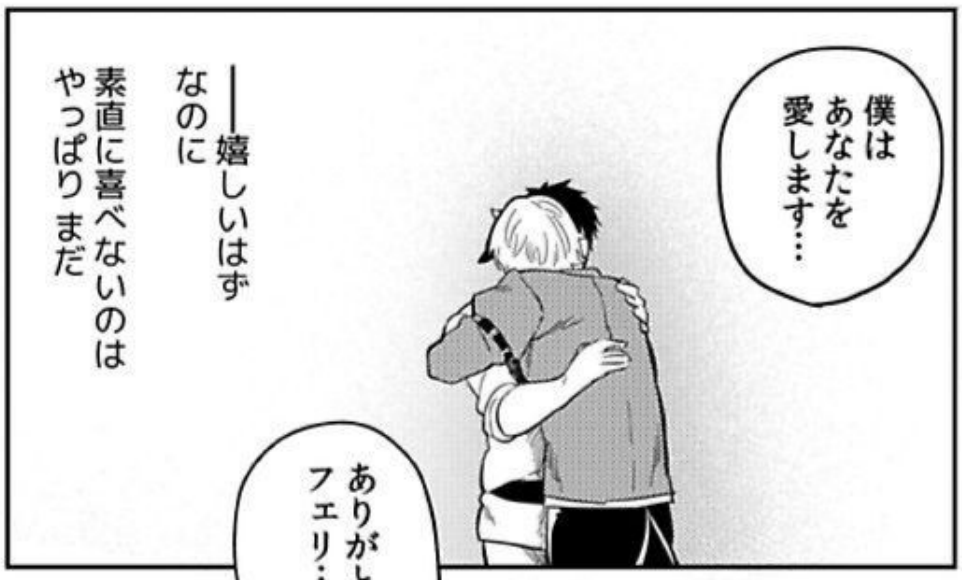
フェリちょっといいか？

俺が邪神ってこと聞いたんだろ？
あ…うん…
クルト様が誘拐されたって聞いて…僕…
あまりに狼狽えるものでね…
説明せざるを得なかったのだよ
ビクッ
うわ――!! クルト様――!!!
可愛いから誘拐されたんだァ――!!
それ私の大事にしている50億G(ゴールド)の壺～!!
やめてくれ――!!!
じゃあせっかくだしついでに加護与えちゃお
えっ
えっ!?
そんな軽い感じで…!? 僕なんかにいいんですか……?
えーっとフェリ…じゃなくてフェリクスに
加護を与えます!!
わっ
わあぁ…!!
パァァ
こ…光栄の至りにございます……
ほほ～
よいのじゃよいのじゃ

では
お部屋に案内
いたします
あっ
いつもの
メイドさ…
ってもしかして
近衛のデリア様!?
クルト様
知らなかった
の?
知らなん
だ……
言ってよー!!
すごいじゃん!!!
ただのメイドじゃ
なかったんだ!!!
俺が
特別扱い
ってことだな~!!
動きが
ただの
メイドの
それじゃ
ないもん
俺分かる
!!!
……
……
…フェリは
俺が邪神って
知って
何か思ったか?
あっ
逃げた…
そそれは
もちろん色々と…
じ…
最初は驚いたけど
それよりも…
あの時は
クルト様が無事な
ことが分かって
安堵した方が
大きかったかな

いつもと変わらないなフェリは…
何でフェリはそんなに俺に優しいんだ？
前に言ったよね？僕はクルト様に何が返せるだろう…って…
それが優しさか？
どうだろうクルト様は優しいって言ってくれるけど
僕も打算ありきだからね
ふふっ
クルト様がそれを言うの？
それは全然構わねぇけど
フェリに利用されるなら俺も本望…
…僕の打算は
少しでもクルト様に愛してもらえるようにっていう打算だよ
んあ？
ぎゅっ

心のどこかで
俺は



――嬉しいはず
なのに
素直に喜べないのは
やっぱり まだ
邪神である
俺を受け入れ
ることが
できないからで

ぼー
…どうしたのだクルト
ものすごいアホ面だぞ
あれ？アル…おかえり
おかえりなさいのちゅーは？
あー…今日はパス…
どうした？
俺って何者なんだ？
邪神ってなんだ…？
……クルトは…クルトだろう
そうだけど……

この世界で愛されても素直に受け入れられねぇんだ
それって邪神のアビリティに惚れてるだけだろって
せっかく好意を寄せてくれてるのにそんな風にしか思えなくて
俺捻くれて…
クルト！
クルトに話がある…
余は今までたくさんの物を…人を壊し消してきた
余が望む望まないに関わらず…
人族に限らず魔族までも
余の攻撃を受ければ簡単に壊れてしまう…
だから願ったのだ…望んだのだ
貴様が降りたあのベッドで
アル…？

クルトが
邪神である
のは
おそらく
余の
せいだ…っ
そうで
ないと…
クルトの
存在は
余にとって
都合が
良すぎる…！
余に
殺されぬ
存在を…
恐れぬ…
存在を…
願ってしまった
のだ…!!
願いは
叶えられたが
その代わりに
余の苦悩が
お前に
引き継がれた…!!

余を恨んでもよい…
すまぬ…っ
寂しかったんだな
……!!
スッ
すまぬ……!
…そうかこれはずっとアルが感じていた……
同じ種族のやつとかいなかったのか?
見たことがない……
希少種ってそのレベルでなのか!?
余はドラコニアンとオヴィスアリエスのハーフでな
余が幼いころ亡くなった母が最後の純血種だと聞いている
今は純粋に力だけで余と張り合える者はおらん…

力の強さは
魔族において
不動の地位を
築く
生まれ持った
力を否定しよう
とは思わんし
ビクターや臣下が
いるから未だかつて
自分の境遇を
憂いたことはなかった…
けど…
寂しかったんだな
アルの心は
ずっと孤独で…

アル
でもな
俺…
邪神で
よかったって
思えたことも
あるんだ

ドラゴン化
したアルの
攻撃を
受けても
死なずに
いれた
から
こうして
またアルの
隣にいられる

嬉しいことも
いっぱい
あるんだよ
だから
これから
少しずつ
邪神である俺も
受け入れていくさ

いいのか…っ
クルトは本当に…
ばふっ…
っ……！
ドキ
ん…
ちゅう…

ああ…アルさえよけりゃ
俺をアルの隣で歩かせてくれ

んっ…ふぅ……
クルト…!!
ちゅっ
クルト…っ
れろ…
ちゅ

好きだアル

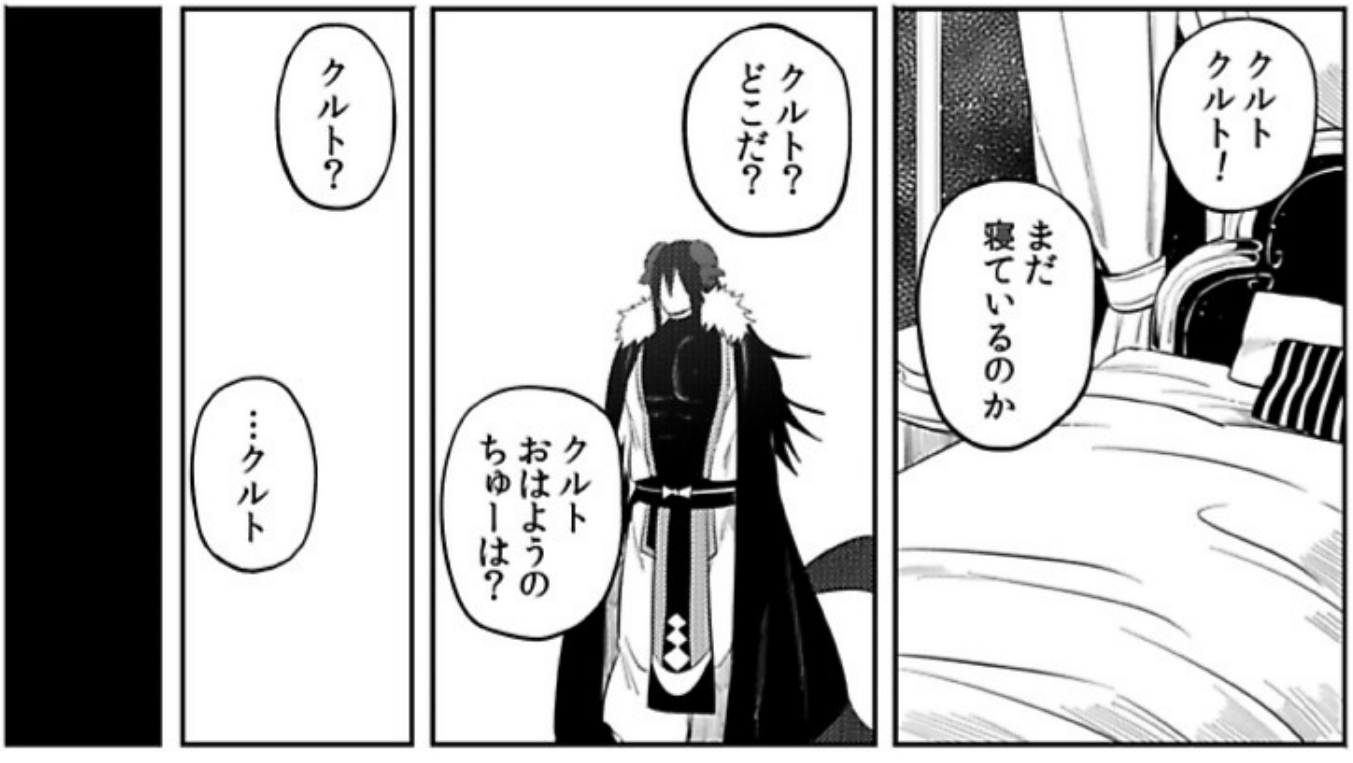
クルト……
ドキッ!!

うむ…っ
ずっと…
ずっと……
余と
共に歩いて
くれ……

ん？
エッチなシーンがなくて物足りないだと？
最終話も応援よろしくお願いしますっ！
仕方ない…
出血大サービスだよ♡
ムード台無し!!!

ゆうゆー
原作：楢山幕府
転生
エロチートな
邪神様
6

あいつを
一人にしたく
ない



うわあああああああ!!!!
ばっ
うおわ!!!!
ゆ…
夢……
はぁ
はぁ
夢なのか…？
ど…
どうしたのだね…
悪い夢でも見たのかね？

あの白い世界にいる時
ここに来た時と同じ…
記憶が崩れていく感覚がした
…夢じゃ…ない……
何でまたあの世界に?
俺が邪神としての俺を
受け入れたから…?
ってうか
何でおっさんだよ
横にいるのが
アルだったら
抱きついて
甘えてるとこだ
陛下は
仕事に
行かれたよ
君一人で
寂しいんじゃ
ないかと
思ってね
そんなに
私じゃ
不満かね
別に
甘えてくれても
良いのだよ?
……一人で
寂しかったのは
ビクターの方だろ
ニヤ
どうせ俺も
暇だし
付き合ってやっても
いいぜ

…付き合うって……
お前が今期待してることに付き合ってやるっつってんだよ!!
ブンッ
はうっ♡

さっさと脱げ!服を!!
脱げ!!!

は…はい…♡
ﾊﾟｻ…

はぁっ…クルト様…
最近あまり相手をしてくださらなかったから…
私…っ
ﾊｱ
ﾊｱ

もう…
我慢できません……
ドキ
ドキ
はぁ…
レロ…
はぁ…
んッ
ふー…
んッ
ポンッ
ふー…
ビクター…上手いぞ…
貴方の…この硬くて…熱い肉棒を…っ
はぁ
はぁ
私のナカに挿れてください…
お願いしますっご主人様…!!
ごしゅじんさま…

しょうがねえな…
じゃあ俺の上に乗って
自分で動け
きゅうん♡
ぞくぞく
はい…♡
ご主人様…♡
ぐ
ぱぁ
で…では私のいやらしいオマンコに…
挿れさせていただきま…
させんぞ
バチ
バチ
げっ陛下!!?
おっ落ち着いてください陛下!!また部屋を壊されるおつもりですか!!!
ドォン!
待て待て待てぃアル――ッ!!!俺は邪神だからいいけどビクターに攻撃はまずいんじゃ

どういうおつもりですか陛下
それはこっちのセリフだ!!!
何故クルトと貴殿があんなこと…!!!
クルトもクルトだ!!余のことを慕っておったのではないのか……!!?
いや…アルのことは好きだぞ
ただそれとこれは別っていうか…

氷の盾
アルが嫌ならもうビクターとはやらねえよ
そんな!!!
ブスッ
パキン!!
うむっ
もう浮気せんと言うなら特別に許してやろう

待ってください陛下は何か勘違いをしておられる
私はクルト様の愛人に過ぎません!大体私はお二人を後押ししている立場ですよ
……

ん?愛人はいいのか?
はぁ…
浮気は本命に変わる可能性があるが…愛人はなかろう?

クルトの本命は余で間違いないのだな?
あー…うんそれは間違いねえよ

それならば…
まあ…よいのだが…
ギロ
ビクターは
未だ氷の麗人と
謳われている
からな…
安心できん
のだっ
おや
陛下に容姿を
認めて頂ける
とは
望外の
喜び！
ヤ
ヤ
く～！何か
ムカつくのだ!!
やっぱ今のナシ!!
クルト！
今後愛人が
増える
ようなら
余に許可を
とるのだぞ
はぁ…
まったく…
貴様は普通に
信仰を
集められんのか!?
そういえば…
現在はどれほど
信仰が上がって
いるのかね？
あ～～
そうだな
そういえば
確認して
なかった
ポク…
ポク…
ポク…
ポク…
ポク…
ちょっと
待ってろよ～
ステータス
開くから…
えーっと
ステータス…

カ――ッ!!!!

くわっ

うわっビックリした!!!

心の中でステータスオープンと唱えるだけで良いのだぞ……

何故お前は何事も普通にできんのだ

あ～？何かスペシャルスキルが増えてんな

信仰はレベル10になってる

スペシャルスキルはどのようなものだ？

特技：加護付与
言霊

【言霊】…？って書いてる

言葉に強制力を持たせるということだね

？どういうことだ？

言霊というのは魔素を言葉にのせるのだよ

魔方陣に魔素をのせることによって魔法を発動させるようにね

言霊とは主に呪術に使われていたもので

呪術師は相手の真名を使い魔素をのせた言葉で呪う

だから皆真名を隠し通り名を名乗るのだよ

力有るものなら通り名でも強制力は働くらしいが…

へー！…役に立つかな

クルト様の言霊がどこまで作用するのかが肝ですね
うむ…そうだなドラゴン化した余の暴走を止めることが出来るかどうか…
おぉ！なるほど!!
さっそく試すしかあるまいビクター
ガチャ
ええそれでは失礼致します

……よし…
では…クルトに余の真名を授ける
い…いいのか…？

どうせ長い名は覚えられぬのであろう？
言霊に特定されやすい部分のみ伝える
もちろん他言は無用だ
お…おうっ分かったぜ…

アルノルト・
ノア・ドラコニア
ドラコニア種族の
アルノルト・ノア…
それが
余の真名だ

アルノルト
……
ノア・
ドラコニア
……

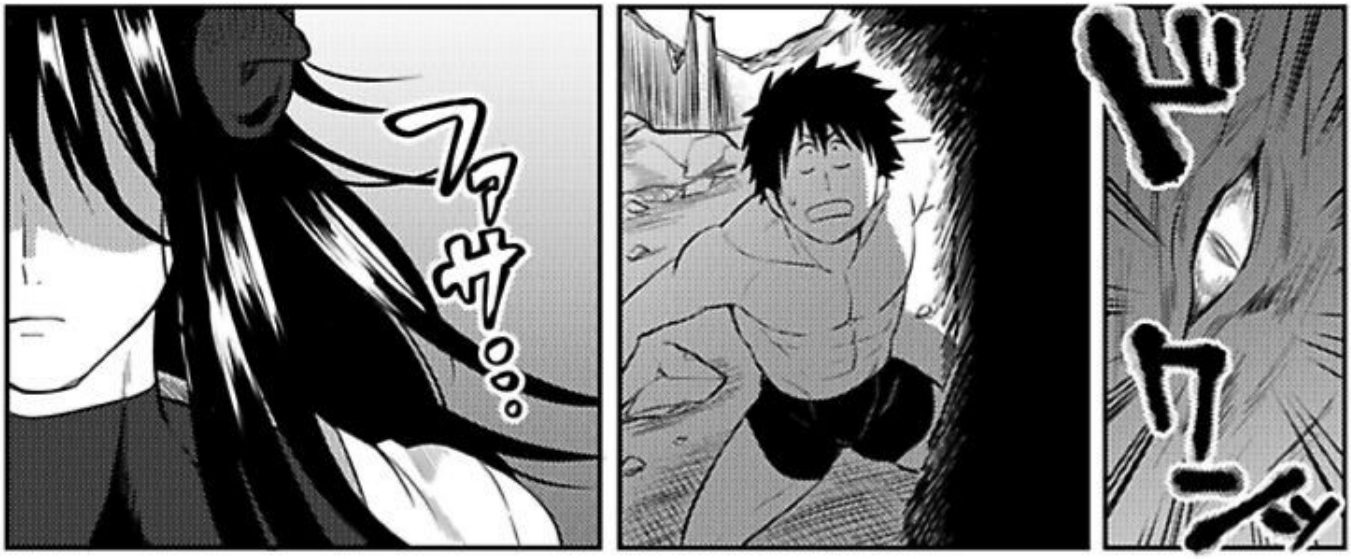
覚えたな？
…では
余は今から
ドラゴンに
変わる故
言霊を使って
戻してみよ

えー…
大丈夫
なのかよ…
何…
理性が
飛びやすい
といっても
感情の
赴くままに
変わるのと
意識的に
変わるのでは
違う
多少
気は荒く
なるだろう
が……

クルトなら
きっと
大丈夫だ

ゴォッ!!

ゴゴゴ
ゴゴゴ…
シュウウウ…
早く戻さねぇと部屋がやばそうだな……
よしっ!!
ゴゴゴ
ピコ…
▷はい いいえ
言霊を発動しますか?
ゴゴゴ



『アルノルト・ノア・ドラコニア』!!!

ばん!!

えー…人型に戻って〜〜…え〜〜〜っと…

高くジャンプして「俺は凄い!」って言いながら股の間で手を叩くのを3回やれ!!!!

ドクンッ

ファサ…

俺は凄い!

ピョン

パンッ

俺は凄い!

ピョン

パンッ

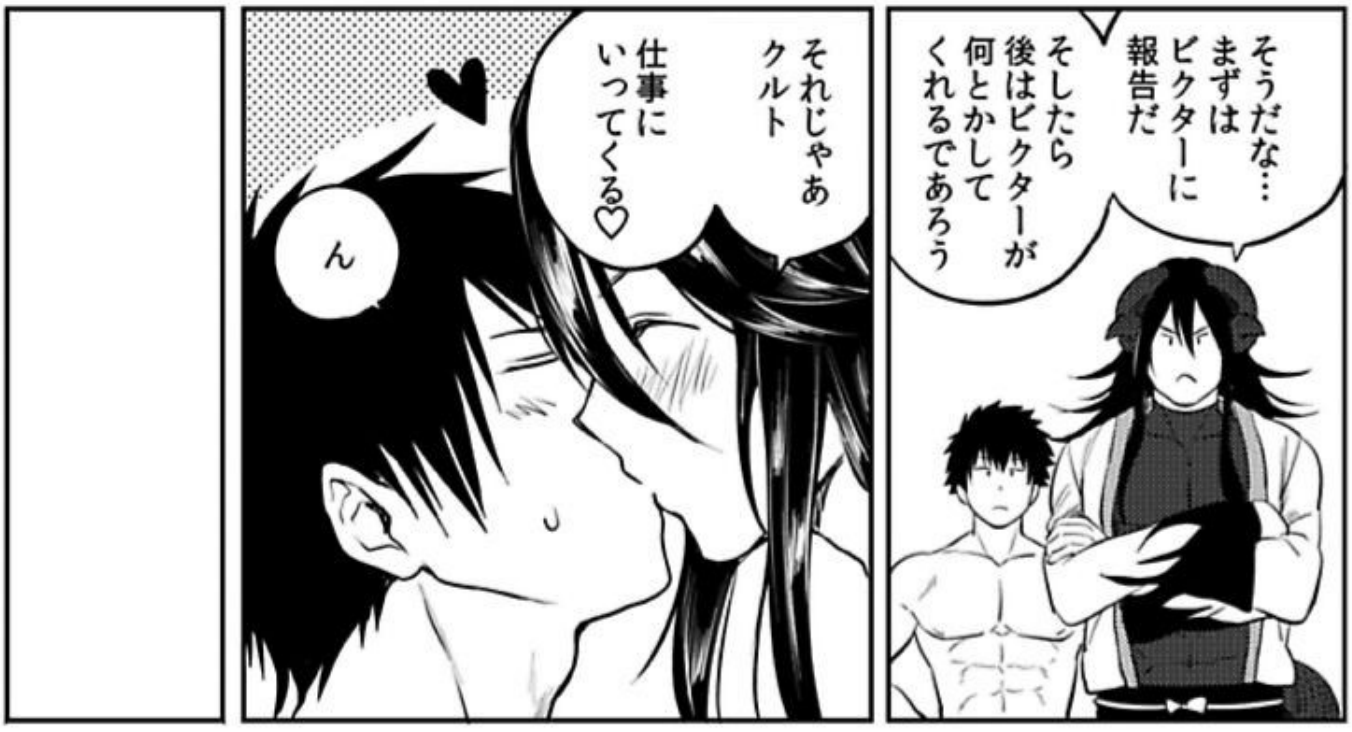
俺は凄い!

パンッ

ハァ
ハァ
……
……
何をさせるのだ
貴様は――ッッ!!!!
ガボーン!!
成功なのか？
ドラゴンは
一通り暴れないと
気が済まん性質
だから成功は
しているが!!!
魔族の王
である余に
何をやらせる
のだ!!
ごめん
ペコリ
うむ…
よいわ…
……
もうよい…
お前は初めから
そういうやつだ
……
何はともあれ
クルトの
言霊の力は
本物のようだな
これは
使えるぞ！

ドラゴン化したら
周りに迷惑がかかる故
人型から形態を
変えないよう
気を遣っておったら
多少のことなら
ドラゴン化しないと
思ったバカ共が
調子に乗って
大口を叩いてきたが…
わはは
それも今日で
終わりだ!!!
だからといって
ドラゴン化
しまくって
いいわけじゃ
ないからな

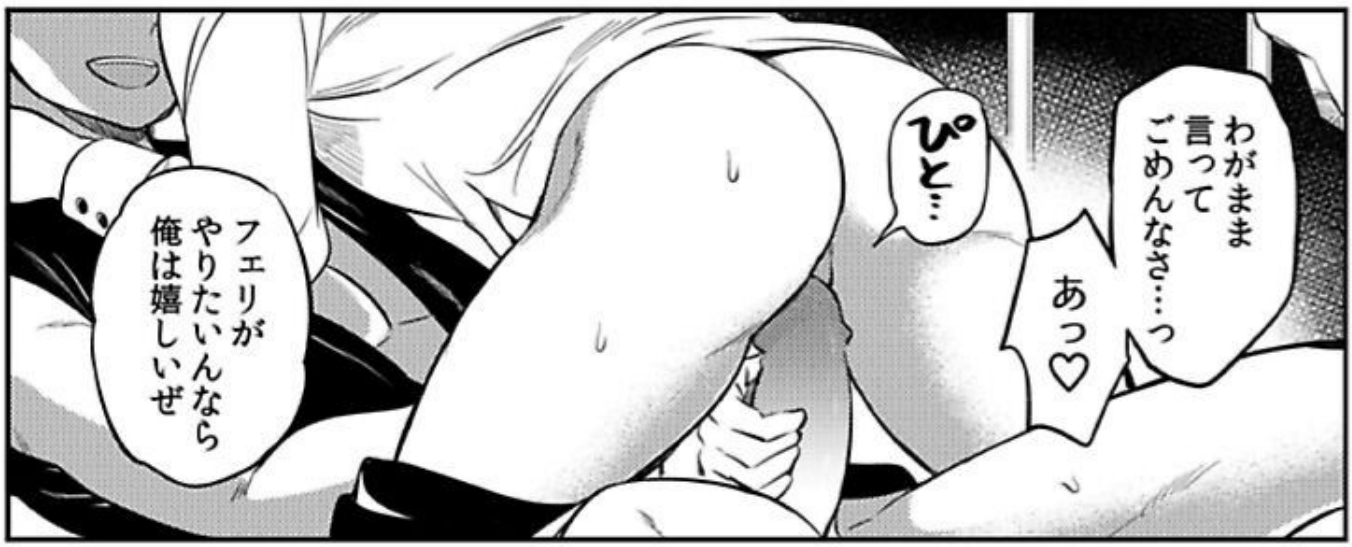
分かっておる!
大事なのは抑止力に
使えるということだ
そして
貴様の力も
他の者に示せる!
俺を公の場に
出す気か?


そうだな…
まずは
ビクターに
報告だ
そしたら
後はビクターが
何とかして
くれるであろう
それじゃあ
クルト
仕事に
いってくる♡
ん

また部屋がハデに壊れてるね……
色々あってな
全部魔王様のせいだから気にすんな
そういやフェリとは告白されたっきり話してなかったけど…
ちゃんと返事しなきゃだよな…
あ…あの！クルト様あのね…
僕の上着のここ…指で触れてほしいんだけど…
ん？なんで？
カチッ
えへ……
はらり♡
上着にも魔道具の鍵を設定してみました…

これを開錠できるのはクルト様と僕だけだしっ
この方がミルクを飲みやすくていいかなって…
もじ
もじ
バカ野郎――ッッ!!!!
え～～～～!?
お前天才かよ…バカ野郎が…
どっちなの…?
えっと…飲んでくれる…?
もちのろん!!
重くない…?
俺は自分に都合の良い感覚しか感じないから心配すんな
なら良かった…

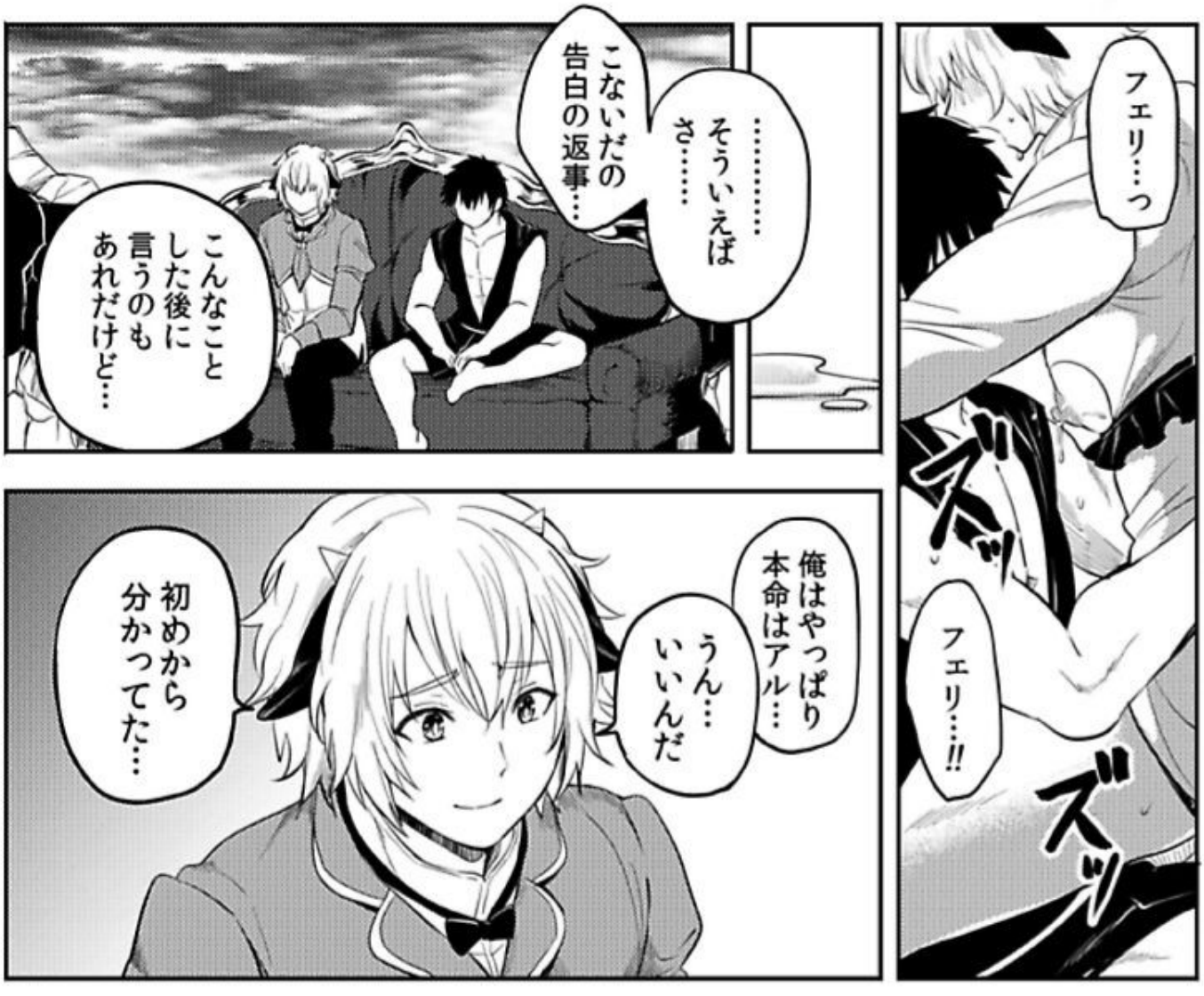
あんっ
じゃるるる
ビクン
ビクッ
あっ♡
あっ
はぁあっ♡
クルトさまぁ
ぎゅう
ちゅぱ
ちゅっ
あんっ
れろっ
ぴちゃ
あ♡
ドキ
ドキ
ね…ねぇ
クルト様…
乳首だけじゃ
なくて…っ
僕…っ
下も…
んっ♡
ビク
クルト
さまっ…
ビク


わがまま
言って
ごめんなさ…っ
あっ♡
ぴと…
フェリが
やりたいんなら
俺は嬉しいぜ

く…
クルト様…
いいの…？
本当に……？
ひゃあっ♡

あああ♡♡

くると…
さまぁっ…!!
ぼく…
ぞくっ
ぞくっ
うれしい…っ


フェリ…っ
ズッ
フェリ…!!
ズッ
……
そういえば
さ……
こないだの
告白の返事…
こんなこと
した後に
言うのも
あれだけど…
俺はやっぱり
本命はアル…
うん…
いいんだ
初めから
分かってた…

でも…
それなのに
……
ありがとう
……
僕と…
こんなこと
してくれて…
俺は
フェリのこと
好きだし…
したいから
したんだ
礼なんか
言うなよ
あー…
フェリも
愛人になって
くれたら…
ギューン!
愛人!!?
なる!
愛人になりたい!!
なりたいです!!
え!?…あぁ
アルに許可
もらわないと
だけど…
実はさっき
ビクターも
愛人に…
わ～～～!!!
僕がクルト様の
愛人～～～!!?
そうと決まれば
陛下にもご挨拶に
伺った方が
いいよね
いやまず
俺が許可を…
ふふふ♡
嬉しいな～
嬉しいな～♡♡
でれ
いいか…
あんなに
嬉しそう
だし…
でれ
多分
許可は貰える
だろうしな
フェリ～
今日の勉強
は?

あっそうそう！ビクター様から言われていたことがあるんだ
クルト様を人前に出すことが決まったらしくて…
僕とデリアさんで礼儀作法を教えてほしいって
礼儀作法がいるような場所なのか……
うわーっめんどくせぇ……
フェリの勉強だけでも毎日億劫なのに……
失礼いたします
クルト様には今から相手を見下す礼儀作法を身に着けていただきます
スッ…
おう……ん!?え!!?今何て!?
まず私どものことは道端のゴミとお思いください
犬のウンコ
陛下こそ至上…他の者など見下してよいのです
ええ…いいのかそれで…
ニタァ…
そう！それです!!!
その日から数日間――…
俺はデリアの指導を受けなんとか暗黒将軍といった感じの笑みを浮かべられるようになってきた
これが必要な場面が出てくるのだろうか……
不安しかないのである
ワワ…
ワワワ…
ワワワ…
フハッ…ハハハ…!!
ハッハッハッ
ヒャーッハッハッハッハッハッハッ

そして
いよいよ……
この先に
アルが
いるんだな…
えぇ…
魔族の
閣僚たちも
集めて
おります
その力を存分に
見せ付けてきて
ください！
緊張を感じない
体で良かった…
閣僚が
見守る中…
城下町
それも貴族街の
ド真ん中で
『アルノルト・
ノア・ドラコニア』
人型に戻れ
アルが俺を
抱き上げると
歓声が
聞こえた
気がした

そのあと集まった魔族の閣僚たちに向けてデリアの礼儀作法が遺憾なく発揮された
ヒャーハハハ
ヒッヒッヒッ
これで本当にいいのか俺には分からないけど
俺を視認した上で存在を認めないと上がらない信仰レベルは恐ろしいことになっていた

あ～～～つっかれた……
お疲れさまフェリ
今魔族はクルト様の力を認める者と人族に魔族領を乗っ取られると憂う者で分かれてるよ

閣僚には陛下が拾った人族の男妾が〝使える〟と伝えてあります
俺のことはずっと人族で通すのか？
クルト様に不都合がないのであればそれで通しますよ
これで人族との和平の道が開けるかもしれませんし
ぽあぁ
え!?マジで!?

人族が陛下の伴侶になるのですよ？
人族にとっては喉から手が出るほど良い機会のはず…
まあそんな機会は差し上げませんが
余が貴様を娶ることによって
人族は貴様に取り入ろうとするだろう
今後は邪神だとバレぬよう細心の注意が必要になる
それはちょっと気が重いな～…
って…待て待て……娶るって？誰が？誰を？
余と貴様に決まっておろうが
式はまだ先だがな
以前から親交のある人族の国にも闇耐性を付与する魔石と一緒に招待状を送る手筈だ
籍入れは12日後です
その前に現状だと身分が釣り合いませんので
クルト様は私の養子に入って頂きます
お前よぉ～～まだ俺を籍に入れること諦めてなかったのかよ～!!!
いやそれとこれとは…

今回は
あのクルトを
誘拐した一族に
余の力と
クルトの力を
見せ付けたにすぎん
その上で人族と
和平を結ぶことに
よって
あやつらの力など
必要としていない
ことを申し付ける
のだ！
血気盛んな
奴らも
余が容易に
ドラゴン化する
術を手に入れた
ことを知り
しばらくは
大人しくして
いるだろうしな

俺の
知らない間に
話が進みすぎ
てるん
だよなぁ…
共に
歩いて
くれると
言ったで
あろう？
あれ
プロポーズ
だったの
か……

ま～俺は
何でも
構わない
けどな
上手く
いくといいな
色々と
何事においても
完璧という
ものはない
人族の和平に
ついても
あの一族が
大人しくなるか
どうかもな
ただ悔いの
残らぬよう
行動する
のみだ

いや～
しかし結婚か…
俺が結婚なぁ～……
何だ？
嫌か？
嫌ではねぇよ
こんな美形な
魔王様と
結婚できるん
だもんよ
ただ俺が
結婚なんて
信じられ
なくてよ…
でも
本当に結婚
するのだぞ

そ～～～
だな～～～…
俺の可愛い
婚約相手が
ラブラブ
セックスして
くれたら
実感わくかも
らぶらぶ
せっくす…
いつもらぶらぶ
ではないか
どう違うのだ？

足りねぇ
足りねぇ!!
もっと愛が
欲しいのよ
愛が!!!
好き好き
ってきもちを
全身でぶつけ
るわけよ
分かって
ねぇな
魔王様は
むう……
好きだっ
クルト！
ばふっ
大好き
なのだっ！

……
クルト～……
お…
おう…
ドキ…
よく分かんねぇけど可愛いやつ……
顔あげろアル
んむ……

難しいものだな…
その…好きというのを伝えるのは…
余の愛はちゃんとクルトに伝わっているか……？
ちゅっ
んっ…！

だから！ そのエロい身体で伝えてくれって言ってんじゃねぇか
さわっ
む…お前は本当にそういうことが好きだな…
よ…よかろうっ
ぱさっ
余の愛を全身で受け取るがいい！
ギシ…
いくぞ…っクルト…!!
いつでもいいぞ魔王様♡

んぐっ…
あっ…
あああ…!!
ププ…
グッ
ビクッ
あっ♡
ズプッ
クルト…っ
クルト…!!!
ああっ♡
ズッ
ズト
ハァ
ハァ
ハァ
いい眺めだぜアル
すっげーエロい…

クルト…っ
好きだ…
クルト…!!
ズッ
ズッ
くちゅっ
ぬぷっ
はあっ
あっ
んっ…
はあ……
あ…
れろ
れろ
んっ
クルトお…
ドキドキ
もっと…
クルトが
ほしい…っ♡

うあっ!!?
ズ
ビクッ
ああっ♡
ン!!
んあっ…クルトおっ
ハァ
ハァ
ズッ
ビクッ
ビクッ
どうだっ気持ちいいか?
あっはぁっ♡
ズプッ
グプッ
良い…っきもちいいっ…クルトお…
ズッ

クルトっ
ビク
はあっ
ビクッ
れろっ
はっ
くちゅ
あっ
そういえば
尻尾も
感じるん
だったよな？
あっ
ハァ
すりっ
ズリ
クルト！
やめ…っ
あっ♡
ハァ
ズリ
きもち
よすぎて…っ
ヘンに
なるっ…
ビクン
くるとっ
あっ
ビクッ

あっ
はあっ♥
ビクッ
ビクッ
ド
ププッ
ドクッ
あああっ♥♥
くるとお…♡
ビュルルッ
アル…
ちゅっ♥
んっ…
うっ
ん……

時が経つのは早いもので

俺はビクターの養子に入り

ビクターの家の真名を受け継いだ

このことには魔族中に激震が走ったらしい

何せ傍目には執務から離れれば反目し合っていた二人が親戚になるのである

それも国の1位と2位が

これ以上にない政略結婚に開いた口が塞がらなかった者も多いとか

残念ながら部屋から出ない俺には関係のない話だけど…

ふあ……

アルの家とビクターの家の真名を受け継ぐって…

すごいことなんじゃねぇの？

魔族では有り得んことだ

今にこの国でクルト以上の家名を持つ者はいなくなるぞ

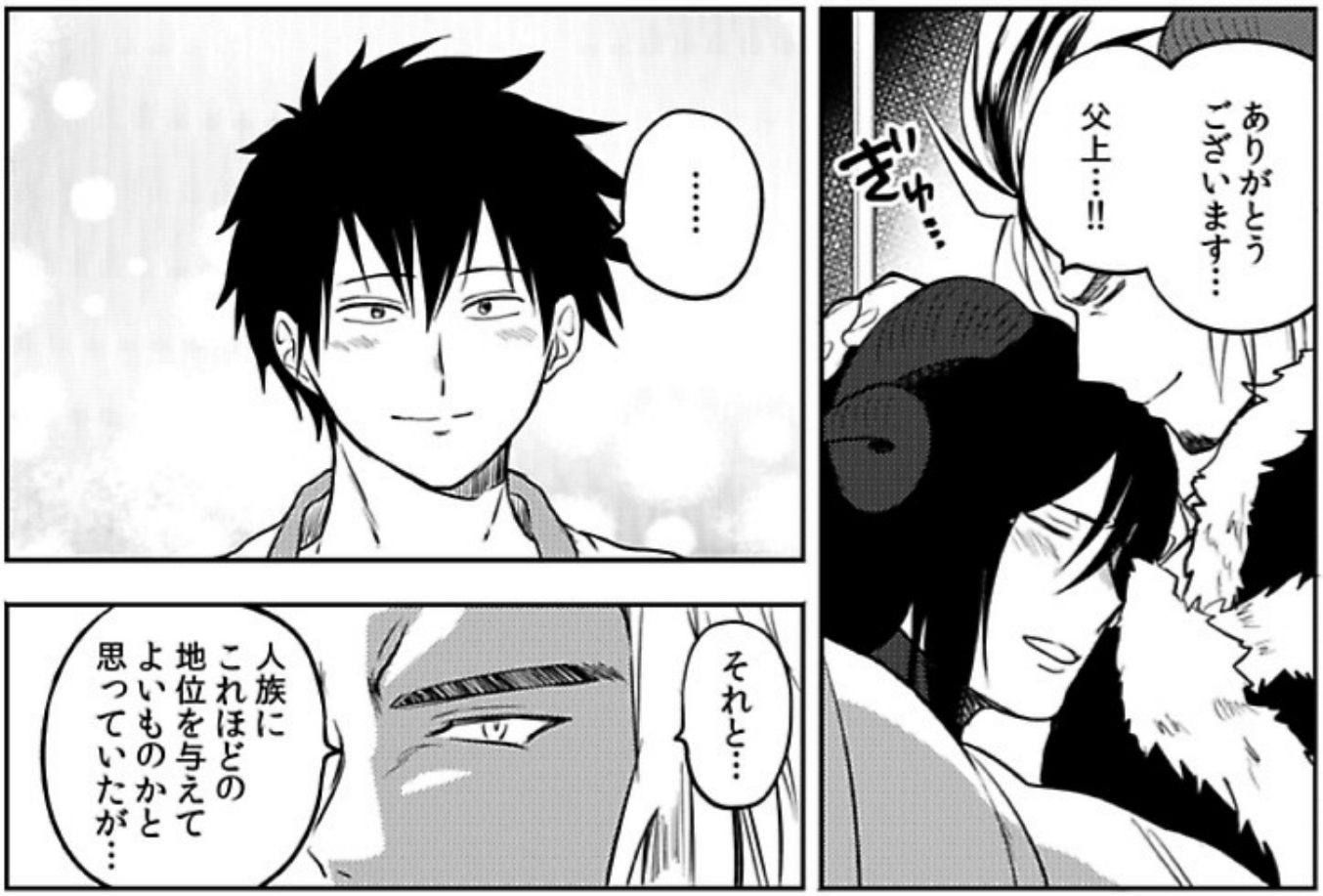
人族の王の反応が見ものだな

陛下
式典の準備は
できております
スッ
おぉーっ!!
デリアさんじゃ
ないっすか～～～!!!
俺の近衛隊長に
なったんだってな!?
おめでとう!
デリアには
ほんと世話に
なったよ
マジで
これからも
よろしくな!
頼りにしてるぜ
何!?
どういう感情!!?
ニィ…
照れ
てんの!?
さすがに
相手が
魔王様とも
なると
籍入る
だけで
大変なん
だな
結婚式も
あるのに
よぉ～
改めて貴族に
お前をお披露目
する場だからな
ばふっ
お前はまた
見下して
いれば
よいのだ
言葉を
返してやる
必要など
ない
まあ…それは
いいんだけどな
今日ってほら…
アルのお父さんが
来てるって…
なんだ?
気にしている
のか?
珍しいな
さすがに
気にするわ…
義理の
父親になるん
だぜ～?
それに魔王様の
父親って言われたら
すげぇ恐いの
想像しちまうよ…
10mくらい
あって
人食いながら
指からビーム
出してそう
「平穏ナソ
要ラヌ…
全て…滅ブ
ガイイ…」
フフ…っ
会えば分かる
通せ!

!!!!
ドォーン!
バビュンッ!!
バチ
バチ
……
シュウウウ…
ソファーが……
お気に入りだったのに…
父上!!
私の攻撃で傷一つ付かんとは
いい嫁を貰ったなアルノルト
バチ
バチ

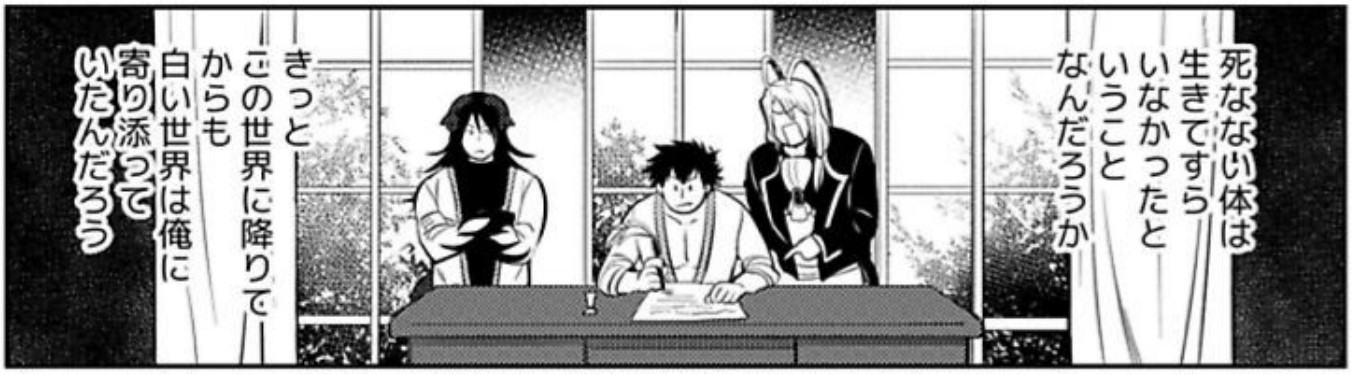
まっまままだ心の準備ができてねぇ～!!!
マイネーモイズクルトゥ…
はっはじめっはじめもアすぃ…
ひょいっ
緊張せずともよい
ムッ…軽いなちゃんと食べさせてもらっておるのか?
父上の感覚で言ったら人族は皆軽くなります!
というか今すぐクルトをお離しください!!!
妬いておるのか?お前もまだまだ子どもだな
いや～～～しかし…父の乳がデケエ～～!!!
しかし平坦な顔つきだなこういうのが好きか?
顔は…まぁ…クっクルトには…その…魅力がたくさんあるんです!!
もみゅっ
!!!
クルトお前はぁ～～～!!!?誰でもいいのか!?
条件反射条件反射!!!
はっはっは!度胸があるのかはたまた単に常識知らずなのか…!!
おもしろい!気に入ったぞクルト君!!

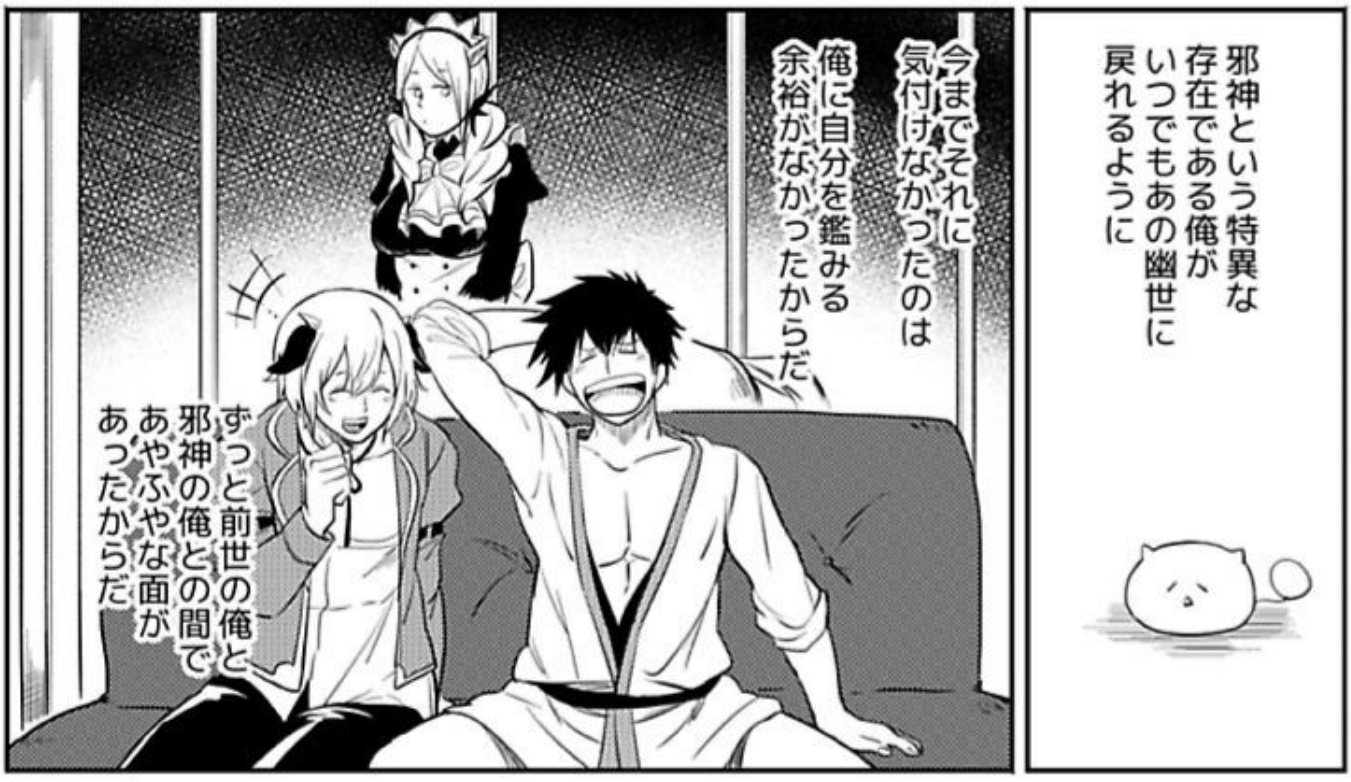
何ならもっと揉んでみるか？
それじゃあお言葉に甘えて
ベチン!!
少しは反省せんか――ッ!!!
父上もやめてください!!!
独り占めしたい気持ちは分かるがもっと自由にさせてやったらどうだ
十分楽しんでますよこいつは愛人何人も作って!!!
まだ二人ですけどね
貴様は黙っておれ!!!
はっはっは!!
こんなに楽しそうにしているアルノルトは初めて見た…！
男手一つで育ててきたが…仕事ばかりだった私は独りで苦しむお前に何もしてやれなかった…
ずっと寂しかっただろう…
だがこれからはクルト君がいるのだな
何もできなかった私だが…
せめてお前とクルト君の幸せを願わせてくれ
父上そんなっ
貴方がいつも私を気にかけていてくださったこと知っています…!!


ありがとうございます…
父上…!!
ぎゅっ
……
それと…
人族にこれほどの地位を与えてよいものかと思っていたが…

君と会ってその不安はなくなった
人ならざる君ならば
魔族と人族を和平へと導くことができるやもしれぬな
またゆっくり話をしたいものだ

結局のところ
うむ…
余も父のように
偉大になりたい
ものだ
かっこいい
父ちゃんだな
どことなく
アルに
似てる


死なない体は
生きてすら
いなかったと
いうこと
なんだろうか
きっと
この世界に降りて
からも
白い世界は俺に
寄り添って
いたんだろう

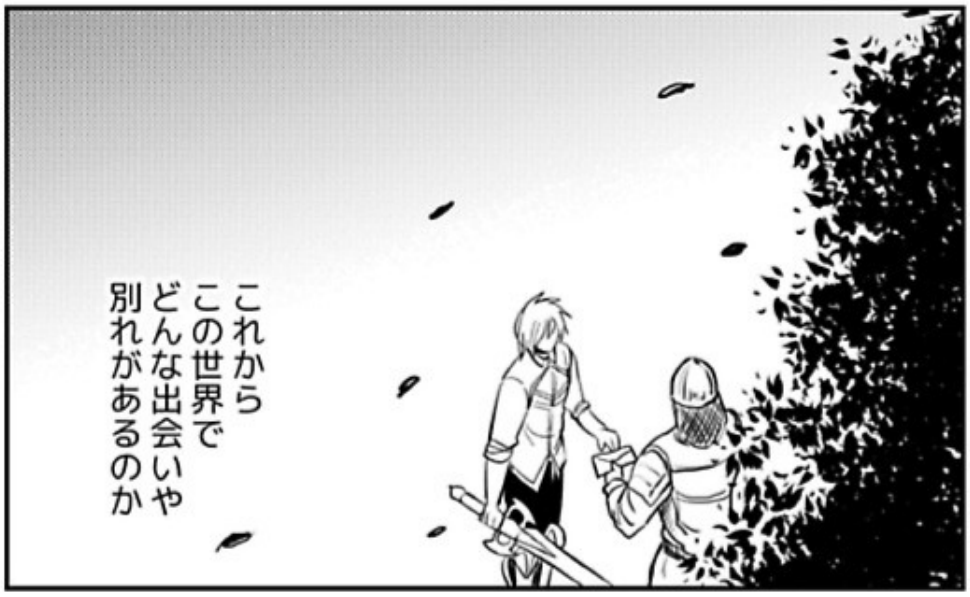

邪神という特異な
存在である俺が
いつでもあの幽世に
戻れるように
今までそれに
気付けなかったのは
俺に自分を鑑みる
余裕がなかったからだ
ずっと前世の俺と
邪神の俺との間で
あやふやな面が
あったからだ

でももう迷わない
俺は〝俺〟だ

あの世界への
『入り口』は
今は頭の片隅に
しまっておこう

――

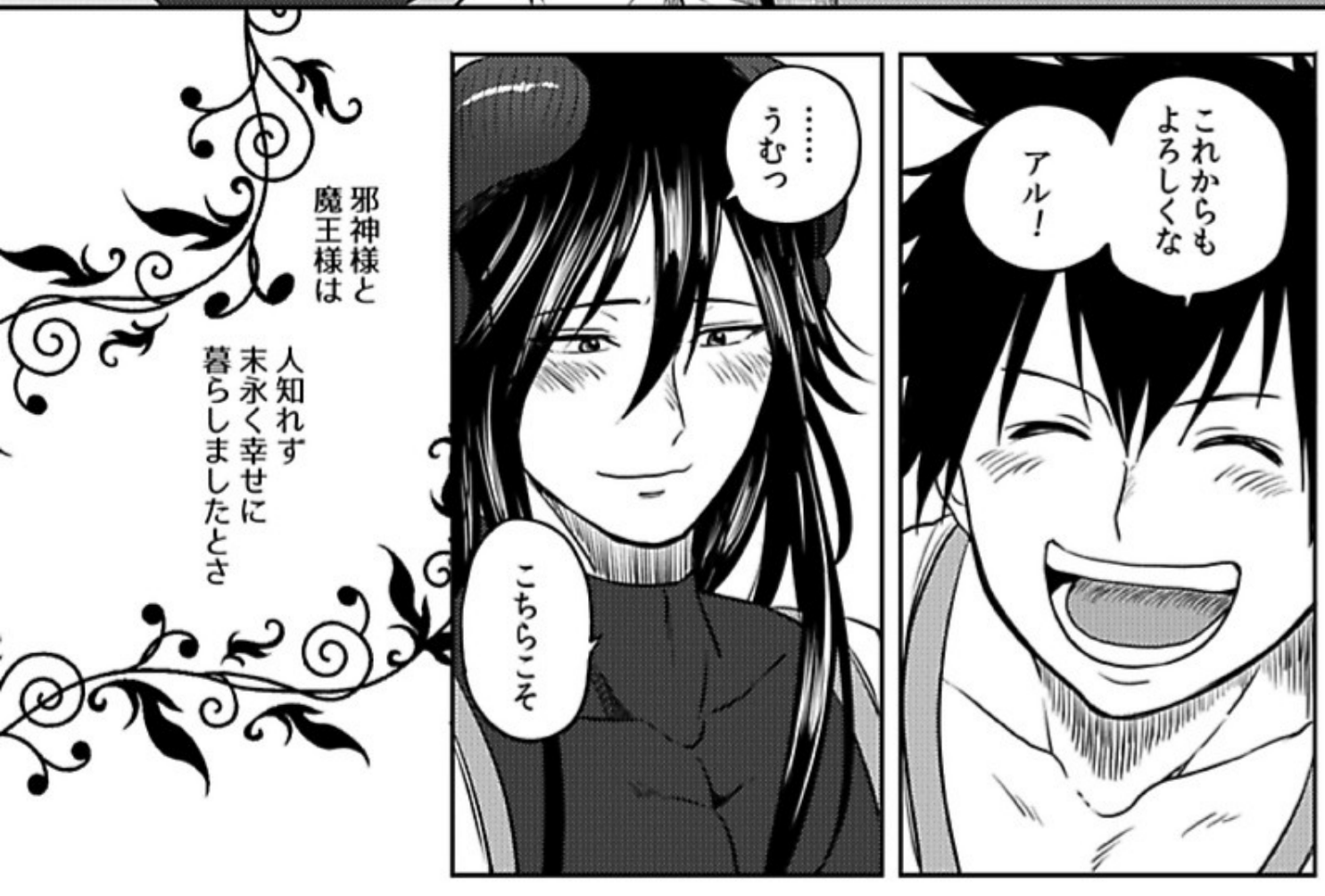
いつか
遠いいつかに
それが必要に
なる時が
くるまでは…



これから
この世界で
どんな出会いや
別れがあるのか

どんなことが
起こるのか
分からないけど

お前が隣にいればなんでも楽しいよなきっと
ヒョイッ
わっクルト!!
どうしたのだ急に…っ!!


これからもよろしくなアル!
……うむっ
こちらこそ
邪神様と魔王様は
人知れず末永く幸せに暮らしましたとさ

祝☆続編制作決定!!
皆さんの応援のおかげです!
え…
あの…
続編でもクルト様と…♡♡♡
ムフフ♥
よろしくお願いします…
でへへ♡
また愛人を増やす気か貴様〜〜〜!!!!
ガオ!!

ゆうゆー
原作 楢山幕府
転生
エロチートな
邪神様

特に取り柄のない平凡なサラリーマンの俺は、ある日車に轢かれて死んだと思ったら

？

どこだここ？

夢？

異世界に転生して〝邪神〟になった

ど――ん!!

貴様が今日の夜伽の相手か？

いかにも魔王様って感じの人出てきた!!

邪神になった俺には〝いくつかスキルみたいなのがあるようで

ゴオオオオオ

そのおかげで魔王様の魔法も物理攻撃も一切効かない〟

喰らえ！余の最上級魔法!!

うわちゃー!!あっつ!!!あれ？熱くないわ…

し・か・も♡

邪神(おれ)にはどんな奴でもメロメロにする
催淫という最強の能力があるのだ!!!
ドン!

フェリ
おっぱいミルクが出るフリーシアンという種族で俺の教育係

フェリのミルクは最高にうまいのだ!!しかもエロい!

ビクター
真面目で厳しい宰相様

ドM

そしてこの世界の魔王様でさえも
ク…クルト…♡
早くぅ…♡
くぱぁ♥
俺の手にかかればメロメロのエロエロなのだ～～～♡
まあそんなこんなで
異世界でハーレム生活送ってる―俺、邪神は。
本日めでたく結婚式を挙げることになりま…
すがすがっ～
クルト！
クルト!!
早くせぬかー!!
ばかもの――っ!!!
ドン!!

あっ アル！ なんだよ びっくりした
なんだよ ではない!! 早くセックスせねば式が始まるだろう！
いや〜 なんか急に思い出に浸っちゃって……
浸るなー!! 余が目の前におるというのに!!
は… 早くしろっ
ズ
もう我慢できぬ…!!
ちゃりっ
イッ
んんっ…
れろぉ
れろっ
ハアッ… せっかちエロ魔王だな〜…
うっうるさいっ！
お前に言われたくないわ！
ハァ…
ハァ…

乳首も敏感になってきたよな～
あっ
んんっ…!!
ビクッ
服の上からでも分かるくらいビンビンだし
クリッ
んっ…!!
ハァ…!
乳首触っただけでエロ声出すし
ぎゅ
ああッ!!
うっ!
はぁ～…このデカパイ生で触りてぇけどなんか脱がすの面倒そうな服だな～…
はあっ…
ん…
かぷっ
お…おいっあまり衣装を乱すな…
ちゅう
ビクターに怒られっ…っ!
お前がやたら物壊すからビクターも心配してんだろ
さすがに服は壊さぬ
う～～ん…無理矢理したら服崩れるしなぁどうすっか…

あーもー
だめだこの服
めんどくせぇ!!
もう
やめるか!?
でっでも
今やらねば
式が
始まれば
一日中仕事
…
結婚式
やめるか!!?
そっち!?
わた
わた
いやさすがに
結婚式は
やらねば示しが…
じゃあもう
セックス
諦めるしか
ないのか…
そんな
!!
だって
服が…
ええええい!!!
ごちゃごちゃ言わず
早くやれ――ッッ!!!!
ズァッ
服が――!!!
バリバリッ
これで
良いだ
ろう
ど――ん
よくねーよ!
全裸で結婚式
する気か!!
構わぬ
そ…そっか…!
お前
かっこいいよ!!
漢だよ!
よし!!
俺も脱ぐから
さっきのやつの
やり方教えて
くれ!!
よかろう
ザッ
よくありま
せ――ん!!!
ゲッ
この声は…

その服は特注で高価な一点ものと
クルト様ーっ！おはよう！
ビクター！フェリ！
散々申し上げたはずです!!!
ばん!!
よい！余は全裸で結婚式をするのだ！
なりません!!
替えを10点ほど用意しておいてよかった
スパッ
一点ものちゃうやんけ
さあ早く着替えて！
今日のフェリかっこいいな～
えへ！クルト様もかわいいよ♡
そこはかっこいいがよかったかな～
こらそこッ!!いちゃつくな！余のクルトぞ!!
これでよし…と
キュッ
全く…クルト様も溜まっているのなら私を呼べばいいものを
ぼっ僕も呼んでほしいなっ
最近式の準備で忙しかったしな～
終わったら皆でパーッとヤるか！
おっおいクルト!!?

クルトは余の嫁になるのだぞっ!?
別に愛人がいるのは…構わんが……
あっ…あまりそのっ……余以外と…
はいはい分かってるよごめんって
陛下って意外とヤキモチ焼きなんですねぇ…
まあそこが割と可愛かったりするんだよ…
むぅー!!
またそうやって二人で話して…!!
拗ねるなって
ダイッ
！
式が終わったら一番にお前とセックスするよ
……絶対だぞ…
約束だからな…!!!
そろそろ移動した方がいい頃合いかな…
クルト様は私と一緒に来たまえ
むぅ
君の故郷では花嫁は父親に連れられてくるそうだからね
いや俺花婿で良いんだけど…
ちなみに式の段取りを一応説明しておくが
…

陛下と君が檀上に上がり結婚の成約を済ました後

陛下が魔族と人族との共存について軽くスピーチをする

うんうんうん

君は隣で聞いているだけで良い

披露宴でも参列者からの挨拶を受けるだけだから特に問題はないはずだ

俺なんもしなくていいーのか～楽でいいな

そうそう君が気にしていた勇者も来ているよ

わく

わく

え～～～～～～!?

勇者あ～～～～～～!!?

君は何故勇者と聞くとテンションが上がる？

強いていうなら敵側だぞ

でも争いにきたわけじゃないんだろ？

勇者ってことは仲間も一緒かな～！

勇者パーティ！会ってみたいな～!!

ほらもう式場につくぞ

パアアッ

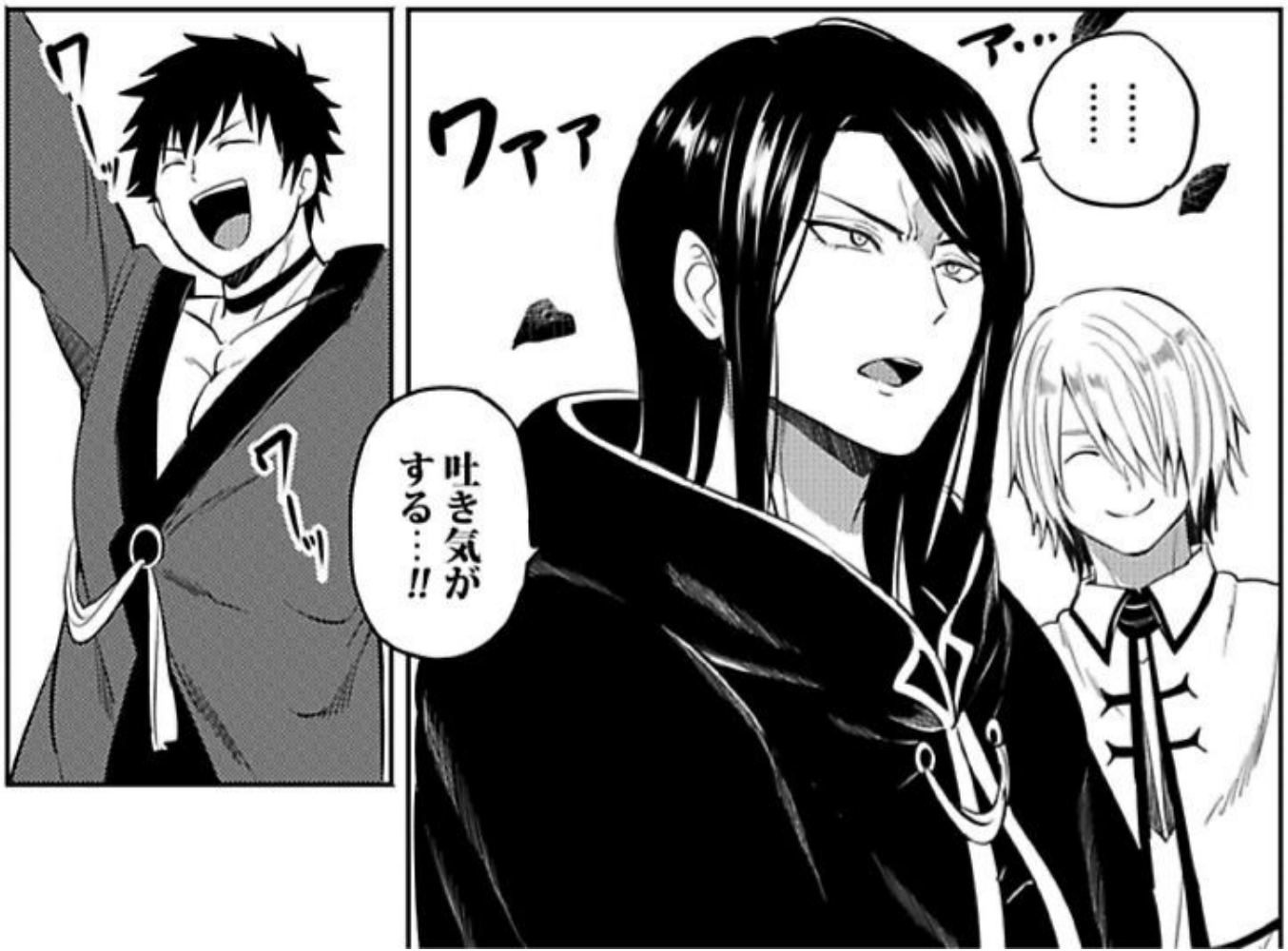
わっ…

ワアア
アア
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ

すっげー…！
こんなに
いっぱい…!!!
あ
あ
わあ
みんな
俺とアルを
祝福して
くれてるん
だって思うと
嬉しいな～…

クルト様
歩いて
お…
おうっ
こんなとこで
うんこ
漏らしたら
どうなるん
だろう…

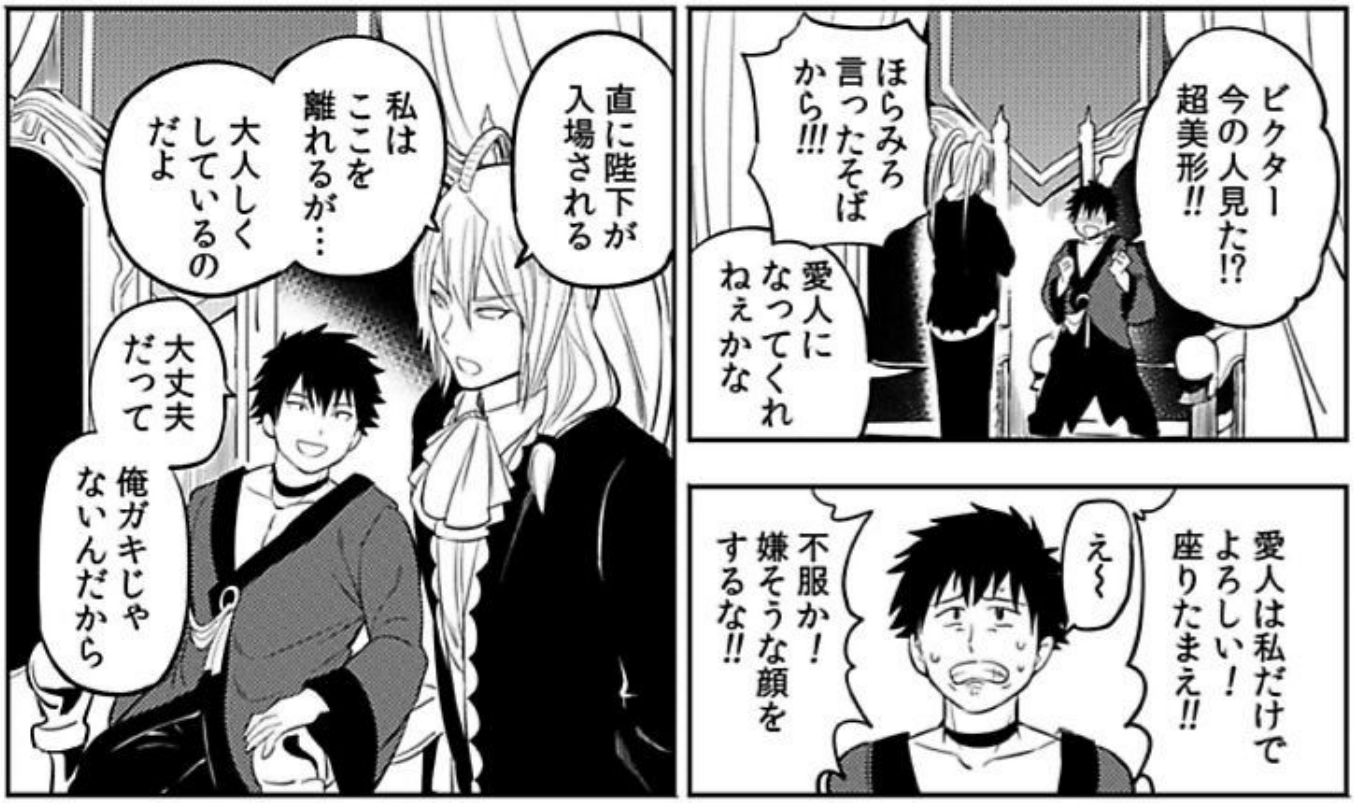
ほぉ～
あれが…
噂通りの
アホ面だぜ
あはは
弱そう
ですし…
ねぇ～？
ユーライヌ
伯爵？


ア…
……
ワァア
吐き気が
する…!!
ワッ

さてっ
勇者パーティは
どこかなーっと
コラ
コラ!!
ぽかっ
キョロキョロ
するんじゃない!
それに結婚式
だというのに
勇者勇者と…
陛下の前では
絶対に言うんじゃ
ないぞ

別に愛人に
しようって
わけじゃ
ないんだしさ~
ただちょっと
ステータスとか
気になるだけで
しかし
君は変態
だからな…
!!

あっ
ぱぁ
にこっ
うぉ~~~~~♡
ドキッ


ビクター
今の人見た!?
超美形!!
ほらみろ
言ったそば
から!!!
愛人に
なってくれ
ねぇかな
愛人は私だけで
よろしい!
座りたまえ!!
え〜
不服か!
嫌そうな顔を
するな!!
直に陛下が
入場される
私は
ここを
離れるが…
大人しく
しているの
だよ
大丈夫
だって
俺ガキじゃ
ないんだから

アルノルト陛下の
ご入場です
ギィ…
バ
サッ!!

ざわっ…
うおー…
すげぇ緊張感…
ドクン…
アルはやっぱ
魔王様だ
なぁ――…
格好いいアルを
見て
俺が一番に
思ったのは…

全裸じゃなくて
よかった…
クルト
……
ふふっ…
今日のお前は
一段と…
格好よく
見えるな…！

それは
アルも！
これから!!
余とクルトの
結婚の成約を行う!!!
参列し
ここにいる
全ての者が
その証人となる!!
しかと
見届けて
もらいたい!!!
ドーン!
アルノルト陛下に
栄光あれー!!
ワーッ!!
祝福を！
ワーッ!!
祝福を！

『新しいスペシャルスキル【触手】を獲得しました』

ミニちゃん
じゃ～～～～!!!
どーん!
エルフ
だ～～～～!!!
お主が
クルトじゃの
ぴょんっ
ぴょんっ
感動!!
ちっせ～
ミニちゃん
ちっせぇ
よ～
ほんとに
耳尖って
るし～～～
なぜ
泣いておる
のじゃ?
アルノルトとは
久しいの
まだ生きて
おられた
とは…
うわっ!
顔こわっ!!
儂は
嫌われて
おるのか?
いえ…
こちらの
問題です
ので
お気に
なさらず…
どやっ
ミニ・ソマベ・
レーイ殿
エルフ族の中でも
長老格と呼ばれる
権威のあるお方です
ふふ～ん

エルフ族は魔族と人族との間で中立の立場を示しておりますので…
仲立ちとして同行して下さいます
そういうことじゃっ！
よろしくの

…気にいらぬ…

何故クルトが案内せねばならぬのだー!!!
しかも3日も!!
外出中はビクターの所に泊まるというし
陛下！子どもじゃないんですから
じたばた

そういや今勇者はどこに？

人族の方々は王城内の一画にある客室にて
メイド兼近衛隊長のデリア
俺の世話係なのだ！
ご滞在頂いておりますが…
陛下もあの状態ですしお会いするのはあまりお薦めできませんね
え～～頼むよ～！アルには内緒で!!
しかし…

俺のこと鞭で2、3回シバいてもいいから!!
それは流石に…
ウズ
うわっ嬉しそ
ウズ

勇者は現在
部屋を出て
ここで鍛錬中とのことですが…
どこかな
勇者～♡
！
あの方です
ハアッ…
ハアッ…
うおおぉ～～～!!!
ドキュン
えっ…あ…!!
ハァ
ハァ
これは
クルト様！
如何なされ
ました？

眩しいわ――――!!!!
ええっ!?
アルたちのおかげで美形には慣れてたけど…
?
この透き通った水のような透明感と涼やかな笑顔！
そして何よりこの汗と筋肉～～～～!!
むちっ
やられた……
スッ…
合格
えっ…あの…
?
あ…ありがとうございます…?
クルト様…陛下の伴侶たるものそのような振る舞いはちょっと…
俺なんか変だった?
いつも通り変でした
ふふ…クルト様って面白い方なのですね
なんだか想像していたよりもずっと親しみやすそうで…
あっすみません僕ったら…
いいよいいよ
俺のほうこそ礼儀とかなってなくてごめん
堅苦しいのって苦手でさ～…君も楽にしてくれたら嬉しいな

そうだ俺
勇者の君に
聞きたい
ことがあって

イリオスと
申します

自分にお答えできる
ことでしたら
何なりとお聞き下さい

イリオスは
勇者と呼ばれ
てるよな

それって何か条件
みたいなものが
あるのか？

そうですね…
まずは
闇属性への
耐性が有り

尚且つ対抗手段
を持ち合わせて
いるのが
最低の条件です

そこから
魔物討伐などで
実績を重ね…

力を認められた
ものだけが

『勇者』という
称号を
各々が所属する
国から賜ります

クルト様も
闇属性への耐性を
お持ちでしたね

ん～…
でも俺の場合
対抗手段というか
戦闘能力が
皆無だから

最低条件
すらクリア
出来ないよ

えっ？

俺が辺境の村出身
なのは知ってる
だろ？

騎士の家系
でも何でも
ないし

邪神ということを
公にはできない為

俺には一応
人族としての
設定があって

それは事前に
人族側にも
伝えられている
のだ！

……

それに
こんな
貧弱な体
だしさ

確か魔族の領土に近い人族の村で魔物の多い地域でしたよね
えっそうなの…？
戦闘能力がないとなるとさぞ苦労されたことでしょう…
ばっ
いやほらっ見ての通り全然問題なかったから!!
逃げるのだけはプロ並みだから
存在しない過去に同情されるの忍びねぇ…!!
ぷ…
！

あははっ！
イリオス…？
すみませ…ふふっ…!!
本当に…！面白い方ですね…!!
ぱあっ

ほっ

……もう一個質問いいかな？
はい！何でもどうぞ

イリオスは…魔族をどう思う？共存は出来ると思うか？
えっと…今日アルが人族と共存することを結婚式のスピーチで宣言したけど…
共存……ですか…

それはやはり
自分が勇者と
呼ばれる者だから
聞かれているん
ですよね
人族と魔族が
戦争を起こせば
体を張って戦う
のはイリオスだろ?
前線で
戦ってる人の
意見を
聞きたかったんだ
……
これは…
自分の個人的な
考えでしか
ないのですが……

自分が見聞き
してきたことを
振り返るに
簡単な話では
ないでしょう
直接魔族と
相対した者は
少なくても…
魔物による
被害は甚大
ですから
だけど自分は…
魔物との戦いを
重ねる内
一つの疑問が
浮かんできました

今まで
人族の常識では
魔族が魔物を
使役し
人族に害を
成していると
考えられて
きましたが…
…本当に
そうなの
だろうかと…
…こうした
疑問を持つこと
さえ人族では
許されません
それどころか
異端な考えと
非難される
でしょう
それだけ
その考えが
浸透してる
わけだな…

自分以外にも魔族と魔物の関係に疑問を持っている者はいるはずです…！
今回自分は国を代表して魔族とのあり方を見極めてくるよう勅命を受けました
それがどんな結果であれ…自分はこの目で確かめてみたいのです!!
真面目だなぁ…イリオスは…
それ俺だから話してくれてるんだよな

はい…魔族の伴侶となられたクルト様だから言えることです
そっか…ありがとう！正直に話してくれて
ぎゅっ
クルト様…

今はまだ…真に分かり合えることは難しいと思います
でもなんだかクルト様を見ていると……
人族と魔族が共存できる日も遠くはないと…そう感じます

でえっへっへ♡
いい子だったな～イリオス♡
身体も…むっふふ
ニヤニヤ
明日も楽しみだな～♡
今日はお話できて良かったです！
クルト様のような素敵な方に出会えて…
本当に嬉しく思います――…!!
ガチャ
素敵な方かぁ～!!
俺なんか特に長所もないのに
やっぱ邪神の力なのかなー
……
ムッ
ズーン
!?
ア…アル…

勇者の所にでも行っていたのか
バレてる!!!
式が終わったら…一番に余とセックスすると……
ゴゴゴゴゴゴ…
ひえぇっ!!
約束したのに…
俺が悪かった!
でっでもなんで分かったんだ!?

余はクルトの加護を受けておるのだぞ!?
引きこもりのお前が部屋を出ればすぐ気付くに決まっておろう!!!
加護…!
そうか…!!
確かに俺が与えた邪神の加護によってお互いの存在が認識できるようにはなるけど…
意識しないと感じないはず…
そんなに常に俺のことを気にかけて…

クルトは余の伴侶だぞ…!!気にかけるのは当たり前だ!!
それなのにっ…!!
そんなに勇者が好きなら!!勇者のところで泊まれば良かろう!!!

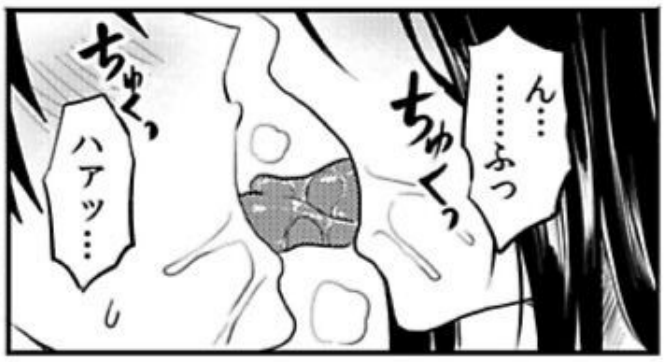
……ごめん…
本当にごめん…
確かに…
勇者は
好きだけど…!!
これだけは
言わせてくれ!!
俺…
いろんな奴に
手ェ出すけど!
俺の旦那さんは
世界でたった
一人だし!!
それに何より…
アルが一番
ムラムラするから!!!
モゾ
モゾ
……っ!!
そ…それは…
まことか…
こんな時に
嘘は言わん!!
好きだ!!!
ドキ
ドキ
うぐぅっ…!!
その言葉に
偽りがないの
なら…!!
許してやろう…!!!
ギュッ
ありがとう
アル…!
もう寂しい思いを
させないよう
努力する

明日から…
しばらく
会えなくなる
……
だから
その分
……
気持ちよく
しろ…!!

クルト…ッ
んっ…
んぅ…ッ

はいはい
なでっ

…っふ…
全然…
足らぬぞ…


ん…
……ふっ
ちゅくっ
ちゅくっ
ハアッ…

ハアッ…
フー…
ハアッ…
……

あぁ～…
アルの
生おっぱいだ♡
む…っ
もみっ
すっげぇ
弾力…
むちっ
んっ…
むちっ
んっ
んぅっ
うっ…
ハァ…
乳首
ビンビンだな
そんなに
気持ちイイか？

ハァッ…
クルト…！
もう…っ
胸はよい…!!
ここが疼いて…
我慢できぬ…！
くぱぁ
ぴとっ
早く
クルトのが
欲しい…ッ
スケベな
ケツ穴
だな～♡
ああっ
あぁ♡♡
ビクッ
ズッ
んんっ♡
ズッ
はぁっ
ビクッ
ああっ
クルトっ…
ビクッ
ビクンッ
ズッ
ズッ

はぁっ
はぁ
はぁ
い〜い眺めっ!!
うお〜っ♡
ズッ
ブルンッ
ズチュッ
ヌプッ
ズッ
んあっ♡
ビクッ
ビクッ
肉厚も締め付けもたまらね〜っ!
ビクッ
あっ♡
キュンッ♡
ぐぷっ
ぐぷぷっ
あアッ!
んんうっ!
はあ…っもっと奥まで激しくしてくれぇっ…
ギゅっ
ビクッ
好きだぞ…クルトっ…
ビクッ
ズッ
ズッ

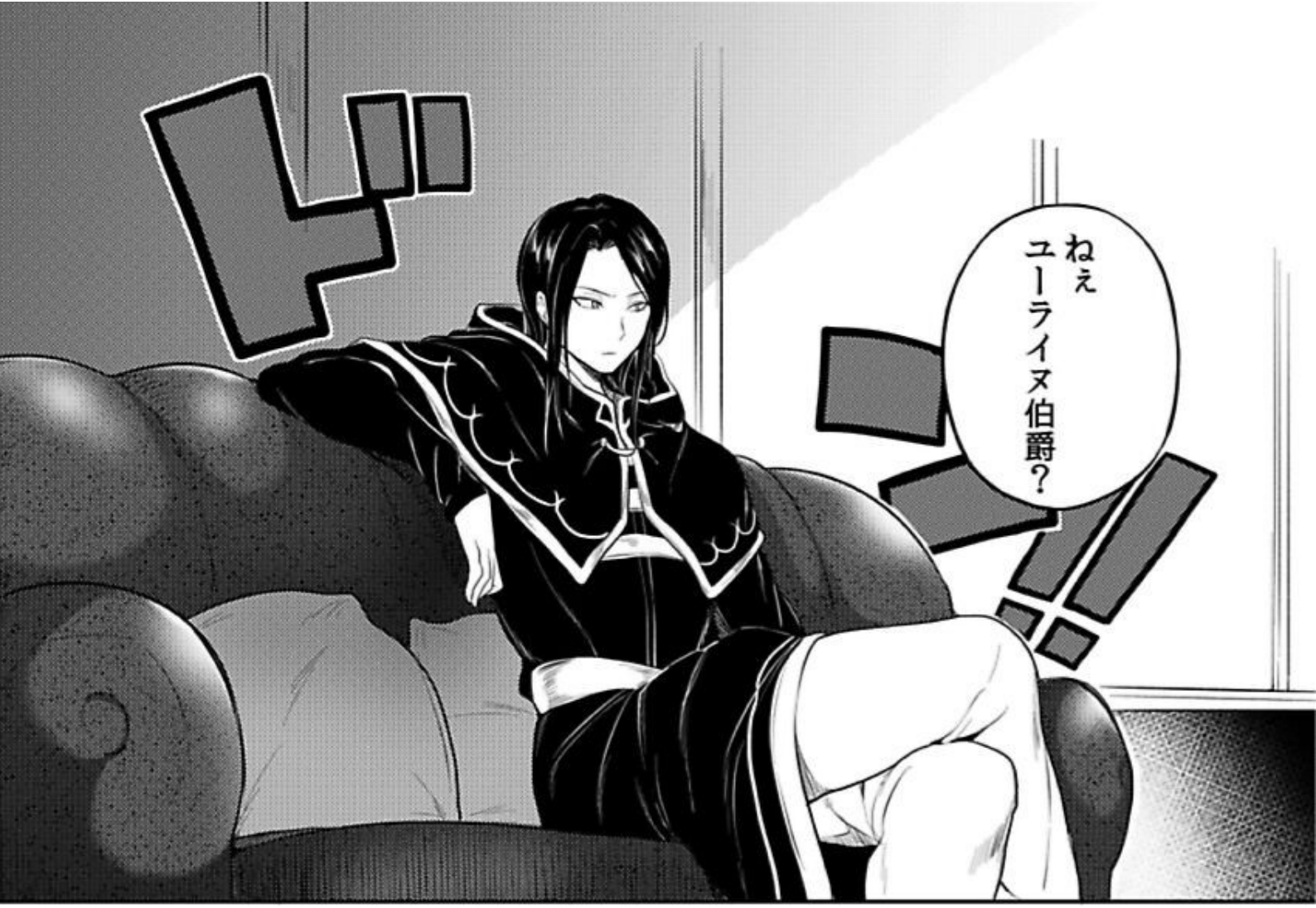
クル…
トぉ…っ♡
はあっ…
お前…すげー
かわいいよっ
はっあっ…
ああっ
はあっ…
んうぅっ…
ク…ルトぉ…
お前の精液…っ
余の…中にっ
いっぱい
注いでくれぇっ…
はあっ…
あ…アル…！

ビュルル
うっあああ
あああっ～～～っ
ビュルル
はっあ
あああっ♡
ドピュ
ルッ!!
はあっ
つ
ぬぷっ
はあっ…

クルト…
愛しているぞ…
アル…♡

あぁ～…
魔族だらけで
どうも気分が
悪いですねぇ
でも
メシは
うめぇぞ
よく
食べられます
ねぇ…
魔族の料理
なんか

しかし
よお！
魔王もよりに
よって
何であんな
冴えないガキが
良かったんだ!?
ゲッ
ガビーン
取り巻きは
美人揃い
だったろ！
魔王自身が
あれ程の
美男子ですから
整った顔立ちに
飽きてしまった
のかもしれませんよ
貴族の世界じゃ
稀にある話じゃ
ないんですか？


ドゴ
ねぇ
ユーライヌ伯爵？

…ないこともないね
…あんな奴が魔王の弱みだというのなら…こちらとしてはありがたい

クルトだっけ？　落とすのは楽勝そうだよな
ええ…魔王の伴侶になっとはいえ　元は人族　我々勇者パーティには憧れをお持ちでしょう

特にラニズくんは我々の中で一番体格が魔王に似ていますからねぇ～　向こうからお誘いがあるかもしれませんよお？
うげぇ～　気持ち悪いこと言うんじゃねぇよ！

それに
ユーライヌ伯爵なら
あの青年を押しのけて
魔王の寵愛を
受けることも可能
では～？
ニヤニヤ
背格好も
同じくらい
ですし…
何より
容姿が
お美しい♡
どっ…
…ハッ！
誰が魔王なんかの
第一僕には
麗しの姫が
待ってるんだ!!
ばっ

くく…
まあ最悪
あのクルトと
いうやつは
輪姦して
しまえば
いいなりに
なるでしょう
お前
一人でやれよ
そんなこと！
おや
良いんですか？
私一人で功を立てて
しまって
……やっぱ
なし！
ヤるときゃ
呼べ
～～～!!
気分が悪い…！
変な話をするな!!

とにかく…!!
奴とは三日間も
過ごすことになる
んだ
機会は
いくらでも
ある…！
必ずやクルトを
落とし…
魔王を潰してやる!!

じゃあ試しに使ってみるぞ
クルト♡
ジジ…
クルト♡
おお！素晴らしい!!!
おお！素晴らしい!!!
クルトもクルトもっ！
え…えー…
じゃあ…アルノルト…
いちゃ♡
え…えー…
じゃあ…アルノルト…
いちゃ
な…名前呼びはずるかろう～♡♡
あはは
うふふ…
ヴー
ヴー
ヴー
あいつやべエテンションだったしこんな予感はじたんだよ……
勇者パーティの目の前じゃ出れねぇじ…
おうっ!!!クルトよぉ！暗い顔してんじゃねぇか!!!
竜車酔いってやつかァ!?オイ!!
ちょ…ちょっと！クルト様を呼び捨てにするのはどうかと思います
あー？細けェこと気にしてんじゃねぇよ乳デケェくせに
な…!?関係ないし君のほうが大きいだろ!!!
この大男は勇者パーティの重騎士ラニズ
意外と甘い顔にデッカイおっぱいはまぁ…嫌いじゃないけど…
まーそう怒んなって
楽しくいこうや
あのフェリがイラつく程にやかましくて遠慮がないこの軽すぎる性格はさすがにちょっと気になる

すみませんねぇ
礼儀がなってなくて
ぽんっ
この怪しげな男は
勇者パーティの僧侶
トリトス
ニヤ
しかし本当に
体調がお悪そうですねぇ
私が回復の杖でも
使いましょうか
ニヤ
正直何考えてるか全然分からん……
あんまり近寄りたくはない
雰囲気だ…

いや…ははは
大丈夫ッス…
体小せぇなぁ～
ちゃんと
食ってんのかぁ？
ユーライヌ伯の方が
まだ鍛えてんじゃ
……
高等魔術師学校を
卒業した僕と
何もしていない
クルト様を
比べないでくれる？

この中性的で綺麗な男は
勇者パーティの魔術師
カミラ
バカ2人は何も
分かっていないようですが…
クルト様
こんな陰気な場所で
ずっと魔族に囲まれて
生活せねばならない心労を
考えると…胸が痛みます
かなりの美人さんだが
パーティで唯一の貴族階級らしく
高圧的な気性が見え透いてて
なんだか嫌な感じ…

マトモな奴はいないのかよ…
わぁ…！
素晴らしい街並み！
ガタン
人族の間では魔族は緻密な都市計画は持っていないと考えられてきたのに…
ゴトン
こんなにも美しい建物が並んでいるなんて…！

驚きです！
パァッ！
魔族の中でもこれほど緻密に作られた都市は多くないんですよ
城下町には多種族が住んでいるため
どの種族にも利便性があるものを――…
成程……

間違いなくこのパーティの良心
勇者イリオス…
建物の建築はどうされているんですか？
建物に関しては適材適所と言いますか…
作業内容によってそれが得意な種族が――…
この間少し話をしただけだけど真面目で優しくていい子だということはアホな俺にも分かる
ただちょっと真面目すぎるかなとは思うけど…
そこも可愛いんだよな～♡
ムフ♡

皆さん
貴族街が
見えて
きましたよ
今日は貴族街に
あるビクター邸に
泊まる予定になって
いるので
軽く街を見終わると
俺たちは貴族街で
竜車から降り
貴族の立派な建物を
じっくり眺めながら
徒歩でビクター邸に
向かうことになった

うげぇ
やっぱ魔族だけ
あって趣味は
悪いな
アレなんか
紫一色だぞ
落ち着か
ねぇ～～～
魔族
なんかに
僕らと同じ
美的感覚を
求める
お前が
間違ってるん
だよ

道は他と
変わらない
ところを
見ると
公道って
ことで
よろしいん
ですか
ねぇ？
えっあ…はい
建造物のある
敷地は私有地
ですが
道は
どこも
公道です

はぁ～！
素晴ら
しい…!!
これは
また見事な
……!!!
いい子すぎる
……
ほろり
キラ
キラ

ふむ…人族は昼に見える色を
魔族は夜に見える色を好むといった感じかの
あ～それしっくりくるかも
つーかミニちゃんデリアの背中に…
年寄りじゃからなぁ～歩くのも面倒での
その見た目で言われてもなぁ…

しっかしよぉさっきからずっと侍従が答えてばっかでクルト様はなーんも教えてくれねぇじゃねぇか
うおっ
俺より魔族のことに関してはフェリの方が詳しいし……
っていうかまずフェリは侍従じゃねぇし

あ～～…クルト様ってあんまり頭がよろしくなさそうだもんな
そんなことより背中におっぱい当たっとるがな!!!
むにっ
俺も体動かす方が好きだけどよ
まぁまぁ…頭がよろしくなくても
ズイッ
教えられることはありますし…ねぇ？
クルト様♡

おっ!?
あぁ?
何だよそりゃ
またお前は
変なこと
考えてんじゃ…
グイッ
ラニズ君
だって今
体を動かす方が
好きと
言っていたじゃ
ないですかぁ
まぁ確かにソレも
好きだけどよ
グリグリ
おおお〜〜〜!?
もしかして勇者パーティ…
ス…ス…スケベさん!?

あの美人な子も
実はスケベさん!?
うわっ…めっちゃ
ゴミを見るような目

Sなの!?
女王様タイプ
なの〜〜〜!?
なんで
急に満面の
笑みだよ
にこぉっ
思考が
読めません
ねぇ…
やった——!!!

ラニズ!!!
それに
トリトスも…!!!
先程から聞いて
いれば…!!!
ドッ!
貴殿の物言いは
明らかにクルト様を
愚弄している!!

クルト様は
お優しいから
何も
言わないが…
その軽々しい
振る舞いも
度を越している
にも程がある!!!
恥を知れ!!!
そ…
そんな
こたぁ
……
あったか？
クルト様
俺に振るなよ

謝罪もしない
つもりか!?
お前ちょっと
硬すぎんぞ
何!?
あのー
ビクター邸に
着きましたよ～
フェリも
イライラ
してん
なぁ…
何で
こいつらが
派遣され
たんだ…
う～む
人族は
何を考えと
るんじゃ
これじゃ
印象は
最悪じゃ

へ～!
豪華だな!!
この家は
そこまで
悪趣味でも
ないですねぇ
ズカズカ
そんなこと
よりこの
防御陣です!
あぁっ
学校すら
行けない
平民には
分からないか
……!!
随所に設置
された魔石が
……
うっせぇよ
ユーライヌ
伯!!!

はぁ？
ミルカイド石
だろ？
んなの常識
だって
どこででも
手に入る
一番低レベルの
魔石を…
知らない？
クルト様
ご出身の村でも
使われていたと
思いますが

…クルト様
あの魔石が
何かお分かりに
なられますか？
ひぃっ!!!
い…
いつの間に…
…あの
ランプの？
夜に光る
やつだろ？
種類は何か
お分かりに？
いや～
分かんね

あー…トリトスって奴
俺の知識の度合いを
確認したかったのか…
種類とか
気にしたこと
なくてさ～
はははっ
ミニ…
ミカエルド
何とか石な！
覚えとくよ！
ミルカイド!!!
物覚えも
悪いのかよ!!
大丈夫かよ
お前

ちくしょう…
今ので俺が常識知らずのアホ
だということがバレて
しまった…!!!
だがまだ俺が相当のスケベだと
いうことは気付いていないはずだ…

人族は何かを企んでいるような
気がしてならないが…
俺には色仕掛け以外は効かないぞ!!!
皆さん
個室を用意して
おりますので
ご案内致します
おおっ！
酒も頼むぜ!!
こらっ
ラニズ!!

クルト様っ
大丈夫？
ダッ
フェリ！
フェリこそ…
大分イライラ
してたけど
当たり前
だよ！
クルト様に
対して
あんな…!!
人族は魔族に
敵意を植え付けた
としか思えないっ!!!
プン!!
プン!
何か目的があるに
しても
こっちは
冷静でいないと
ダメだろ

解説も頼りっぱなし
だし…ごめんな
俺のために怒って
くれてありがとな
普通のこと
だよ……
ぽんっ
ねぇ…クルト様
気分転換に
…おっぱいでも
飲む？

せっかく
僕も愛人に
なれたん
だし…
すみません…
あの…
ガチャ
少しお話が
あるのですが…
出直した方が
良いでしょうか？
イリオス！

別にいいぞ何だ？
俺に用事？
数々の無礼…
大変申し訳ございませんでした!!!
ふかぶか～
うおっ!?
イリオス!?

頭上げろよ!!!
イリオスが謝ることじゃ…
いえ…一応自分はパーティのリーダー…
本日…自分のパーティがクルト様に対し
大変失礼な態度を取っ…
いいっていいって!!!
俺全然気にしてないから!!!

あまりにイリオスが真面目すぎてあのパーティに馴染めてないんじゃないかと心配になる…
個性が強いのって逆に長所だよ
俺はイリオスのパーティ好きだぜ！

うるうる
クルト様……!!!
なんと寛大な…!!!

あ！そうだ！イリオスが責任を感じてるっていうならひとつ罰を与えよう！
はいっ！何なりと!!

今後俺に対して畏まった態度禁止！
は……
公の場では難しいかもしれねーけど俺が案内してる間はラニズもああだし問題ないだろ
はぁ…ですが…ええっと……
大丈夫ですよ僕の時もこうでしたからっ
FIGHT!
そ…そうですか……
よーしこれでこの話終わり！
せっかくだしお茶してけよ
ズッ
は……あぁお邪魔でないなら…
そういえばさっき…あの……愛人いう言葉が聞こえてしまったのだが……
ふ…ふたりは公認で…そ……そういう関係……
な…っ!!!?
ふっ
ガシャーン!!
ふしだらな!!!!
あぁうん！
エヘヘ
公認でめっちゃエッチしてるよ
!!!!

シ～…ン…
……

いやお前真面目でお堅い委員長かよ!!

ふしだらな!て実際あんま聞かんぞ
ふしだらなて
すまない…取り乱してしまった…

イリオスには正直に言うけど俺ってかなりスケベなんだ
ごめんな……
あぁ…いやスケベが悪いというわけでは…

自分は…聖騎士は女性と関係を結ぶことが出来ない決まりがあって…
その…あまり耐性がないんだ
すまない……

と…いうことはエッチなことが苦手なわけじゃなくてまだ知らないわけか…
これは一度ヤッたらずぶずぶハマっていくタイプやもしれんムフフのフ
ふ…ふーん!聖騎士って大変!
クルト様スケベなこと考えてるでしょ
その
その

わーんっ！
クルト様の
変態！スケベ！
搾乳機～!!
待てよ
フェリ!!
そこが好きな
くせに!!!
ダッ

もー！
ほんとに
エッチ
なんだから
どれだけ
愛人を
増やす気
なの!?
別に俺だって
誰でもいい
わけじゃ…
でも
勇者さんのこと
いいなーって
思ってるでしょ
そりゃ
まあ…
ぽか
ぽか

……だめだ…
ふたりの会話に
ついていけない
……!!!
すまない……
もっとスケベに
ついて勉強して
おく…
いや
真面目か!!
その日の晩―…
別に
大丈夫
だって

何が大丈夫な
ものか!!!
魔族への偏見は
構わぬが
お前を嘲笑する
ようなことは…
俺が気にして
ないんだから
気にすんな！
今日はまだ
仕事だろ？
大変だな～
…むぅ…
やはり声だけでは
……余計に
寂しいな…
それに目を離して
いるとすぐ
他のやつにデレデレ
するから心配だ…
ギクーッ!!
な何度言わせる
んだよ一番は
アルだけだって

何度でも聞きたいのだ♡
でれ♡
…はいはい…
あとお前無駄に連絡すんのやめろよマジでバレるから
明日は俺から夜に連絡入れるからな
むぅ…
返事は!?
…はい
ふぅ…甘えんぼだなあいつ…
ばふっ
あ…あのぅクルトさま……
い…今…その……いいかなぁ
もじ
もじ…
フェリー!?どっどうした!?
さっき俺のこと変態とか言いながら走り去ったやつの行動かそれが!?
ぱん♡
僕も頑張らないと…クルト様に見放されちゃうかもしれないから…
えへへ…
かあっ
えっちな僕は嫌い?

今日は…
僕からクルト様を
襲っちゃおうかな…
スッ…
フェリ…

エッチなフェリ
は最高だけど…
俺はどんな
フェリでも
好きだぞ
俺は
フェリが
好きなん
だ
クルト
さま…

ここ…
もう硬くなって
るんだね…
フェリがエロい
からな
さわ…
えへへ…
嬉しいな♡
じゃあ今日は
クルト様の
ミルク…
ドキドキ
僕のお口に
いっぱい
くださいね♡

んっ
ぢゅるるっ
はぁ…
くるとひゃまきもちひでふか？
ちゅっ
舌使いもすげ…っ!!
フェラ上手すぎだろ…
じゅるっ
ちゅぷっ
はぁっ…
ムラ
ムラ
フェリ…!!いいぞ
んふ…よかったぁ♡
クルト様に喜んでほしくて…
こっそり練習してたんだ…♡
ぢゅッ
うおぉ…フェリ…っ!!
じゅぷッ
んっ♡
んっ♡
ヌポッ
じゅるっ
おっんおぉっ!!
ぢゅるッ

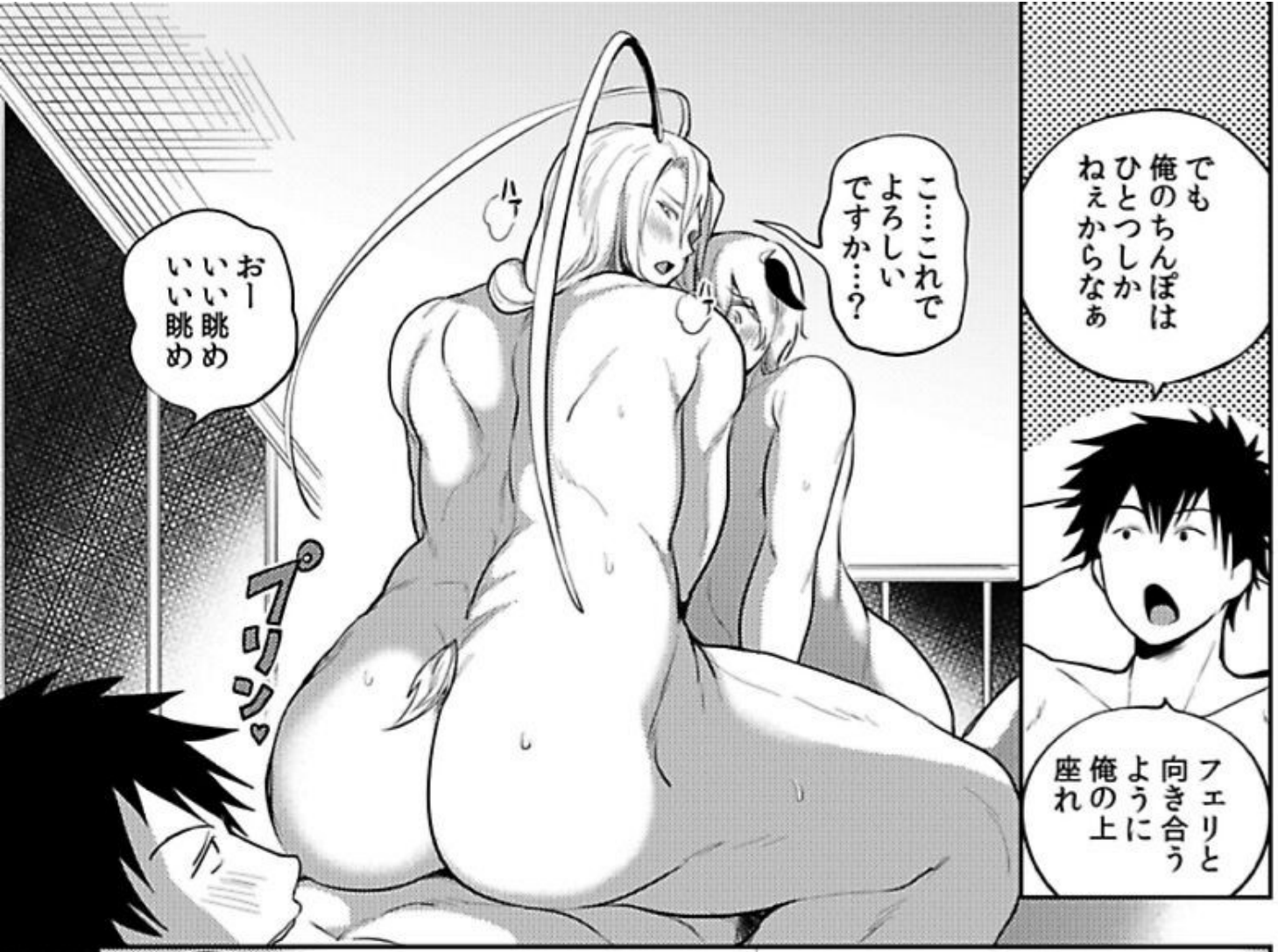
んはぁっ♡♡♡
ドピュッ
はぁ…あ…♡
ハァ
クルトさまのみるく…♡
ハァ
フェリ…お前可愛いやつだな…
はぁ♡
はぁ♡
おやおや…フェリクスがこんなにスケベだったとは…
ハァ
!?
ハァ
ハァ
何でおんねん!?全裸のおっさんが何でおんねん!?
私の家だからいて当たり前じゃないかね
いやお前…お前空気読めよ!!!
帰れ!!!

帰れって…
だからここは
私の家で…
ほんで何で
勃起してん
だよ!!
勝手に放置プレイ
楽しんでんじゃ
ね――!!!
ギン
ギン
…まぁ
いいか…
フェリ
続き
え!え!?
いいの
…?
いいんだよ
あいつは
この状況で
無視される方が
多分興奮する
だろ
うず
うず
……っ
ご主人様
……♡♡
ええ…
ビクター様
……
それにフェリだって
気持ちよくなりたい
だろ?
あっ♡
ビクッ
そんなっ…
僕は…!!
クルト様が
気持ちよくなって
くれれば…
それで……
ぎゅむっ
いい子だな~
フェリは
そんな
フェリに
ご褒美だ
ぴと
えっ あ…!!だめっ
ビクター様が
見てるのに…っ

ひゃあぁっ!!!
ビクッ
ズンッ
あっ…あ…!!
クルトさっ…
ヌプ…
まぁっ…

何だよフェリ今日は襲ってくれるんじゃなかったのか?
そんな…けどっ
ウズ…
ウズ…
はぁっ
こんなの…いきなり……っ
ビクター様だって……

ビクターを放置すんのがかわいそうだって?
ハァ
いや…そうじゃな…
ハァ
ハァ
しょうがねぇなぁ…おいビクター!フェリが混ざっていいってよ
良いのですかっ


でも俺のちんぽはひとつしかねぇからなぁ
フェリと向き合うように俺の上座れ
こ…これでよろしいですか…？
おーいい眺めいい眺め
プリン♡

ヒクついて物欲しそうなアナルがよく見えるぜ
はっ♡
ご主人様…♡
ヒクヒク
俺とフェリがハメてんの見て興奮してんのか？

ふたりも体触り合って気持ちよくなれよ
び…ビクター様…っ
あなたがこんなド変態だなんて…
ビク
ビッ
ぼく…知りませんでした…
ああっフェリクス…！

クルト様の言うとおり…
ぼくたちも気持ちよくなりましょうね♡
フェリクスっ…君こそこんなに淫乱だなんて…
驚きだ…
ふたりともなかなか気が合うのかもな
ニヤ～
スケベ同士さっ
ビクッ
ズボッ
うぁっ♡
気持ちいいよクルトさまっ♡
あっ♡ああぁっ♡♡
はぁっ
ズッズチュ
あっ♡
ご主人さまぁっ♡♡
はぁ♡
ズッ

ぼくっ…
もぉ…イく…
イっちゃう♡

わたしも…っ
もう…ッ!!♡

あぁあッ♥

ひああっ♥
ああっ♥

ビュルルッ

ビュルルッ

ビュッ

ゴゴッ

はぁっ…
やっぱフェリも
ビクターも最高
だぜ…

ハァ

ハァ

ハァ

クルト様っ
ご主人様っ
まだまだイケるよねっ…？
朝まで…可愛がってください…♡

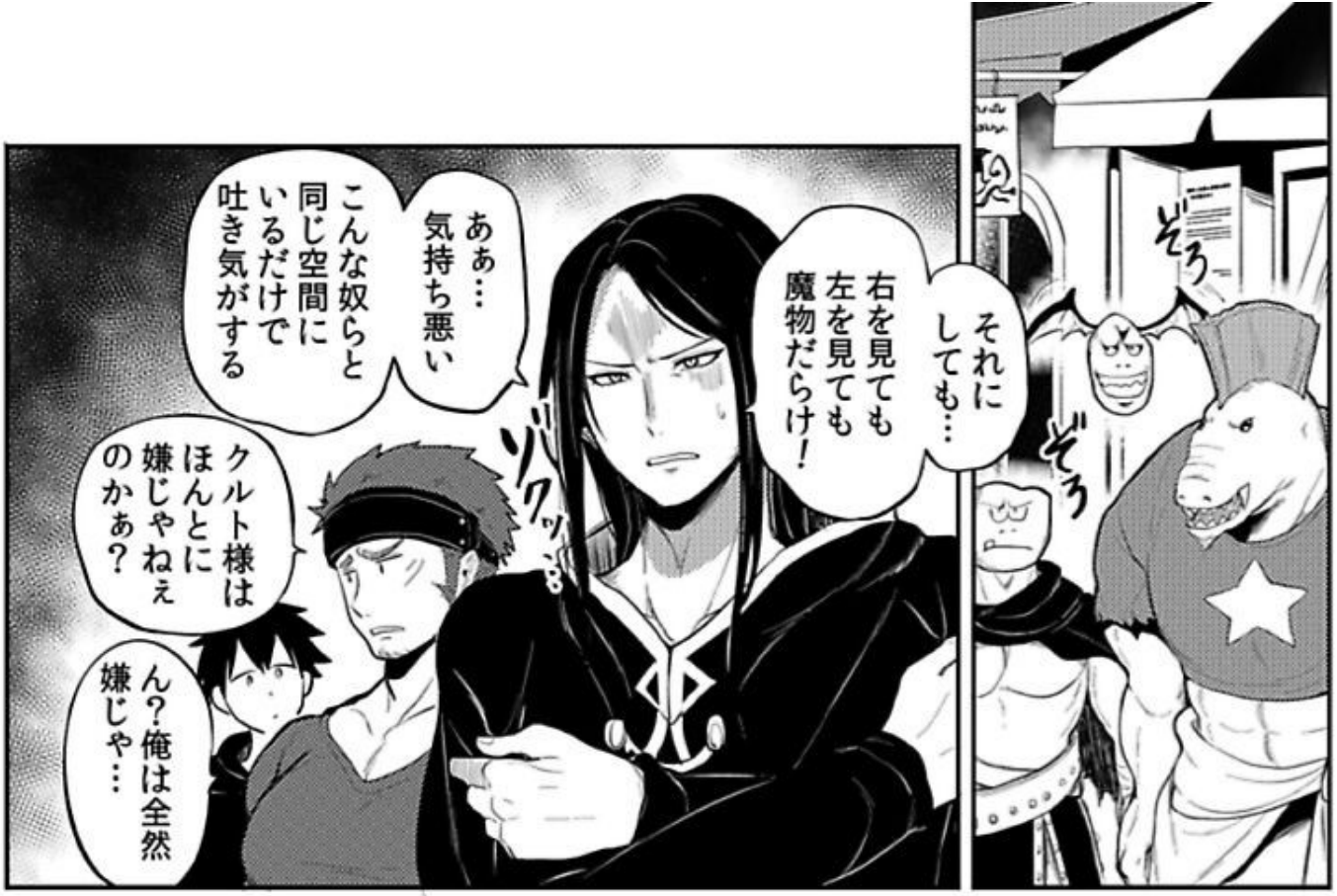
はっ…
俺は邪神様だぞ？
ふたりとも嫌っていうほど
気持ちよくさせてやるよ！
でれっ♡

その後俺たちは
夜明けまで体を交わらせた

今日は
勇者パーティと
市民街を見物
うわー
賑やかな
商店街だな
ざわ
ざわ
おっアレ
うまそ！
1個買おうぜ
残念
ですが
あれは魔物を
使っておりますので…

今は人族のフリをしてるから
魔物を食材に使ったものは
食べちゃだめらしい…
ぶすっ
そうか～～
お主は
食べられん
のか～～～
パカパカ
惜しいの～
こんな美味
じゃのにい～
ミニ
ちゃん

デリアの背に
乗って露店巡り
かよ…
エルフは
動物も魔物も
分け隔てなく
食すからのう！
ん～♡
うまいうまい!!
おーい
デリア！
あそこの
包み焼きも
頼む
ちぇっ
見せつけ
やがって…
天罰
下るぞ


ぞろ
ぞろ
それにしても…
右を見ても左を見ても魔物だらけ！
ゾクッ
あぁ…気持ち悪い
こんな奴らと同じ空間にいるだけで吐き気がする
クルト様はほんとに嫌じゃねぇのかぁ？
ん？俺は全然嫌じゃ…

ですが元はただの人族の村人なわけですし…反発も大きいでしょうからねぇ
いじめられたりしてねぇか
心配ご無用！
クルト様は魔族の中でも最上位に近い場所におられるお方なんですから！

そうそうそもそも俺がいじめられたりなんかしたら魔王様が黙ってないし
ドラゴン化して魔族領が火の海になっちまうよ
それにクルト様は唯一陛下のドラゴン化を戻すことが出来ますから
皆に認められ信頼され愛されまさしく陛下の伴侶に相応し…
褒めすぎだってフェリそんな大したもんじゃ…

ん？
どうした
お前ら
すごい顔して

奥様
お聞きに
なりまして？
魔族の王は
史上最強と
謳われている
ドラゴン族
ですって
あらやだ

聞いて
ないぞ――!!!
ゲチンッ
そ…それは
すごい力
ですね……!!
どこか普通ではない
特別なオーラを
持った方だとは
思っていたが
キラ
キラ
やはり
すごいお方
なんだ!!
いやぁ
それほどでも♡

なんじゃ賑やかじゃの
ミニちゃん
何だそのでっかい紙袋

ん？これか！これはのぉ～
ふっふっふ！後でのお楽しみじゃ

後でってことはデザートだろうかいいな～…
お願いしたら一口くらいくれるかな
。。。
なんて考えながら俺たちは今日泊まる予定の宿屋へと向かった

市民街にある宿屋だが魔王の伴侶である俺が泊まるということで必然的にグレードは最上級レベル…
ラッキー
手続きとかは僕が進めるからクルト様は先にお部屋へどうぞ
サンキュフェリ

よ…よおクルト…さま
そそ…
ん？
ラニズか…何か用か？

イリオス以外の勇者パーティとあんまり話したくないんだけどな～
何か企んでそうだし
でもまぁコイツはまだ話しやすい…かなぁ…
!?
んっ！
むにっ
ぐりっ

お…俺のと魔王の…
どっちがでけぇよ？
ぼぃ～ん♡
もみ
うおぉおおお――!!?
デッデデッデデデデ
デッケェエエエ――!!!!

勇者パーティのことだこれは何かあるぞ…!!!絶対に流されちゃダメだ…!
もみ
すっげ…
でも条件反射で揉んじゃう
もみ

アルよりデカいか…!?
いやどっちがデカいとか
どうでもいいか
どっちもエロいんだもん
ドキ
ドキ
ドキ
しかし何で
俺がスケベだって
バレたんだ…!?
そんな素振りは一度も
見せてない…はず…
…たぶん……

なぁ
クルト様
ちょっと部屋で
話さねぇか
お――い!!!
何をしとるんじゃ
廊下で!
!!
ミニちゃ…
クルトや!
見せたいものが
あるのじゃ!
今良いかの?
…
お―…
あ…あぁ!
ラニズごめん!!
用事ができた!

バタン…
あ…危なかった!!!
ミニちゃんが
来なかったら俺…
邪神の
催淫の力で
マジで俺に
惚れてる…
…とか
そんなんじゃ
ない…よな!?
ドキ
そうだったら
嬉しいんだけど
な――!!!

邪魔したかのぉ～？
ん～…いや
ひょこっ
いいんだ危ないところだった
そうじゃもっと警戒するべきじゃぞ
お主は一応アルノルトの伴侶なのじゃ
人族が何か良からぬことを考えているかもしれぬしな

ミニーちゃんの言う通りだ…俺のせいでアルに迷惑がかかっても嫌だし…
今日は大人しく部屋で引きこもっておこう

どんっ!!
そんなことよりこれじゃこれ!!
倦怠期カップル御用達のアイテム…
ピンクスライムくんじゃ～～～!!!

お主が好き
そうだと思って
買うたのじゃ
お主に
献上～！
あ
パリン!!

やってしもうた〜〜〜!!!!
なんという不覚!!!
ぬら〜
も…もっとちゃんと持っとけよ!!
重かったんじゃ〜〜〜!以外と重かったんじゃ〜〜〜!
捕まえるのじゃ!!
わた
わた
どうやって……
なんとかするのじゃ
あぁっ
ビクッ
わぁ〜〜んっ
スライムがっ
ビクッ
ビクッ
あっ…!ダメじゃっこらぁっ…!!
ぬめ〜

服の中にっ……ッ!!
あっ♡
ハァ
ハァ
そこはダメじゃあぁ♡
見てないで助けんかぁッ!!
助けろったって…
どうすりゃいんだろ…これ……
早くしないと…っ
こやつには媚薬効果もあって……ッ
ぬる
ぬる
しばらくすると硬化も…ッ
あぁぁっ♡
うぅぅ～～～早くぅ…っ
くるとっ
わ…分かった分かった!
ハァ
ハァ

ほんとに露店での天罰が下ったなこりゃ……
なんとかしてみるよ
とりあえず脱がすぞ
う～～～…恥ずかしい……
ビクッ
んっ♡
ハァ
ハァ
うわー…すごいな…スライムが体にまとわりついて……
ぬるっ
ぬるっ
グプッ
ひううう♡♡中にッ…!!中にはいってぇ……ッ!!!♡♡
あっ♡
これも手遅れだな…

お手上げ
うおぉい!!
諦めるなぁー!!
助けても
媚薬の効果が
なくなるわけじゃ
なし……
もういっそ
スライムに
気持ちよく
犯された方が
いいかもな
あぅう～～～
わかった…
じゃあ…
クルトや…っ
ビクッ!!
ビクンッ!!
傍に
おって
くれぇ…ッ
大丈夫
大丈夫
ちゃんと
最後まで
見てて
やるから
ひぅっ…
う～～っ♡
見た目通り
子どもっぽいとこも
あるんだなぁ…
ビクッ
ビクッ
ぬぷっ
ぐぷぷ

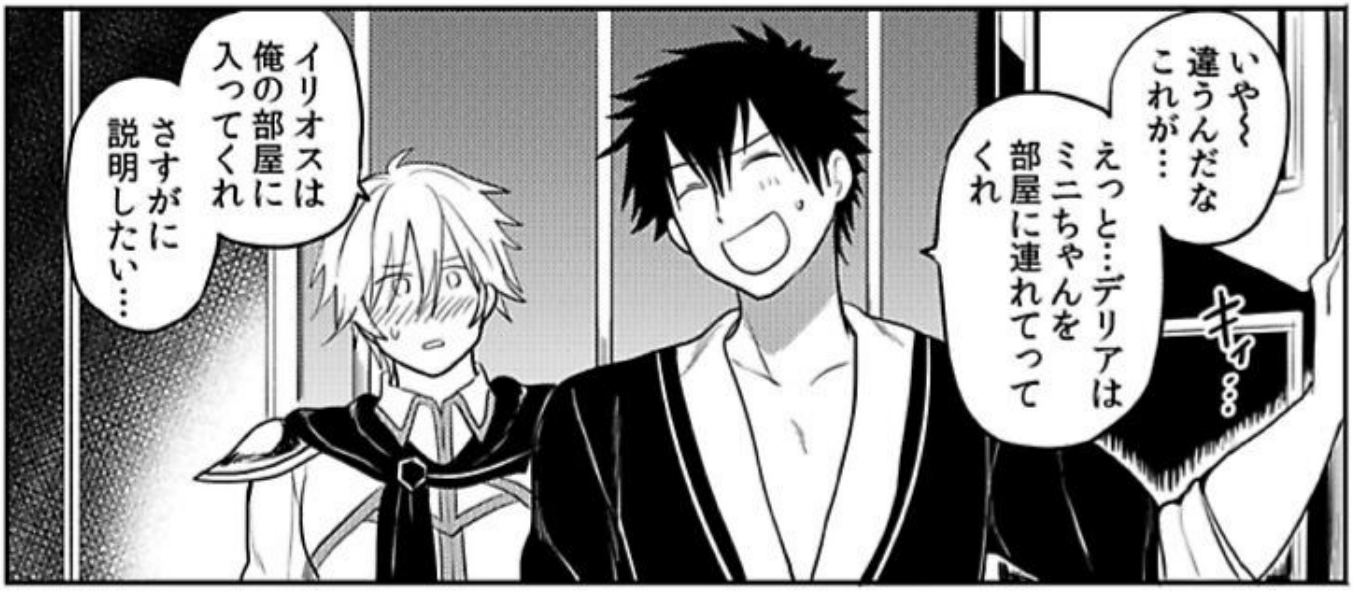
ん…っ
あああっ♡♡
あっ♡
あっ♡
グニュッ
ビクンッ
ビクッ
うあぁ〜〜っ♡
グプッ
ジュボッ
ヌルッ
ヌルッ
ヌププッ
ググ…
うぁっ
だ…めぇっ
グプッ
ん…
ふぅ…っ
こんな…っ
おくまでぇっ…♡
ビクンッ
ビクッ
ひぅ…♡
はぁっ♡
ハァッ
ハァッ

はっ♡
あっ♡
イクっ…んっ
あぁぁッ…!!!
イッちゃう
うぅッッ♡♡
キュンキュン♡
はぁっ…
これで
もう…
ぎゅう
あれ?
す…スライムが
はなれん…っ
マジかよ
頑張れ
ミニちゃん
そんなぁっ…
くるとぉッ♡
あぁぁっ♡♡
やだやだぁっ
おかしく
なっちゃ…ッ
あぁ♡

……
ジト…
いやそんな顔で見るけどさぁ…
今回ばっかりは俺のせいじゃないんだってマジで……
ジト〜…
ぐったり…
ほんとなんだってマジで…
ミニちゃんのことよろしくな……
ジト…
クルト様
イリオス様がおいでなのですが扉の前でうずくまっておられます
ん？
えっ!?
イリオスが!?

ううぅ……
ク…クルト様…
どうやら声が漏れていたようですね
声…ってミニちゃんの!?

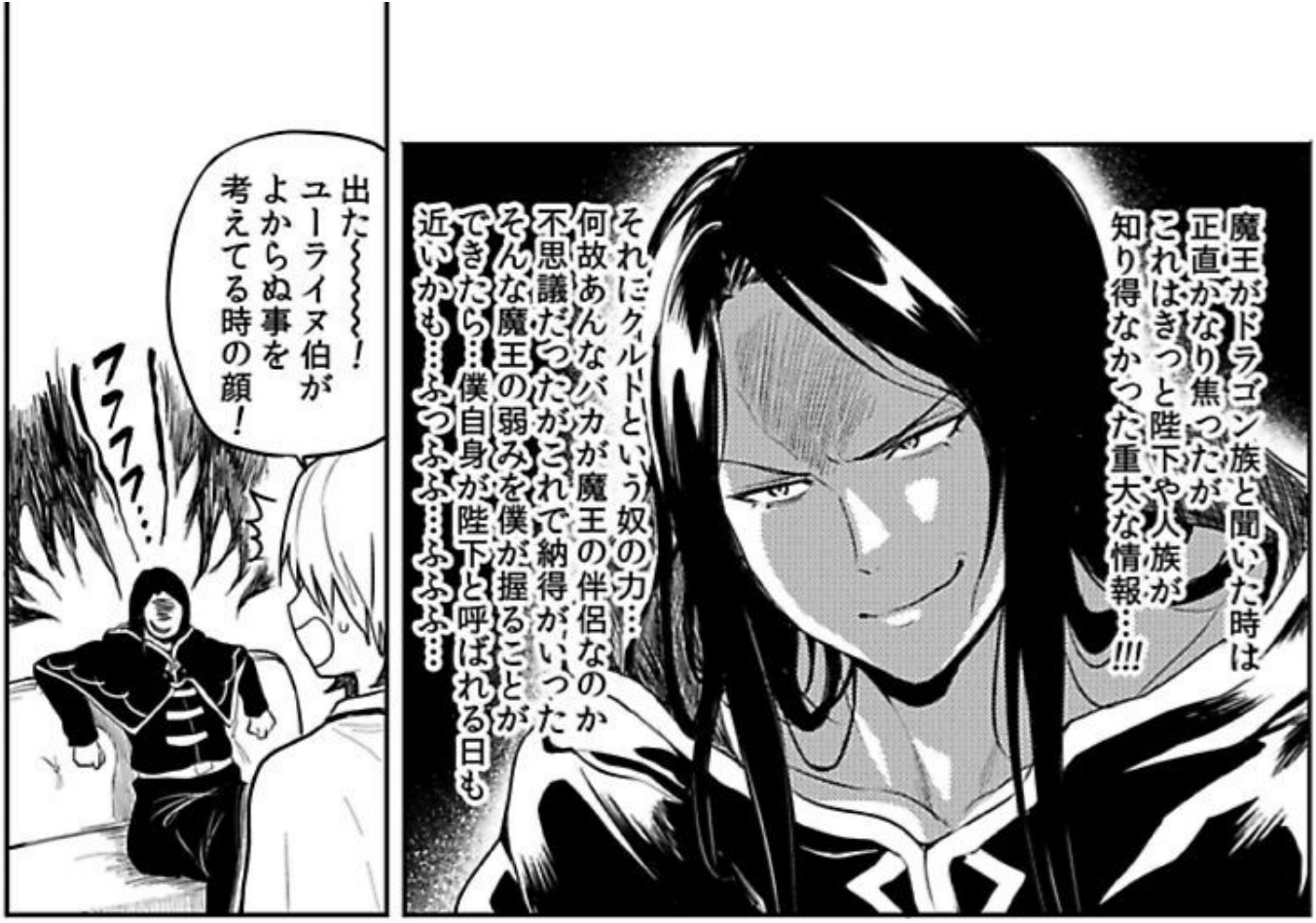
すまない！盗み聞きするつもりはなかったんだ…
ノックしようと思って近づいたら…
あっもちろんクルト様とミニ殿がその…そういう関係だなんて…だっ誰にも……
しかも俺がミニちゃん犯したみたいになってる…？


いや～違うんだなこれが…
えっと…デリアはミニちゃんを部屋に連れてってくれ
イリオスは俺の部屋に入ってくれ
さすがに説明したい…

なるほど…
そういうこと
だったのか……
勘違いして
すまなかった
ガア
デリアも勘違い
してたし…
俺がこんなやつ
だから
しょうがねぇよ
こちらこそ
ごめん…
いやっ
そんなこと…
でも
俺が普段
から
あんなじゃ
なけりゃ…
勘違いも
されな
かったよ
もうちょっと
改めねぇ
とな〜……
クルト様!!
クルト様は
今のまま
でいいんです!!
そこが魅力
なんだ!!!
え?
オープン
スケベで
いいって
…?
いや…その
スケベと
いうより……

クルト様は
どんな時でも
自然体だから…
その飾らない
優しさに
皆惹かれる
のだと思うんだ
人族である
クルト様が
魔族にも愛される
のは
力だけでなく
純粋な心もお持ち
だからなの
だろうな！
あはは
…
照れるなぁ
イリオスは
俺を過大評価
しすぎだって
実際自分も
クルト様と
言葉を交わす度…
どんどん
好きになって
いく
ぱぁっ
イリオス
……

だからもっと
クルト様と
お話できる
ように
自分も
スケベに
なろうと
思う!!!
ズコーッ
今はまだ
勉強中だが
いずれ
クルト様
のような…!!
それ本気だった
のか!?
イリオスこそ
今のままで
いいって!!!
妙なとこも
真面目なん
だなほんと
……
カミラの部屋
そら見ろ!
僕の言った
とおりだった
だろう
やはりあの
クルトという男…!!
ド
ン!
重度の変態だ!!!!

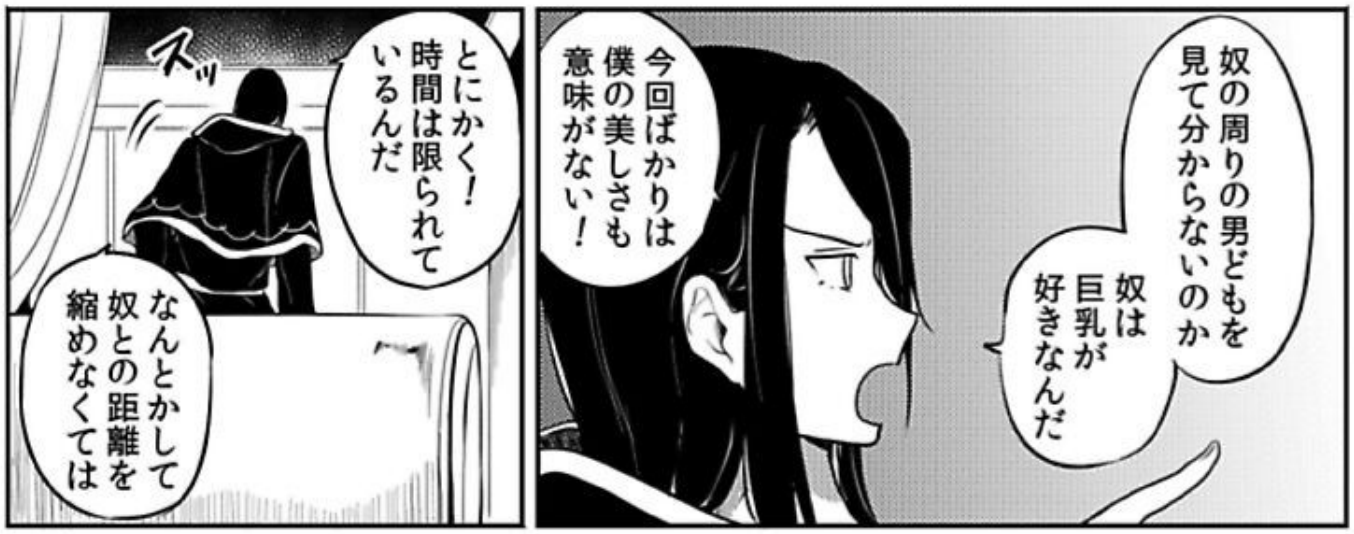

魔王がドラゴン族と聞いた時は
正直かなり焦ったが
これはきっと陛下や人族が
知り得なかった重大な情報…!!!
それにクルトという奴の力…
何故あんなバカが魔王の伴侶なのか
不思議だったがこれで納得がいった
そんな魔王の弱みを僕が握ることが
できたら…僕自身が陛下と呼ばれる日も
近いかも…ふっふふ…ふふふ…
出た〜〜〜!
ユーライヌ伯が
よからぬ事を
考えてる時の顔!
フフフ…

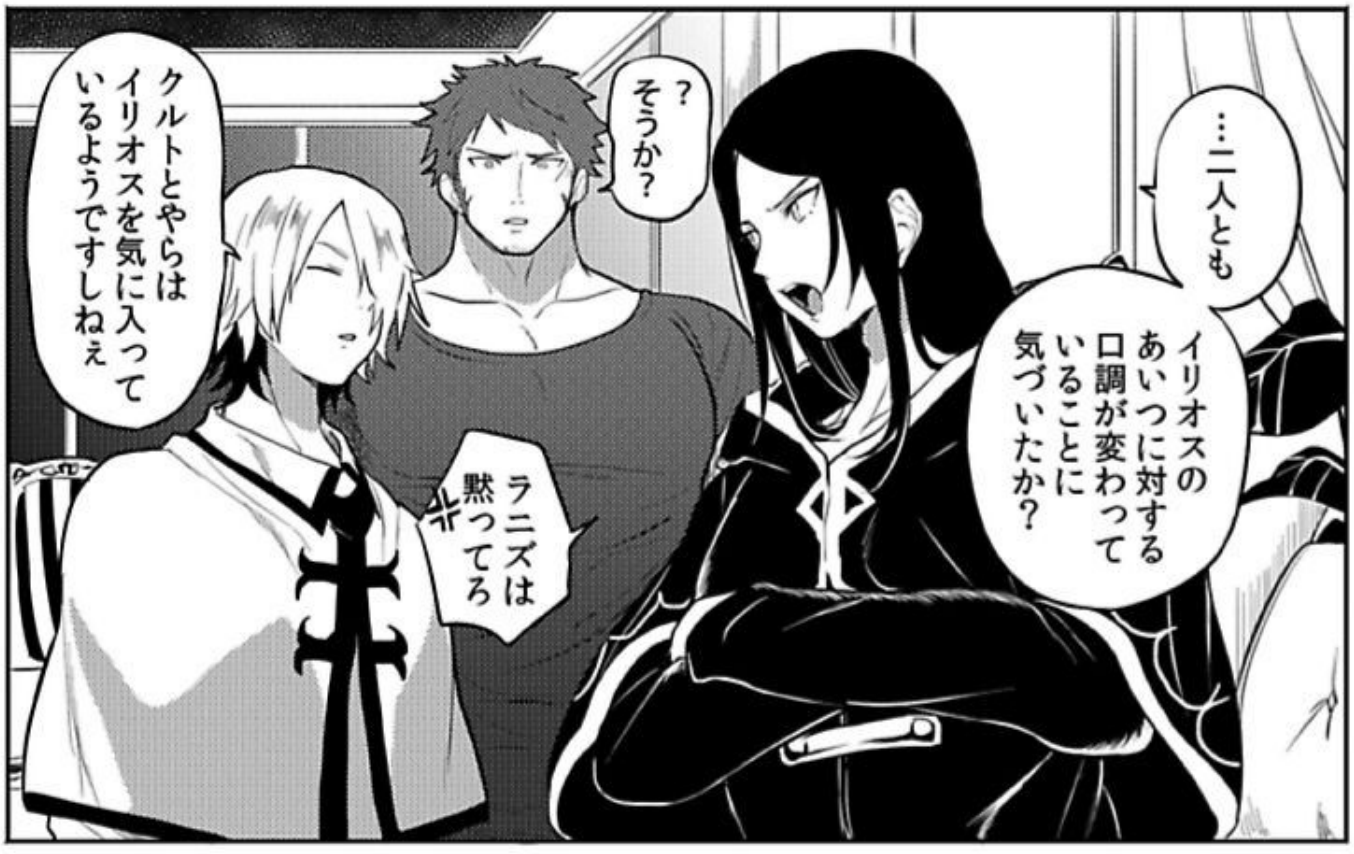
宿屋の前にあった
アリの巣に
水入れてやろうとか
考えてんだぜ…
そんな
ひどい…
するか
そんな事!!!

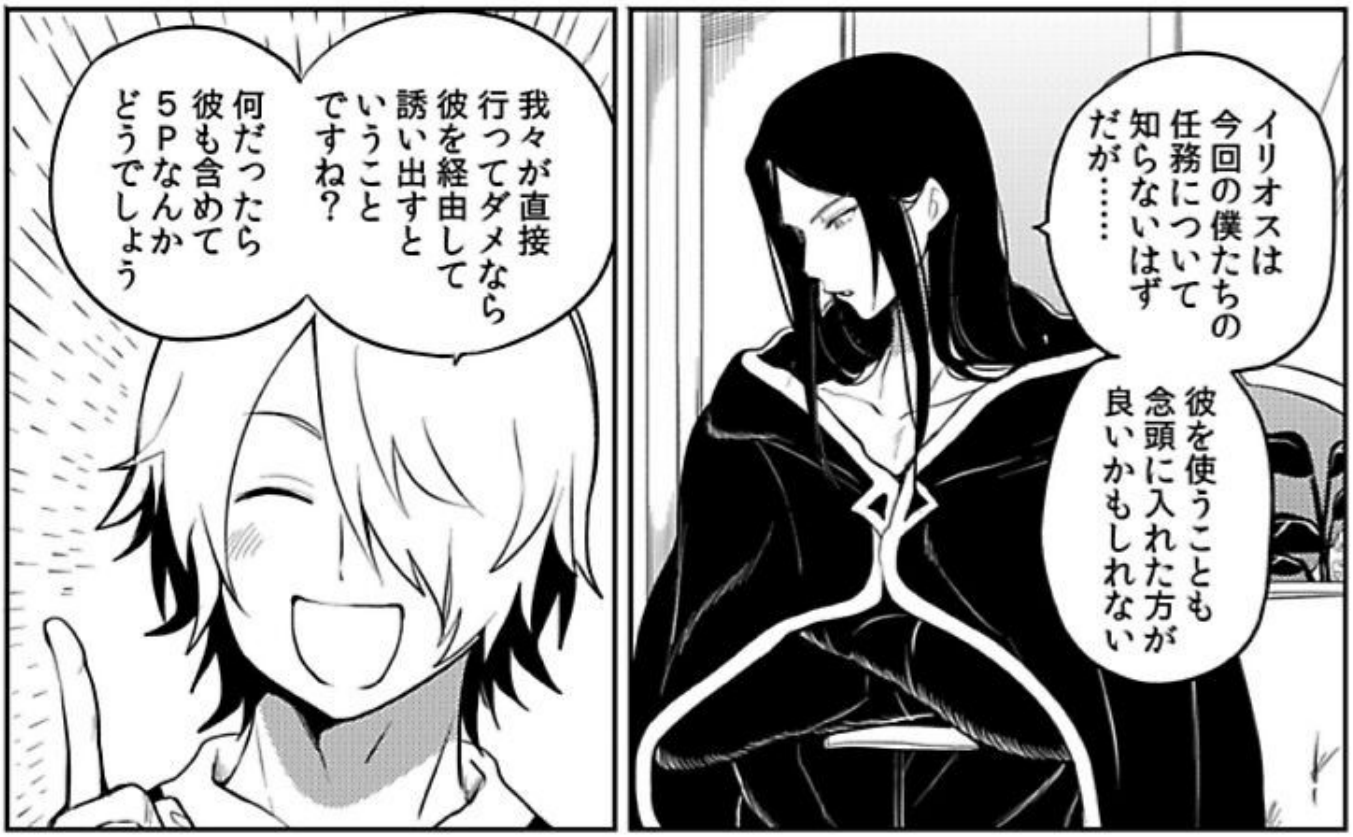
大体ラニズ!!
せっかく天才の僕が
あのバカが変態だと
気付いたのに
失敗するとは!!!

エルフの長老に
割り込まれたのでは
仕方ないでしょう
そうだぜ!
俺は
頑張った!!
めちゃくちゃ
胸揉んできて
すっげぇ
恥ずかしかった
んだからな
ラニズ君は
こう見えて
処女なんですよ

もっと積極的にいかないからだ！その無駄な筋肉を使え！
そこまで言うならお前が行けよ
嫌だ！気持ち悪い!!!
ガキかよわがままなやつだな


奴の周りの男どもを見て分からないのか
奴は巨乳が好きなんだ
今回ばかりは僕の美しさも意味がない！
スッ
とにかく！時間は限られているんだ
なんとかして奴との距離を縮めなくては


…二人とも
イリオスのあいつに対する口調が変わっていることに気づいたか？
？そうか？
ラニズは黙ってろ
クルトとやらはイリオスを気に入っているようですしねぇ


イリオスは
今回の僕たちの
任務について
知らないはず
だが……
彼を使うことも
念頭に入れた方が
良いかもしれない
我々が直接
行ってダメなら
彼を経由して
誘い出すと
いうことで
ですね？
何だったら
彼も含めて
5Pなんか
どうでしょう

お前って
マジで
下品だよな
楽しい
ですよ
きっと
ねっ
ユーライヌ伯…
僕は死んでも
ヤらないぞ

明日から
本格的に
攻めていくぞ
特にラニズ！
次は失敗
するなよ
おう…
頑張るけど
よお……
露出高めで
いきますか！
いやぁ……
それはちょっと
ヴー
ヴー

寂しい
ぐすん…

…と言われましても
ジリ
ジリ
昨日ビクターがそっちに行っただろう！あやつ余には散々通信機から手を放せだのサボるなだの言っておきながら～～～～!!!

……クルト……
ジジ…
……余は頑張って仕事しておるぞ

帰ったらいっぱい褒めてやるよ
ほんとだな
褒めるしちゅーするしエッチもする
ほんとだな!?

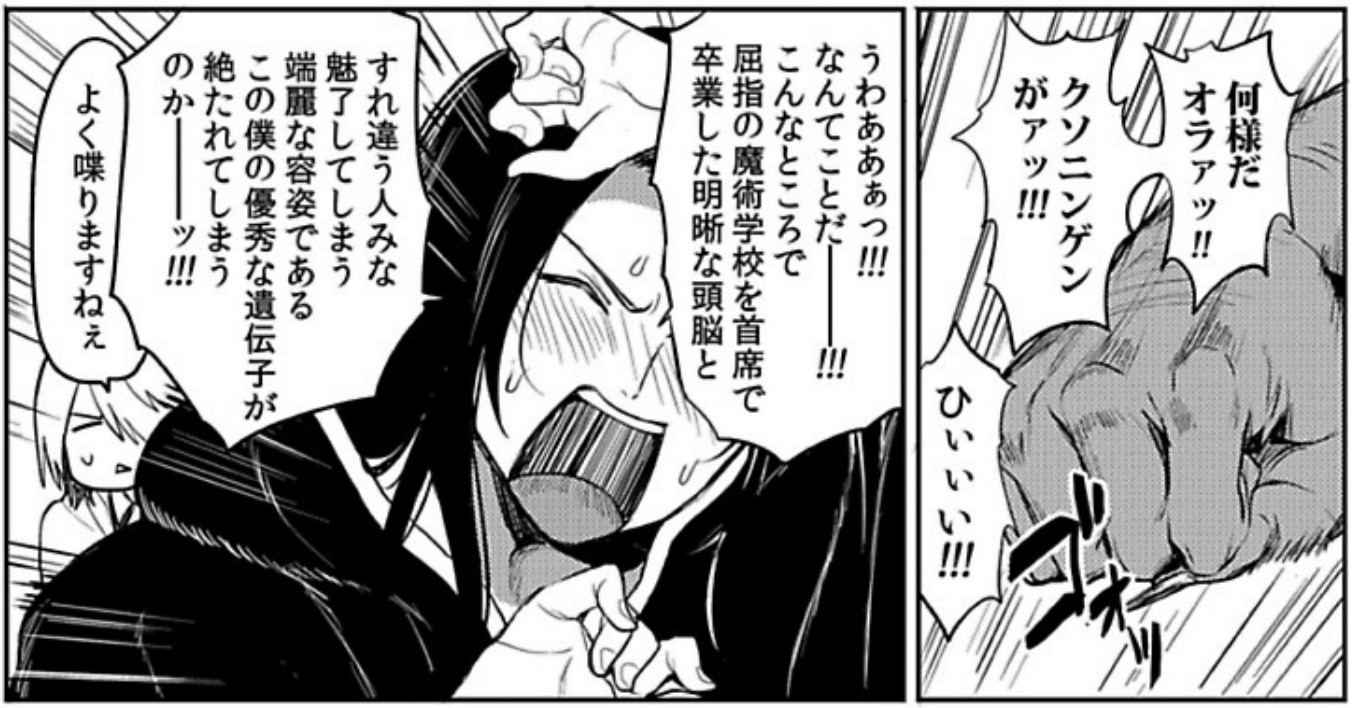
……!!
楽しみにしている
早く帰ってくるのだぞ!
あぁ!
それよりそっちは大丈夫なのか?
あー…そうだな…
たぶん…
たぶん?
勇者パーティが何か企んでいるかどうかは確定じゃないし…
まぁ何かあっても大丈夫だろ
忘れたのか?俺は邪神様だぜ?
ふっ…それもそうだな

バカ!!!
明らかに嘘と
分かる嘘を
つくな!
怪しまれる
だろう!!
つってもよぉ
褒めるところが
見つからねぇん
だもん
勇者パーティの連中…
コソコソと何を話してるんだ…?
昨日ラニーズがおっぱいを揉ませて
くれたことと関係あるんだろうか

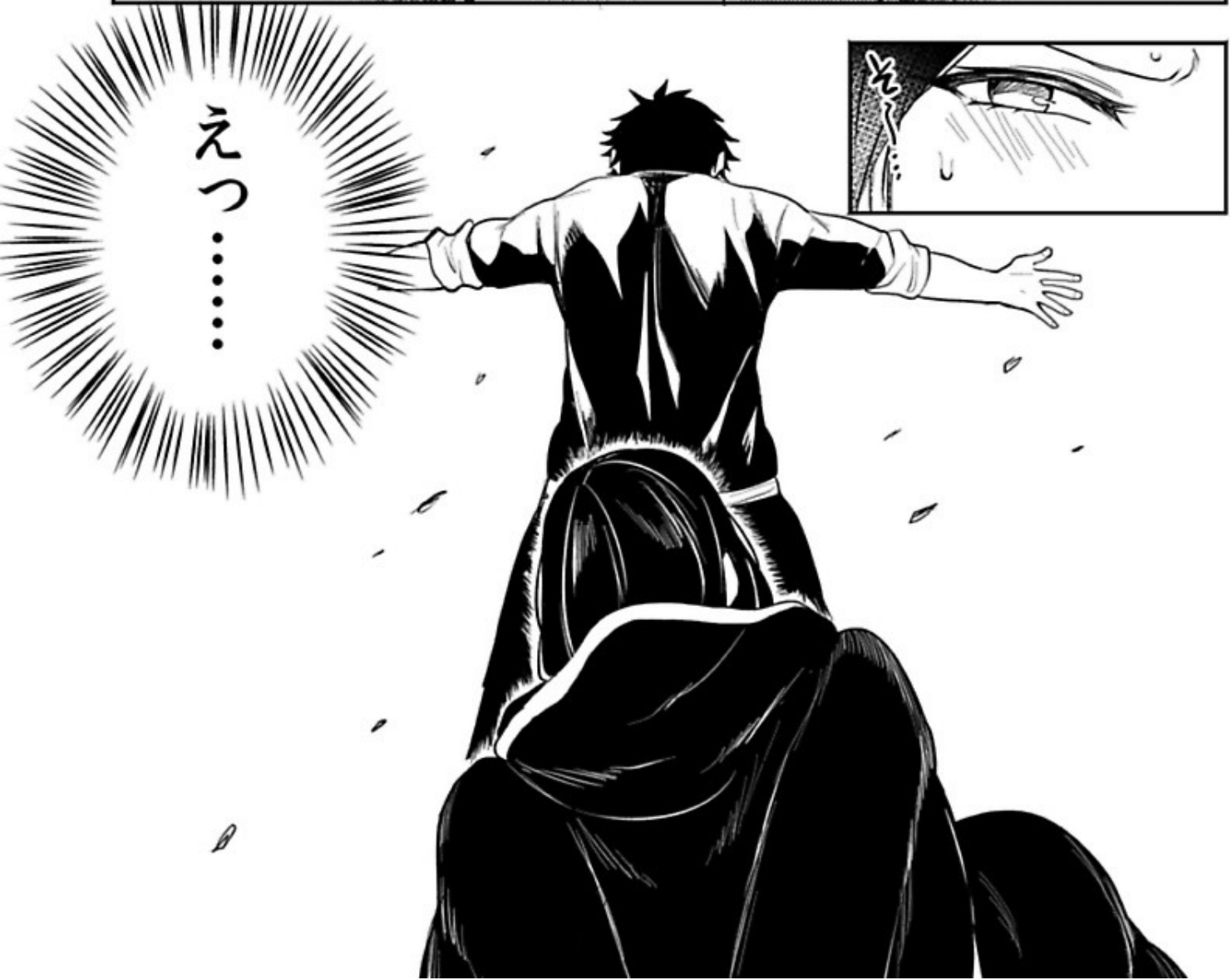
やっぱり
何か企んでいるに
違いない!
気を引き締めて…
にしても
昨日のおっぱいは
最高だった…
にへら
いや〜〜〜〜〜〜〜〜
最高だったほんと
弾力があって
むっちんむっちんで
俺好みのデカ乳
だったな〜〜〜〜〜

わっ!
見ろ!!
あの顔
褒め言葉が
効いたん
ですかね
単純すぎる
だろ!!
でへへへへ
ムフフフ
ああいうバカは
裏であれこれ
考えたりできない
ですし
行動や表情に
本心が全て
出ちゃうん
でしょうねー…
フン!
気色悪いやっ
だな…!!

素直や純粋という言葉からはかけ離れたセコくてズルいユーライヌ伯とは真逆の存在ですね
ぷくく
賢いと言え!!
それに奴は愚直なだけ…
ドッ
おい誰だ!!聡明で優秀な僕にぶつかっ
た…
の…
アン？なんだテメェ
うわ——ん!!!


何様だ
オラァッ!!
クソニンゲン
がァッ!!!
ひいいい!!!
ゴオッ!!
うわあぁっ!!!
なんてことだ――!!!
こんなところで
屈指の魔術学校を首席で
卒業した明晰な頭脳と
すれ違う人みな
魅了してしまう
端麗な容姿である
この僕の優秀な遺伝子が
絶たれてしまう
のか――ッ!!!
よく喋りますねぇ

……
……
あ…
あれ
…？


そ～…
えっ……

グロン…
びくっ!
ひぃっ!
おいカミラ
大丈夫か?
ドキュウウン♡
は…
はい…♡

うっ
痛…
足捻ったのか？
…おんぶして
やるよ
スッ
えっ…
えええ!?
ドキ
ヌッ

な…なんだコイツ！
スケベでブサイクで
弱くてダサくて
かっこ悪くてバカで
マヌケなくせに…!!!
な…何か他に目的が…!?
行動や表情に
本心が全て
出ちゃうん
でしょうねー…
……ハッ!!
ほんとに…コイツには
裏がない…のだとしたら
この行動は…この優しさ
は……

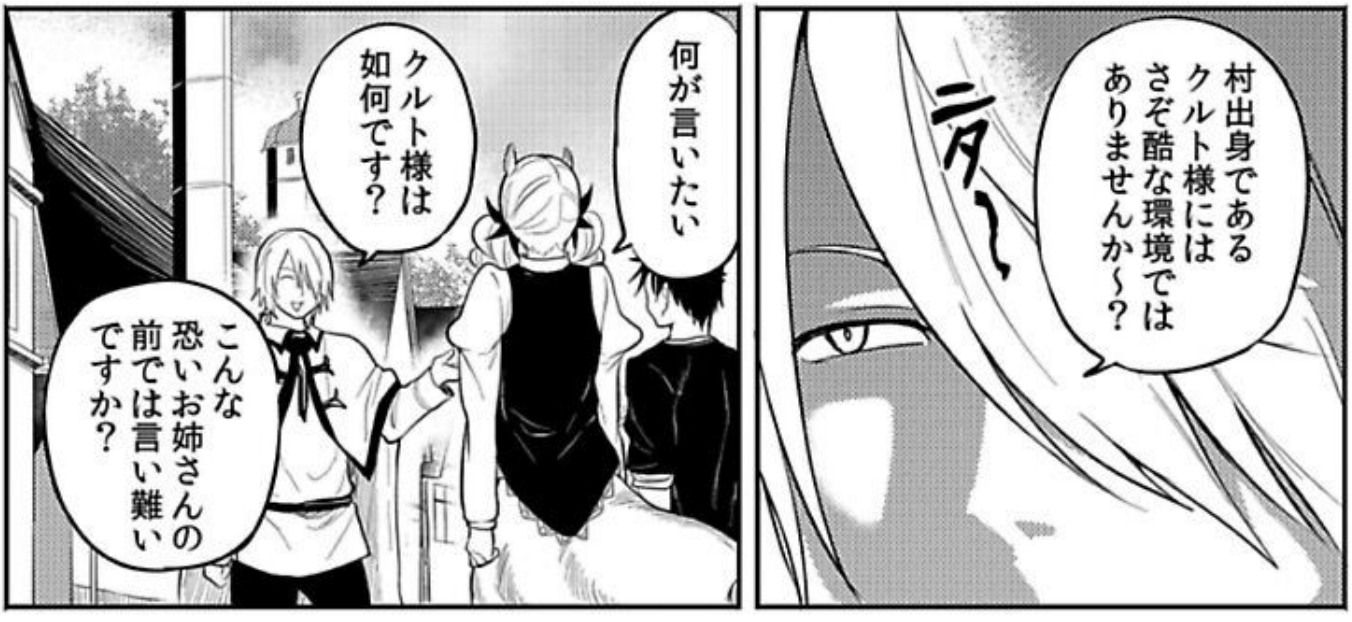
おっおんぶ
なんて
必要ない!!!
そ…その手
には乗ら
ないぞっ!!
体を
触りたい
だけだろう
はっ？
いやまあ
そりゃ
触りたい
けど…
くぅ…
…っ♡

ぼ…僕が美しいから
たぶん僕に惚れたんだな
無理もない
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
…にしても
何なんだこの胸の高鳴りは…!!!

おーい
カミラ〜?
大丈夫か?
クルト様
こちらのことは
お気になさらず
お…おう
?
あんな
強そうな
魔物を一撃で
倒すなんて…
よ…
弱そうな
くせに…
ぶつ
ぶつ
いや〜
デリア
ありがとな
魔物倒して
くれて
やっぱ
強いし
かっこいいな〜
いえ…
血飛沫が
かかってしまい
申し訳ございません
いいって
あのままアイツに
血飛沫がかかって
たらネチネチ文句
言われそうだし
その方が
後々面倒なことに
なりそうだしな
そんな理由で
助けられたとは
露知らず
自惚れるカミラ
ドキ
ドキ
奴は
下心を
隠す気が
ないなっ
全くっ
何で
ちょっと
嬉しそう
なんだ?
ちゃんと
しましょう
よお…

んもうっ
私がしっかり
するしか
ないですね
いやー
先ほどの
容赦ない攻撃
驚きました
ズン
ズン
あれが
魔族流
ですか？
トリトス！

クルト様に
危害が
及ぶ可能性が
ある場合
瞬時に行動せよ
と陛下より
仰せつかって
おります
なるほど…
しかし裏を返せば
常にクルト様を
見張っていると
いうことですね？


村出身である
クルト様には
さぞ酷な環境では
ありませんか～？
ニタ～
何が言いたい
クルト様は
如何です？
こんな
恐いお姉さんの
前では言い難い
ですか？

トリトス！
何を言っている
イリオスくんも
そう思いませんか？
人族の中で
暮らして
いた若者が
ある日突然
魔族だらけの
環境に放り込まれ
たんですよ？
そこに本当の自分を
曝け出す場があった
ようには思えません
どうです？
クルト様…
本当の俺…
魔族を目の前に
して本当のことは
言えませんか？
……むしろ元の世界で
溜まった社畜の鬱憤を
晴らすかのように
俺はこの世界で好き放題
してきた…
スケーベ♡
本当の俺って…
というかしすぎた…
人として大丈夫なのか？
今は人じゃないからオッケー？

どうです？
魔族の目が届かない
場所でお話をしま
せんか？
クルト様が
現状に不満が
ないことも
その場で言って
頂ければ
私も納得できます
分かった！
じゃあ後で
イリオスと
話す！
そうですか
ではイリオス
くんと…
え？
イリオス
くん??

わ…私では
ご不満でしょう
かっ…？
お前がご不満
ってより
イリオスと
話したい！
むっ…
逆に
イリオスじゃ
ご不満で
しょうか
い…いえ
……

やはり相当
お気に入りの
ようです…
逆に
これは
使えるかも
しれねえ
よな
なっ！
カミラ
ゴゴゴ…
…カミラ？

さっきは
あんなに僕の
ことを
気に入って
いたようなのに
……
むう…
おーいカミラ
～～～？
ばか
……

うわあぁぁぁあああああああん!!!!
くうとああぁううずっど…ざびっあぅうざみじがっだあぁあんああううああ
ギゅうう
うあっううあおじぼといっぱいばんがったあぁ
よしよしいい子いい子
着替えたのか？何故だ？
あー…ちょっと汚れて…
それにTシャツが一番動きやすい
ほー……Tシャツ…
Tシャツ……
…アルも用意してもらう？
うむっ
夕食

よいな…
Tシャツ…
動きやすい
……
いいのかよ…
魔王様が
Tシャツて…
よし今度
仕立て屋に
お揃いの柄でも
入れてもらおう

ところで
人族とは
どうなのだ
もぐ
もぐ
あー…うん
色々あった
けど……

城に着いて
からも…
クルト様
クルト様！

この後
城内の見学を
したいのですが
よければ
案内を…！
部屋で
酒でも
飲まねえか
お…
おい！
かあっ
ずいっ
一緒に夕食を
食べてやっても
いい…んだぞ…？

夕食は魔王様と食うし今日は疲れたから休む！
お前らも休め！じゃあな！
え～
人族はお前と内密な話でもしたいのかもしれぬな
う～む
この後とりあえずイリオスとは二人きりで話すし…
色々聞いてみる
…絶対えっちする気だ……
え!?
あー…う～～～ん否定できない……
～～～!!別に良いがっ!!程々にしてくれないと
余が泣くぞ…
そしてアルは今日も後宮でお泊りだそうなので
いっぱいいってらっしゃいのちゅーをしてあげた（というかせがまれた）
久々のマイベッド♡
ここ最近アルとはずっとHしてないし
俺といちゃラブしたいはずだよなあ…我慢してんだろな
なんかご褒美でもあげるか…
……
エロいことしか思い浮かばないな……
ガチャ
クルト様失礼する

おっ！
いらっしゃーい
あ…
あの…
良いのだろうか
こんなラフな
格好で…
俺がラフな
格好で来いって
言ったんだから
いいんだよ
ガバッ
イリオスは
全体的に
堅苦しいから
まずは見た目
から！な！
露出多い方が
嬉しいし
自宅だと
思って
くつろいで
くれ
いや…自分は
自宅でもあまり
くつろぐことは…
じゃあ
今は
くつろげ!!
…
はい…
えーっと…
まずは
トリトスの
ワガママに
付き合わせて
すまない…
気にして
ねえよ
アイツらのことも
好きになって
きたしな

えーっと…
トリトスは
俺が魔族に囲まれた
環境をどう思って
いるか聞きたそう
だったけど……
ああ
そのこと
なら
クルト様のことを
見ていれば
聞かずとも分かる

数日間
共に過ごし
たが
クルト様は
いつも笑顔で
優しく…
人族であれ
魔族であれ
エルフ族であれ
分け隔てなく
接して…
というか
愛してとい
うか…
確かに
全員を
スケベな目で
見てるけど

つまり！
クルト様は
まさしく平和の
象徴です！
キラ
キラ
大事なのは
愛だと!!
クルト様に
教えていただき
ました!!!
いや…その
……俺は
ただの守備
範囲の広い
変態……

自分は国へ帰ったら今回のことを報告し
人族と魔族の共存のため全力を〜〜〜…
う…うんまあいっか俺も平和好きだし
あ！でもそれなら
俺から一回くらい愛を受けておいた方がいいんじゃねえの〜〜〜？
なーんて…
カッ
ミシャコン!!
な…
あ…あい…
つまりそれはっ
あ…愛をっ体で…っ
ドキドキ
う…うんあれ？勉強してるとか何とか言ってなかったっけ？
引かれてる…？まだ早すぎたか……!?
つつつついにっ
ほん…ほんばん……

ついこないだまで「ふしだらな！」とか言っていたお堅い委員長にこんなことを言わせるとは…
自分で自分をめちゃくちゃ褒めてあげたいクルトであった
と意気込んだものの…まだ勉強中の身で……
どうしていいか…
お…俺に任せてくれ!!
すまない…では……頼む
あ…別に強要は…
やりますっっっ!!!
自分とスケベしてください!!!!

あの…っ
クルト様は
本当に良いの
だろうか…
自分
なんかと
……
俺は
やりたいぞ
もちろん
イリオスが
嫌なら
やめるけど
プス
うあっ！

か…覚悟は
できて…
います…!!
どこからでも
かかって
きてくれ…!!!
ドキ
勝負でも
始まる
みたいだ
な…
勝負みたい
なものだ
これは

い…今までの
自分を変える為
戦う…！
これに勝って
こそ自分は
愛というものを
本当に理解
できるように
なるのかも
だ――!!!
真面目に
考えるな
って!!!
わーッ
ただのセックスだ！
気持ちよくなれば
いいの!!!

気持ちよくなりゃあイリオスも分かってくれるかな

よっし俺の腕の見せ所…

だぜっ!!

ブルンッ

ビクンッ

ああぁっ!!!

ズ

ンッ

ぬぷぷ

はぁっ…!!!

ビク

ビクッ

あ…っ!!

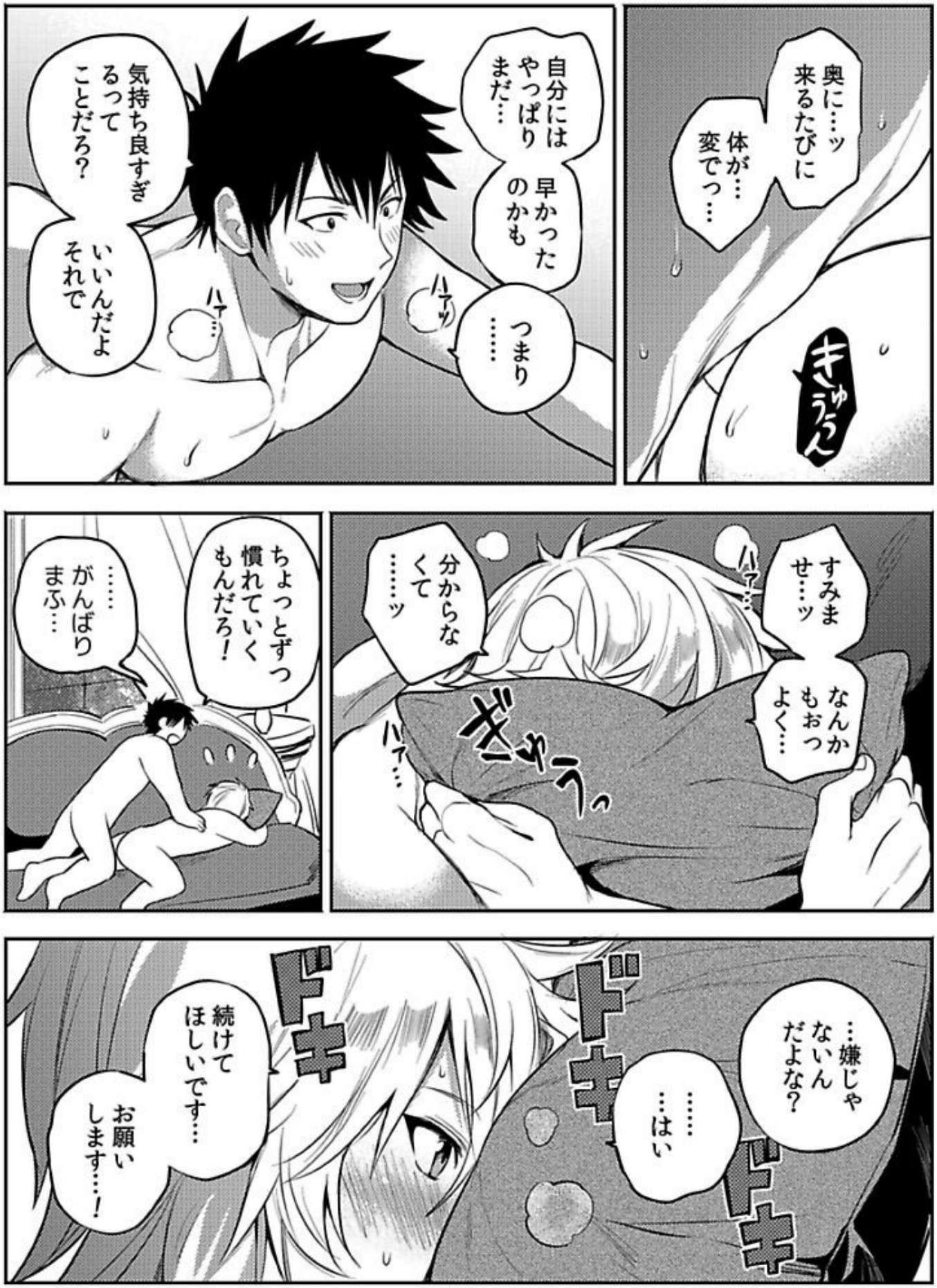
ひっ

パンッ

パンッ

ああっ!!

う…っ
んぅッ
は…ッ
ひっう♡
んくぅぅッ
ぱちゅ
ぱん
ぱんっ
ビクッ
ビクンッ
イリオス～
顔見せて
くれよ
わっ
恥ずかし
がらずに
さあ
なっ♡
ううぅ…っ
クルト様…!!
すみません…
こんな…っ
情けない
姿を……!!
ハァ…
ハァッ


奥に…ッ
来るたびに
体が…
変でっ…
きゅうん
自分には
やっぱり
まだ…
早かった
のかも
つまり
……
気持ち良すぎ
るって
ことだろ？
いいんだよ
それで
すみま
せ…ッ
なんか
もぉっ
よく…
分からな
くて
……ッ
ちょっとずつ
慣れていく
もんだろ！
……
がんばり
まふ…
…嫌じゃ
ないん
だよな？
……
…はい
続けて
ほしいです…
お願い
します…！

うぅっ
あっ
ズッ
ヌプッ
ああああ……ッ!!!
ズン
イリオス……ッ!!
んうぅ～～……!!
グプッ
グプッ
んっ
くぅ
ビクッ
ハアッ
ハア
ズッ
まっクルトさ…っ
ズン
ハアッ
止め…ッ♡
ハア…
あっひ…ッ
ビクッ

イリオス…ッ!!
出る…!!!
ビクッ
ビクッ
ハァ
ハァ
ハァ
ああ～～～ッ♡
ドピュッ
ハァ
クルト…さま……♡
ハァッ
人族の目的…か

自分も彼らが何か企んでいることは察していた
自分は性分からか裏工作には向いていないんだ
分かる
多分そういった類の命令を受けているのだと思う

人族にとってクルト様は魔王への切り札に思えます
ドラゴン化を防げるなら尚更のこと…
彼らもそれを知って何が何とでも焦っているのではないだろうか

そっか～…
自分も警戒しておこう
何をしてくるか分から…
そんなことより…
さっきのイリオス可愛かったなあ…
わ…忘れてくれ…

…おい
トリトス
アレはできて
いるんだろう
な……
もちろん
ですよぉ
ゴゾゾ
一応
確認しとくか
一晩中
特別な実を
すり潰して
完成した
これが…
媚薬入り
紅茶です
9割
媚薬じゃ
ねーか!!!!
かき氷
出てきたのかな
と思ったわ
だって
たっぷり
入れろって…
お前これ
出てきたら
飲むか!?
飲み…
ませんね…
怪しまれる
だろ絶対
どうすんだ
でも
もう彼が
来てしまう
かもしれない
何とかこれを
紅茶と思い
込ませよう!
お前
正気かよ
まだかき氷と
して出した方が
いいだろ
ガチャ
やべっ
来ちゃった

どうも～
さすがお気に入りのイリオス君！ちゃんと呼んできてくれました
僕が呼んでも来てくれただろうけどね
ムスッ
…何で拗ねてんだ？
さあさっ座って座って！
おう
ゆっくり紅茶でも飲みながら話しましょうか
ゴゼ
おっ気が利くなあ
どうぞクルト様
すっ…

俺のやつ
砂糖多くね!!?
砂糖だと
思ってくれた～～～!!!
バカでよかった

あ…
あれ～!?
すみません
早く
取り替え
て…
そんな
甘い砂糖じゃ
ねえから
……!!
砂糖としても
無理だろ！
飲んでくれ
ねえだろ～!!

くそ～
溶けねー！
つーか
混ぜにくっ
飲もうとして
くれてる…!!
カチャ
カチャ

どう考えても
あの粉…なにかある!!
あえて彼らの策に乗る
おつもりなのか…!?

だがもし毒であれば…
危険だ……!!
あっそんな
甘くない…
ず…
なんか…
苦…あっ
苦い!!!
腐ってる!?

数分後――…
～～つまり
ブボバボのオスのうんこは高級食材になってるのに
ブボバボのメスのうんこが不味いのにはオスとメスの食生活の違いにあって…
ブボバボのオスは基本的に栄養価の高い植物を――…
媚薬効かねえ～～～～～～～～
つーかこいつの話めちゃくちゃつまらねえ～～～～～!!!!
間違いなく媚薬なんだよなあれ!!!
ひそ
ひそ
普通の人間ならひとつまみで効果抜群なはずです……
っていうかブボバボって何だよ知らねぇよマジで…
お前が間違えたんじゃねえか？
俺も舐めてみよ
ペロ
ペロ
確かにおかしいですね…
…間違えたんですかね……
意外と物知りなんだ…♡
一方ブボバボの話を熱心に聴くカミラ

数分後――…
効くじゃん……
お約束♡

やべぇ…
ちんぽが
熱い…
穴があったら
ハメてぇ…!!!

はあぁ～～～ん…
何でも
いいから
今すぐ
ヤりたい…♡

おい！
お前たち!!
びくっ

さっき
クルト様に
飲ませた
変な粉を
舐めて
いただろう…
様子が
変だが…
いったい何の
薬なんだ？

媚薬!?
何でそんなものをクルト様に
そんなこともうどうでもいいです…
イリオス君私とセッ…
ラズ…
ラズ…
何でそんなことをした
断る
人族に気持ちよくさせられたなんて魔王に知られたくないだろうから
内緒にして欲しかったら言うことを聞け!みたいなそういうことしたかったんですけどもういいです!!!
クルト様には何もしませんから私とセックスしてください!!!
断る
ひどい…全部言ったのに…
ひどいのはどっちだ!!
しかもその作戦無理あるぞ
イリオス…あとは俺に任せてくれないか
クルト様!
俺は大丈夫だからさ
な!
はい…

まあクルト様がああ言うのなら…大丈夫なのだろうな
スタ
スタ…
…それにしてもどうしてクルト様には媚薬が効かなかったのだろう…

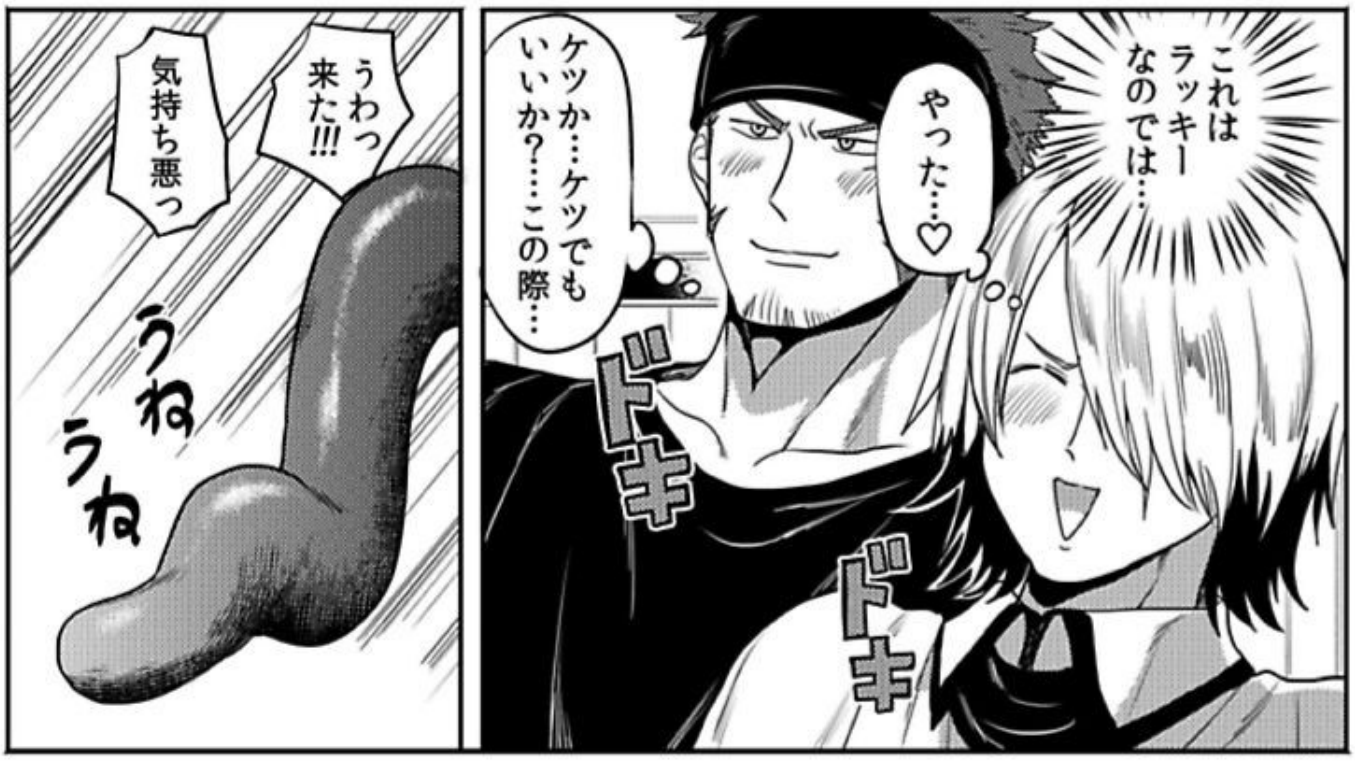
なるほど俺をアルをやっつけようとしたわけだ
悪いやつらめ……
それで俺にやたらと話しかけてきてたのか…
どん!

アル…お仕置きしていいか
うーむ…お前のお仕置きというのは…少し心配だが……
今回は許す…!!人族も悪だくみをしていたわけだし…

ずっと試してみたかったんだけど機会がなくて…
触手のスキル♡
ズッ
3人相手には丁度いいよな

なっなんだ
あの魔法!?
魔法…なのか!?
媚薬も効いて
ねぇし
一体なん
なんだ!!!
ドッ
はなから
私たちの敵う
相手では
なかったのかも
しれません…

や…やっぱり
すごいんだ…!!
さすが僕の
未来の旦那さん!!!
嫌って言っても
やめないからな
覚悟しろ


これは
ラッキー
なのでは…
やった…♡
ケツか…ケツでも
いいか?…この際…
ドキ
ドキ
うわっ
来た!!!
気持ち悪っ
うね
うね

わあぁあっ!?
しょっ…
触手が体にっ!!!
気持ち悪い
……ッ!!!
ヌルッ
ジュル…

それに
触手の液でっ
ドロ
ドロ

ふっ…
服が
溶けて…!!
ヌルッ

彼にこんな…
恥ずかしい姿を
見られるなんて
……っ!!!
ドキ
キスもまだ
なのに…!!!
ドキ
ドキ
かあぁっ

服まで溶ける
とは…
さすがの
エロ特化の
邪神様…
頭でなんとなく
イメージしたら
その通りに
動いてる感じだ…
ウネ
ウネ
ウネ
ウネ
ウネ
触手すげぇ!!!
触手くん
お手！
ウネ
ウネ
ウネ
ウネ
おすわり！
ペタ
ちんちん！
ペタ
あっ…
俺のちんちん
じゃなくて…

かわええやんけ
ハァハァ

あっ…
いかんいかん!!
お仕置き
しなきゃいかん
のだ
ハッ
とはいっても
カミラ以外は
媚薬の効果が…
焦らした方が
お仕置きに
なりそうだな

まずは
お前からだっ!!!
ひいっ
にゅるる…
ガ
バッ

うわぁあんっ
美しい僕がっ
こんな…!!

ビクン

ぬるっ

ぬる…

は…恥ずかしい
〜〜〜〜!!!

んああっ♡

こ…この
触手…

ギュウ

うっ

彼が…クルトが
動かしているのなら
……!!!

ドキ
ドキ

これはもう
彼とセックス
しているような
もの……!?

ドキ

ぬるる〜…
わあぁぁあああっ!!!
それはまだ早っ…
いいいっ♡
ビクッ
グプッ
初めてなのに…ッ
こんなっ…乱暴に…♡♡♡
あぁぁっ♡
すごいっ
ぬるぬるで…ッ

これが愛する者との…
セックス…!!!!
ドキッ♡
はぁ
はぁ
あぁっ
ずるい！
ユーライヌ伯
ばかり！
ぬる
ぬる
あんなの
見せられたら…っ
くそっ…!!
ムラ
ムラ
も…もう
我慢できません…!!!
ムラ
ムラ
クルト様!!
あ…謝ります!!
本当に…
すみませんでした!
貴方と魔王には
一切手は出しま
せんから…!!
ですからどうか
私にも…!!!

よし
いい子だ！
ラニズ君は
どうなんだ？
ラニズ君!!
あなたも…!!
ち…
ちくしょう
多少
腹は立つが
しょうがねえ!!
はぁ
はぁ
俺も反省してる!!!
だから頼む!!
触手で
犯してくれェ!!!
にゅるるる
おおぉっ!!?
ズブッ
あれぇ
私は――!?
ビクッ

おっ
あああっ!?
確かに…ッ
こりや
すげぇっ♡
ケツがっ
イカれ
ちまうっ!!!
媚薬のせいも
あるん
だろうが…ッ
この触手
気持ちよすぎる
ぜ…ッ!!!
んおおお!!!
イクッ!!
すぐ
イっちまう!!!

ああああっ!!!
よかったあぁ♡
無視かと思いましたぁ!!
ヌルヌルが体に纏わりついてっ……
クセになりそうです…ッ♡
ふふあぁっ♡
はぁあっん♡
気持ちいいです～～♡♡
こっちにも……っ♡

3人で犯されるのも楽しいですねぇ！
お前…っ
ほんと悪趣味だよな
はぁ
はぁ
はぁ
うね
うね
あぁっ♡すごいっ♡
こんなに奥まで犯されるなんてっ♡♡
こんなの知っちまったらもう女なんかじゃ満足できねぇだろ…!!!

あぁあっ♡
変なっ感覚が…!!
ビク
ビク
クルト…ッ
僕…ッ
もう……♡♡
君なしじゃ
生きていけない…ッ♡♡♡
あぁっ♡
ビュルルッ
きゅうん
はあぁあんッ♡

……
えぇ…？
ですから!!
是非私を愛人に!!!
今度は触手
でなく
クルト様
ご自身の
立派なおちんぽ
で……♡
おうっ
俺をあんなに
満足させる
なんて大した
やつだぜ!!
俺も愛人に
なりゃいいか!?
またセックス
しようぜ!!!なっ！
何を言っている
貴様ら!!!
触手から滲み出る
クルトから僕への
愛情に気付かな
かったか…!!!
クルトは
高貴で優秀な僕に
こそ相応しい！

君が…その望むなら…
結婚してやってもいいんだぞ…？
もじっ♡
ええ――っ
えーっそんなのズルいですよ
ぎゅっ
ちょ…ちょっと待って嬉しいんだけどマズイって!!!
独り占めはよくねぇよな～
ズイッ

!!!!
ドオン
ひぃぃ～～～…
やっぱり来た…!!!
部屋壊して…
またピクターに
怒られるぞ…

クルトぉおお…!!!!
お仕置きは許可したが…
また愛人を増やすなんて……!!!
ましてや結婚なんて!!絶対許さんからな!!!

落ち着けアル!!ドラゴン化しかけてんぞ!!!
結婚は冗談だって!!なぁ?
僕は本気だが…
!!!!

クルトのバカ――ッ!!!
ぎゃあああああ
ドゴゴォッ

うむ
よく来た
勇者よ
Tシャツ
うううう
う〜〜!!!

だから
イリオスが
来る時くらい
正装しとけ
って言った
じゃん!!!
めっちゃ
仕事中だし!!
勇者と
満を持して
対面する
魔王の姿とは
思えんよ
恥ずか
しい!!!
ペアルック
なんだ…

どうだ
勇者よ
良い服
だと思わ
んか
フフン♪
ドヤ顔で自慢
しちゃったよ

本当に素晴らしい…!!!
どちらで購入されたのですか…?
じっ…
こっちも本気(マジ)のトーンだよ
悪いがこれは特注でな
世界でたった2枚しかないというわけですか…!!!
それもまた魅力的な…
もういいよ!言うほど良くもねぇし本題に入れよ

……この数日間私は様々な魔族と出会い独特な魔族の文化に触れました
素晴らしい経験ができたと…心から感動しております

より一層魔族と人族が共存し争いのない平和な世にしたいという願いが強くなりました
あの…この服…
並ぶの超恥ずかしいんですけど
うむ…余も貴殿と同じ考えだ

平和に敵う
幸せなどない
貴殿のような
人族に出会えて
良かった
ニコ!

私もお二人に
出会えたこと
嬉しく思います!
お二人のご結婚は
まさしく
平和への第一歩
ですからね!

そのこと
なんだけど…
実は俺…
人族じゃ
ないんだ
優しいイリオスに
嘘をついて
いたくない
から言うけど…
邪神…
って言われても
よく分かんない
よな
エロ特化した
変態の神って
感じかな…
えろ…

だから
人族じゃ
なくて…
ごめん…
謝らないで
ください
ペコ…
人族が魔族に
歩み寄り
やすいよう
作られた嘘…
確かに…
みんなを騙している
ことになるのかも
しれませんが…
その嘘で事実
争いの場を減らす
結果となる
ことは違いない
でしょう

ですから…
アルノルト陛下と
クルト様のご結婚は
間違いなく
平和への第一歩
なのです

でも…
嘘をつくと
いうのも
心が痛む
でしょう
平和の為…
何か私が
力になれる
ことがあれば
言って
ください
たいした事は
できませんが…
ぐむむ…

はあ～～～～～……
どうしたよ
なるほどな…
お前が気に入るわけだ
余も彼を気に入った!!

よし!! 今日の夜は2人とも余の部屋に来い!!
ええっ! 陛下の部屋に!?
良いのですか……!?

うむ! 特別に許可する!!
また勝手に…ビクターに怒られるぞ
知らぬっ!!
お前俺に似てきたよな
3人で何すんの?
ニヤ…
ふふっクルトの喜びそうなことだ!

その日の晩…
あぁっ♡
うーん…絶景よのう
あんっ♡
あっ♡
どうだ!?アル！触手は！
触手もよいが…ッ!!!
余はもっとクルトとっ
ふれあって……っああぁっ♡
あっ
ああぁっクルト様……!!
これ…っすごい…!!!
イリオスも気持ちいいか!?
ズッ
ズッ
ぬるっ
はぁ
はぁ
ビクッ
ビクッ
ズプッ
グプッ

全身に絡み付いてっ…!!!
ぬるぬるするっ
へっへっへ器用だろ
変なスキルばかり覚えおって!!
ズッ
ズンッ
こういう繊細な動きもできるんだぜー♡
クリッ
んんっ♡
ビクッ
可愛がってやってくれよ
ハァ
俺のペットみたいなもんだ
ハァッ
クリ
クリ
触手でなくっお前が相手をしろっ!!!
お前がっ!
ズッ
ズッ

んううっ
あっ
激しっ……!!!
これっすべて…クルト様のご意思で…!?
ひあっ♡
これが…神の力…っ!!!
こういうすけべもあるんだな…っ♡
なるほど……っ♡
好き…かもしれないっ…♡

ああぁ〜〜〜〜〜〜〜〜♡♡♡
ビクッ
ハァ
ハァ
ビクッ
ビュルル
ビュルルッ
ビクッ
ビクッ

次の日の朝――

長いようで短い勇者パーティとの交流は終わりの時に近づいていた

別れは嫌だなぁ…

…とか言いつつ俺は昨日の晩のことで頭がいっぱいであった

もん

勇者と魔王を同時に味わえるなんて贅沢～♡

もん

まさかアルの方から3Pの誘いがあるとはあいつもスケベよのぉ～

俺のせいか♡俺のせいだな♡

ちょっとクルト様!!なんて顔してるの!

あっいつもそんな顔か

ひどっ!!!

そんな冷たいキャラだっけ!?

お見送り中なんだから真面目にやってよね
出番なかったから自分のキャラ忘れてんだろ～
もっと俺にデレデレの甘々だったぞ
もおお――!!!怒るよほんとに!!怒るよ!!!
それなら私の方が出番ありませんでしたよ最終話だからとここぞとばかりに出てきますけれども
そうですか
その態度…♡
ハイハイ
ハァハァ
ふうぅん♡
今日はアルもさすがに正装か……!!!
ビクターに止められたからな…
ムスー
ホッ…
全員に見せびらかしたかったのに
あのぅ…みなさん!

この数日間…本当にお世話になりました!!
どっ
ちゃり
荷物すごいね……
余が土産をやったのだ!!
フフン♪
お前がやったんかい
ごめんな迷惑だったら道中で捨てて…
いえ…!!すごく嬉しいです…!!!
このブボバボサブレというのも愛らしいですし
え――!!?
そんなのあんの!?俺それ知らない!!!
ブボバボ…!!
すまんなお前への土産だというのに…
まだ5個もありますのでいいのですよ
こんなにたくさんありがとうございます

ようクルト!!!
お別れだな～
……
寂しくなりますねぇ…
クルトっ!!!
ぎゅっ
必ずまた会いにくるからな…!!!
次に会った時は結婚を……
ズイッ
結婚は無理だけど楽しみにしてるよ
こっちに引っ越そうとも考えているのだが…
…マジ？
わはははは!!すごい変貌ぶりじゃのう！

ミニーちゃん
じゃ〜!!
じゃ〜ん!!
人族の連中
最初はお前のことも
嫌っておったようなのに…
これも
神の力
なのかの?
知ってたの!?
何年
生きてると
思っとる
そうだな…
邪神の力の
おかげなのかも
しれない…
それでも
憎み合うよりは
この方が……
な〜に
真に受けとる!!
じょーだんじゃ
いくら
神様でも
人の心
までは
操れまい
皆を引き
付けるのは
クルト自身の
力じゃ

クルト！
名残惜しいが
もう行かねば
ならない…
…！
そっか…

変態で阿呆
ではあるが…
まあそれも
良いとこじゃ
わっはっは
はは…

儂もまた
会いにくるぞ

人族に
魔族のことを
理解してもらう
のは難しいと
思う…
だが
もし勇者の
称号を剥奪
されたとしても
…皆に共存の
道を歩んで
もらえるよう
努力するつもりだ

俺たちも
協力する
頑張ろう！
イリオス!!
はいっ!!!

遠ざかる
イリオスを
見つめながら

俺はイリオスに
「勇者の中の勇者」
という
称号を贈った

彼が今後
どんな困難も
乗り越えて
いけますようにと
願いを込めて…

そして俺には
いつも通りの
生活が戻った

あー
寂すぃ～～～

ぐず～～

みんなに
会いたい～
会いたい
よおぉ～～～

こら！
ぐずぐず
するな!!
こっちまで
さみしく
なる!!

あ…そうだ！
寂しさを
紛らわすために
旅行にでも
行こうぜ!!!

ハネムーン
的なさ!!

はねむ…？

それは何だ？

新婚旅行だよ
結婚した
記念みたいな
もんじゃ
ねえの？

前世ではそういう
習慣があったんだ

何故それを
早く言わぬ!!!!

仕事は後
まわしだ！

ん!!

今から行くぞ!!!
新婚旅行!!!!

ば

え…

ガタン
ガラララ
お前
めちゃくちゃ
だなもう…
飽きないよ
アルといたら
ビクターが
追いかけてくる
前に竜車に
乗れたな…!!!
グタン

それは
こっちの
台詞だ
お前と
いると…
いや～
本当に
フェリクスは
良いものを
開発して
くれました
ジジー…
ガラ
ガラ

通信機を
置いて
行かれた点は
良い判断かと
思われます
余は
これから…
どうせ別荘地に
行くまで時間が
おありでしょう
私が今から
至急の案件書類を
読み上げますので
合否をお答えください

むぅ…
仕事を放り出して行くからでしょう
まず1件目ですが…
いつも通りのアルとビクターのやり取りもなんだか心地いい
やっぱり俺はこの世界が好きだな
わーっ
いいとこだなー！
綺麗な湖と一面の花畑!!
……此処は母上が最後に暮らした場所なのだ
クルトと遠出をする時は絶対に此処だと決めていた

母上はこの場所が好きだった…
……魔王様は忙しいもんな
もしかして墓もここに？
いや…墓はない
母上の亡骸は余と父上で食ったからな
食っ……
元が人族のお前には信じられぬ話かもしれないがドラゴニアン族のしきたりでな
オヴィスアリエス族の父上はそれに倣う必要はなかったが母上の心臓は自分がと譲らなかった

そっかー…
あんまり考えたくないけど
アルが死んだ時は俺が食わないとな
無理をする必要はない
お前はドラゴニアン族ではないからな
いや…俺は食べたいな
アルが死んでも俺の中で生き続けるとか
そういうわけじゃないけどさ
…なんとなく親父さんの気持ち分かるよ
ていうか俺邪神だし取り込もうと思えば取り込めるんじゃないかなー
あっでも一応死ぬときは人型で頼……
ギュ
？…

そして
俺はまた
日常に戻る

大好きな
人たちがいる
俺の大好きな
日常に！